

全国異常気象概況

＜台風や大雨、風雪等による災害＞

平成21年

(2009年)

平成22年3月

気象庁

—— 目 次 ——

1	平成21年(2009年)の気象災害(台風や大雨、風雪等による災害).....	1
1-1	気象の特徴	1
1-2	主な気象災害.....	1
	資料1-1 平成21年(2009年)激甚災害指定状況一覧表.....	25
2	平成21年(2009年) 台風の概要	27
2-1	平成21年(2009年)に発生した台風.....	27
	資料2-1-1 台風発生数一覧表	28
	資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表.....	29
	資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表.....	30
	資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表	31
	資料2-1-5 平成21年(2009年)に発生した台風の一覧表.....	32
2-2	平成21年(2009年)に日本に影響した主な台風	33
	資料2-2-1 平成21年(2009年)に日本に影響した台風の概要表....	36
	資料2-2-2 平成21年(2009年)に発生した台風の経路図.....	37
3	平成21年(2009年)の天気概況.....	41

本資料は、人的被害や社会活動に大きな影響のあった主な気象災害の概況や台風などについて、気象庁予報部において取りまとめたものである。

1 平成21年(2009年)の気象災害(台風や大雨、風雪等による災害)

1-1 気象の特徴

日本海側の降雪量は少なかった

1、2月と日本海側の地方の降雪量は少なかった。

4、5、6月は東日本日本海側、西日本で降水量が少なかった

4月は高気圧に覆われて晴れの日が多く、5、6月と低気圧や前線の影響が小さく、東日本日本海側や西日本では降水量がかなり少なかった。特に西日本では農業用水、工業用水の取水制限などの措置がとられた。

7、8月に各地で大雨

7月から8月前半にかけ、北日本では低気圧が発達しながら頻繁に通過し大雨となった。7月後半には梅雨前線の活動が活発となり、西日本を中心に各地で大雨となった。特に、7月19日から26日にかけては、中国地方から九州北部地方にかけ記録的な大雨となり、浸水害や土砂災害に見舞われ、「平成21年7月中国・九州北部豪雨」と命名された。また、8月8日から11日にかけ、台風第9号が日本の南海上を東進し、日本列島に非常に湿った空気をもたらし、東日本から西日本にかけ記録的な大雨となった。

梅雨入りは本州で早く、梅雨明けは全国的に遅かった

梅雨入りは、沖縄地方から九州南部にかけては遅く、九州北部地方から東北地方にかけては早かった。梅雨明けは、太平洋高気圧の日本列島付近への張り出しが弱く、このため、多くの地方で梅雨明けが遅くなったほか、梅雨明けが特定できなかった地方もあった。

2年ぶりに台風上陸も、発生数は少なかった

10月8日には2007年9月以来2年ぶりに台風第18号が上陸し、東日本から北日本を縦断、各地で暴風や大雨となった。発生数は22個で平年値(26.7個)を下回った。接近数は8個と平年値(10.8個)を下回った。

1-2 主な気象災害

ここでは、平成21年(2009年)に発生し、人的被害や社会活動に大きな影響があった主な気象災害の概況について、おおむね発生日順に災害番号(括弧内番号)を付けて記述した。また、災害番号に続けて、災害期日・地域、()内に災害の種類、< >内に気圧配置などの気象状況を記した。災害の種類別(大雨、大雪、強風、突風、落雷・降ひょうなど)の一覧表を表1.1に示す。

被害の具体的な数値は、総務省消防庁、国土交通省の資料および地方気象台等が国や都道府県の防災機関等から入手し気象庁観測部統計室が取りまとめた資料による。また、地方気象台等が行った竜巻の被害状況等調査報告等も参考にした。

表 1.1 災害の種類別の番号一覧表

災害名	災害番号
大雨(豪雨を含む)	(1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)、(7)、(9)、(11)、(12)、(14)、(18)
暴風	(1)、(2)、(3)、(4)、(14)
突風(竜巻を含む)	(8)、(10)、(15)、(16)、(17)
その他	(1)、(2)、(3)、(4)、(13)、(14)

(1)1月30日～2月1日：西日本から北日本(暴風、大雨、高波) <低気圧>

低気圧が九州の南海上から関東の東海上をとおって、千島近海へと進んだ。九州南部、近畿地方、東海地方、北陸地方、関東甲信地方では大雨となったところがあった。低気圧通過後、冬型の気圧配置となり、東日本や北日本の一部で暴風となったほか、沿岸では大しけとなったところもあった。

高波などにより、岩手県、三重県、鹿児島県で死者・行方不明者4名となったほか、三重県を中心に大雨による住家浸水があった。また、暴風・強風により、茨城県でパイプハウスの倒壊などの農業被害が発生したほか、岩手県、宮城県、茨城県で停電が発生した。さらに、東北地方、関東甲信地方、北陸地方、近畿地方で、遅延や運休などの交通障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

1月30日

九州の南海上に発生した低気圧が紀伊半島沖へ進んだ。鹿児島県で1時間に50ミリを超える非常に激しい雨が降り、三重県、和歌山県、鹿児島県の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

三重県尾鷲市尾鷲	125.5 ミリ	和歌山県新宮市新宮	115.0 ミリ
鹿児島県奄美市名瀬	103.0 ミリ		

1月31日

低気圧が東海道沖を発達しながら関東の東海上へ進んだ。三重県で1時間に50ミリを超える非常に激しい雨が降り、千葉県、静岡県、新潟県の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。北海道、東北南部、関東甲信の一部で最大風速が20メートルを超える暴風となった。東日本の太平洋側の一部で大しけとなった。

[主な日雨量]

千葉県茂原市茂原	115.5ミリ	静岡県御前崎市御前崎	117.0ミリ
新潟県糸魚川市平岩	111.0ミリ		

[主な最大風速]

宮城県女川町江ノ島	北北東	29.5	メートル	[13:48]
千葉県銚子市銚子	北北西	24.5	メートル	[12:34]
北海道えりも町えりも岬	北北東	21.9	メートル	[17:28]
東京都神津島村神津島	南東	20.4	メートル	[01:02]
東京都三宅村三宅坪田	南南東	20.3	メートル	[04:24]

2月1日

低気圧が日本の東海上で発達し、日本付近は冬型の気圧配置となった。近畿地方および東日本から北日本の太平洋沿岸や、北陸から東北地方の日本海側の沿岸の一部で、しけとなった。

(2)2月20日～21日：西日本から北日本(暴風、大雨、高波) <低気圧>

四国の低気圧が発達しながら本州南岸、釧路沖を通過して千島の東海上へ進んだ。近畿南部の一部で大雨となったほか、北日本から東日本の一部で暴風となり、東日本から北日本の沿岸の一部で大しけとなった。

暴風により、青森県を中心に住家損壊や、農業および水産業被害、および停電が発生した。また、北海道を中心に鉄道や航空機の運休や遅延などの交通障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

2月20日

四国の低気圧が発達しながら本州南岸を通り、釧路沖へ進んだ。和歌山県で日雨量が100ミリを超える大雨となった。東京都、新潟県、秋田県、青森県などで最大風速が20メートルを超える

暴風となった。また、近畿地方、東海地方の一部と、青森県、北海道の日本海沿岸の一部で大しけとなった。

[主な日雨量]

和歌山県串本町潮岬	106.5 ミリ	和歌山県古座川町西川	95.0 ミリ
-----------	----------	------------	---------

[主な最大風速]

東京都三宅村三宅坪田	南南西	25.1	メートル	[10:39]
青森県外ヶ浜町蟹田	西	24.2	メートル	[23:13]
新潟県佐渡市相川	西北西	23.6	メートル	[17:38]
秋田県秋田市雄和	西北西	21.2	メートル	[23:42]
高知県室戸市室戸岬	南	20.3	メートル	[01:23]

2月21日

千島近海へ進んだ低気圧が発達しながらさらに千島の東海上へ進んだ。北海道と東北の一部で最大風速が20メートルを超える暴風となった。また、北海道のオホーツク海沿岸と太平洋沿岸の一部で大しけとなった。

[主な最大風速]

北海道弟子屈町弟子屈	北北西	27.9	メートル	[07:51]
山形県酒田市飛鳥	西北西	25.7	メートル	[00:50]
青森県野辺地町野辺地	西	21.1	メートル	[00:51]

(3)3月13日～14日:西日本から北日本(暴風、大雨、高波) <低気圧>

低気圧が発達しながら対馬海峡から日本海中部をとってサハリンの東海上へ進み、この低気圧からのびる前線が西日本から北日本を通過した。このため、九州地方、四国地方、東海地方、北海道では大雨となったところがあり、北日本の一部で最大風速が20メートルを超える暴風となった。また、北日本の日本海沿岸の一部で大しけとなった。

暴風により、島根県、鳥取県、新潟県を中心に住家損壊や農業および水産業被害、停電が発生した。また、北日本から西日本の広い範囲で、列車や航空機の運休・遅延などの交通障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

3月13日

九州の西海上の低気圧が発達しながら日本海中部へ進み、伴う前線が沖縄本島から東日本を通過した。九州地方と四国地方の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。九州地方、四国地方、中国地方の一部で最大風速が20メートルを超える暴風となった。

[主な日雨量]

高知県香美市繁藤	148.0 ミリ	山口県周南市和田	115.5 ミリ
宮崎県えびの市えびの	102.5 ミリ	徳島県海陽町海陽	101.5 ミリ

[主な最大風速]

高知県室戸市室戸岬	南	25.2	メートル	[21:11]
長崎県新上五島町頭ヶ島	南南東	23.1	メートル	[04:45]
愛媛県伊方町瀬戸	南南東	22.7	メートル	[11:27]
島根県益田市高津	南南東	22.5	メートル	[11:53]
鳥取県鳥取市湖山	南南東	21.8	メートル	[14:51]

3月14日

日本海中部の低気圧がサハリンの東海上へ進み、伴う前線が本州を通過した。北海道と東海地方の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。北海道、東北地方、関東甲信地方の一部で最大風速が20メートルを超える暴風となった。また、北日本の日本海沿岸の一部で大しけとなった。

[主な日雨量]

北海道えりも町目黒	109.0 ミリ	静岡県浜松市浜松	133.0 ミリ
-----------	----------	----------	----------

[主な最大風速]

北海道えりも町えりも岬	西南西	24.4	メートル	[23:50]
山形県酒田市飛島	西	23.7	メートル	[18:12]
東京都三宅村三宅坪田	南南西	22.7	メートル	[08:41]
北海道釧路町知方学	南	22.4	メートル	[06:51]
青森県八戸市八戸	西南西	21.2	メートル	[21:12]

(4) 4月25日～26日:西日本から北日本(暴風、大雨、高波) <低気圧>

九州の西海上の前線を伴った低気圧が発達しながら、関東の東海上、三陸沖をとって北海道の東海上へと進んだ。このため、西日本、東日本、北日本の一部で大雨となり、西日本の一部では暴風となった。

この期間に、後立山連峰・鳴沢岳(標高2,641メートル)方面で、京都府立大学山岳部3名が遭難し、全員の死亡が確認された。暴風により、北海道、岩手県、福島県を中心に、住家損壊、住家損壊や農業および水産業被害、停電が発生した。また、新潟県や千葉県を中心に、鉄道や航空機の運休・遅延など、交通障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

4月25日

九州の西海上の前線を伴った低気圧が発達しながら関東の東海上へ進み、別の低気圧が日本海西部に発生した。九州地方、四国地方、近畿南部、東海地方および関東甲信地方の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。東京都の一部では最大風速が20メートルを超える暴風となった。

[主な日雨量]

鹿児島県屋久島町屋久島	184.5	ミリ	和歌山県串本町潮岬	123.5	ミリ
東京都三宅村三宅島	115.0	ミリ	三重県鳥羽市鳥羽	115.0	ミリ
徳島県美波町日和佐	103.0	ミリ	長崎県五島市福江	102.5	ミリ

[主な最大風速]

東京都三宅村三宅坪田	南南西	20.7	メートル	[17:07]
------------	-----	------	------	---------

4月26日

関東の東海上の低気圧が発達しながら三陸沖へ進んだ。北海道と東北北部の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。また、北海道えりも町えりも岬では、17時32分に最大風速34.3メートルを観測するなど、九州地方、四国地方、中国地方、近畿南部、北陸、北海道の一部で最大風速が20メートルを超える暴風となった。東北北部と北海道の太平洋沿岸の一部で大しけとなった。

[主な日雨量]

岩手県岩泉町小本	169.0	ミリ	北海道函館市川汲	130.0	ミリ
青森県八戸市八戸	109.5	ミリ			

[主な最大風速]

北海道えりも町えりも岬	北北東	34.3	メートル	[17:32]
北海道根室市納沙布	東北東	21.7	メートル	[21:11]
和歌山県和歌山市友ヶ島	西北西	23.0	メートル	[03:50]
島根県隠岐の島町西郷岬	西北西	21.4	メートル	[06:03]
鳥取県鳥取市湖山	西	21.1	メートル	[07:53]
鹿児島県西之表市種子島	西北西	20.5	メートル	[00:08]
高知県室戸市室戸岬	西北西	20.3	メートル	[03:51]
新潟県佐渡市相川	西南西	20.2	メートル	[22:07]

(5) 6月22日～23日:西日本、北陸地方、北海道(大雨) <梅雨前線>

6月22日から23日にかけて、梅雨前線の活動が活発となり、西日本から北日本の広い範囲で大雨となった。

この大雨により、愛知県で住家浸水が発生したほか、岐阜県、島根県、鳥取県で土砂災害が発生した。さらに、北海道では道路損壊が発生したほか、鳥取県では、農業被害も発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

6月22日

華北から東北地方にかけて梅雨前線がのび、また朝鮮半島の低気圧が発達しながら北海道の西海上へ進んだ。九州北部、中国地方、近畿地方、東海地方、北陸地方、甲信地方の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

島根県大田市大田	173.5 ミリ	広島県庄原市高野	162.5 ミリ
鳥取県大山町大山	159.0 ミリ	岐阜県白川村御母衣	143.0 ミリ
石川県加賀市栢野	137.0 ミリ	福井県坂井市春江	122.0 ミリ
岡山県鏡野町恩原	114.5 ミリ	兵庫県新温泉町温泉	109.5 ミリ
熊本県南阿蘇村阿蘇山	104.0 ミリ	長野県王滝村御嶽山	103.5 ミリ

6月23日

北海道の西海上の低気圧がサハリンの西海上へ進み、梅雨前線が日本付近を通って華中までのびた。東シナ海の熱帯低気圧が前線上の温帯低気圧に変わって、九州の西海上へ進んだ。鹿児島県および宮崎県の一部で、1時間雨量が50ミリを超える非常に激しい雨が降った。また、日雨量が鹿児島県肝属郡南大隅町佐多 278.5 ミリ、宮崎県えびの市えびの 219.5 ミリなど、九州南部の一部で200ミリを超える大雨となったほか、九州南部および北海道の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

鹿児島県南大隅町佐多	278.5 ミリ	宮崎県えびの市えびの	219.5 ミリ
北海道標津町糸櫛別	150.0 ミリ		

(6)6月28日～7月2日:九州北部、近畿南部、北陸地方(大雨)<梅雨前線>

6月28日から7月2日にかけて梅雨前線の活動が活発となり、西日本と北陸の一部で大雨となった。

この大雨により、熊本県や鹿児島県などで住家浸水が発生したほか、九州北部を中心に、道路損壊、土砂災害が発生した。また、広島県では、畑の崩落による農業被害が発生したほか、九州地方、中国地方で、鉄道や航空機の運休・遅延等の交通障害が発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

6月28日

九州の南部から四国沖へのびる梅雨前線が北上して九州の北部に停滞し、前線上の四国沖に低気圧が発生して関東の東海上へ進んだ。鹿児島県の一部で、1時間雨量が50ミリを超える非常に激しい雨が降った。鹿児島県指宿市指宿で235.0ミリなど、鹿児島県ではところにより200ミリを超える大雨となったほか、鹿児島県の一部では日雨量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

鹿児島県指宿市指宿	235.0 ミリ	鹿児島県肝付町肝付前田	223.5 ミリ
-----------	----------	-------------	----------

6月29日

九州の北部に位置していた梅雨前線が北上して中国地方から近畿にかけて停滞し、関東の東海上の低気圧が前線から離れて東へ進んだ。前線上の日本海西部に別の低気圧が発生し、日本海中部へ進んだ。熊本県の一部で、1時間雨量が50ミリを超える非常に激しい雨が降った。日雨量は、大分県日田市椿ヶ鼻で266.0ミリ、熊本県山鹿市鹿北で233.5ミリ、福岡県大牟田市大牟田で214.0ミリなど、九州北部でところにより200ミリを超える大雨となり、また、中国地方の一部と

九州北部の広い範囲で、日雨量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

大分県日田市椿ヶ鼻	266.0 ミリ	熊本県山鹿市鹿北	233.5 ミリ
福岡県大牟田市大牟田	214.0 ミリ	広島県広島市三入	158.5 ミリ
山口県岩国市羅漢山	149.5 ミリ	長崎県諫早市五家原岳	125.5 ミリ
佐賀県太良町多良岳	115.0 ミリ		

6月30日

中国地方から近畿にかけて梅雨前線が停滞し、前線上の東シナ海に低気圧が発生して九州の西海上へ進んだ。熊本県と大分県の一部で、1時間雨量が 50 ミリを超える非常に激しい雨が降った。九州北部および四国地方の一部で日雨量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

福岡県添田町英彦山	182.5 ミリ	大分県日田市椿ヶ鼻	162.0 ミリ
熊本県山都町間の谷山	157.5 ミリ	愛媛県内子町獅子越峠	127.0 ミリ
佐賀県唐津市八幡岳	104.5 ミリ		

7月1日

梅雨前線が九州から関東南部にかけて停滞し、前線上の対馬海峡の低気圧が北陸へ進んだ。福岡県と佐賀県の一部で、1時間雨量が 50 ミリを超える非常に激しい雨が降った。九州北部と北陸の一部で日雨量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

福岡県添田町英彦山	142.0 ミリ	石川県七尾市七尾	137.0 ミリ
佐賀県唐津市枝去木	108.5 ミリ	熊本県南小国町南小国	108.5 ミリ

7月2日

梅雨前線が九州の南海上から本州の南岸を通過して三陸沖に停滞し、前線上の低気圧が関東の東海上から三陸沖へ進んだ。和歌山県の一部で大雨となった。

[主な日雨量]

和歌山県古座川町西川	63.5 ミリ	和歌山県那智勝浦町色川	51.5 ミリ
------------	---------	-------------	---------

(7)7月5日～7日:和歌山県(大雨)<梅雨前線>

7月5日から7日にかけて、梅雨前線が日本付近に停滞し、湿った空気が流れ込んで、前線の活動が活発となった。

この大雨により、和歌山県で死者 1 名、負傷者 6 名が発生した。また、和歌山県田辺市を中心に、住家浸水 180 棟となったほか、土砂災害が発生した。また、落雷により、京都府や奈良県で停電が発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

7月5日

梅雨前線が九州の南海上から関東の東海上にかけて停滞し、前線上の九州の南海上の低気圧が前線から離れて九州の西海上へ進んだ。和歌山県で大雨となった。

[主な日雨量]

和歌山県串本町潮岬	88.0 ミリ	和歌山県新宮市新宮	74.0 ミリ
-----------	---------	-----------	---------

7月6日

梅雨前線が九州の南海上から本州南岸を通過して関東の東海上にかけて停滞した。和歌山県の一部で、1時間雨量が 50 ミリを超える非常に激しい雨が降った。三重県および和歌山県で日雨量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

三重県御浜町御浜	126.5 ミリ	和歌山県白浜町白浜	119.5 ミリ
----------	----------	-----------	----------

7月7日

華北から黄海を通過して日本海西部に梅雨前線が停滞し、前線上の黄海に低気圧が発生して日本海西部へ進んだ。南から湿った空気が流れ込んだ影響で和歌山県の一部では日雨量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

和歌山県みなべ町虎ヶ峰峠 183.0 ミリ 和歌山県田辺市龍神 140.0 ミリ

(8) 7月19日：岡山県美作市(突風(竜巻)) <梅雨前線、大気不安定>

日本海にある梅雨前線が中国地方まで南下した。梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が入り、発達した積乱雲が次々と岡山県北部を通過した。

19時頃、岡山県美作市の岩見田、安蘇、下山、上尾原、尾原、尾谷の各地区において、突風が発生した。各地区において突風をもたらした現象は、被害の発生時刻に被害地付近を活発な積乱雲が通過中であったこと、主な被害域は、断続的であるが北西から南東に長さ約6キロメートル、幅約200メートルの帯状に分布していたこと、被害や痕跡から推定した風向から、竜巻の被害に特徴的な収束の傾向が確認されたこと、安蘇地区の証言から突風は非常に短い時間であったこと、安蘇地区で、突風の風向は東から西に変わった、南から北に変わったなどの、渦の通過を示唆する複数の証言があったこと、漏斗雲とみられる雲の垂れ下がりが、被害発生時刻頃に被害地方向を通過していたとの目撃証言があったことなど、一連の被害は、断続的ではあるが、山や川以外ではほぼ連続的で、被害発生時刻もほぼ同じ、赤磐市から漏斗雲とみられる雲が連続的に移動していくのが目撃されていることなどから、同一の竜巻によるものと推定した。

この竜巻の強さは、家の屋根が剥ぎ取られる被害が複数あったこと、自動車が飛ばされる被害が複数あったことから、藤田スケールでF2と推定した。

この竜巻により、負傷者2名、住家の全壊2棟、半壊11棟などの被害が発生した。

(9) 7月19日～26日：平成21年7月中国・九州北部豪雨 <梅雨前線>

7月19日から26日にかけて、西日本で梅雨前線の活動が活発になった。

21日は山口県を中心に大雨となり、山口県防府市防府では22日4時50分までの24時間雨量が275.0ミリに達した。その後、24日から26日にかけて、広島県、福岡県、佐賀県、長崎県を中心に大雨となった。福岡県福岡市博多で24日19時25分までの1時間に116.0ミリを観測するなど、局地的に1時間に100ミリを超える猛烈な雨が降ったほか、24日0時から26日24時までの3日間の雨量は、福岡県太宰府市太宰府で618.0ミリ、福岡県飯塚市飯塚で568.0ミリ、佐賀県佐賀市権現山で458.5ミリとなった。19日から26日までの総雨量は、大分県日田市椿ヶ鼻で702.0ミリ、福岡県太宰府市太宰府で636.5ミリなどとなり、ところによっては、この期間の雨量が7月の月間降水量平年値の2倍近くとなった。

この大雨により、広島県、山口県、福岡県、佐賀県、長崎県において死者が34名となり、特に、山口県防府市では土石流や山崩れにより死者が17名にのぼった。また、山口県、福岡県を中心に住家の浸水が約12,000棟となるなど各地で浸水害や土砂災害が発生した。その他、停電、断水が発生し、交通障害が発生した。(被害の状況は総務省消防庁などによる(平成22年2月8日16時現在))

この7月19日から26日にかけて災害をもたらした大雨について、気象庁は「平成21年7月中国・九州北部豪雨」と命名した。

7月19日

山陰沖から津軽海峡を通過して北海道の東海上にのびる梅雨前線に向かって湿った空気が流れ込んだ。島根県の一部で1時間に50ミリを超える非常に激しい雨が降り、山陰の一部で日雨量100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

鳥取県大山町大山 151.5 ミリ 島根県安来市伯太 116.5 ミリ
島根県雲南市大東 116.5 ミリ

7月20日

対馬海峡から近畿南部に梅雨前線が停滞し、梅雨前線に向かって湿った空気が流れ込んだ。中国地方や九州北部の一部で1時間に50ミリを超える非常に激しい雨が降り、中国地方や九州北部の広い範囲で日雨量100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

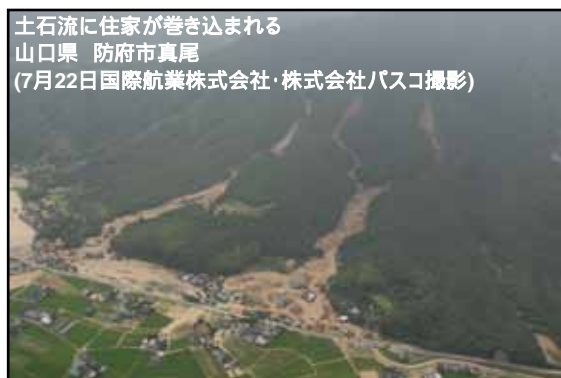
広島県安芸太田町内黒山	187.5 ミリ	大分県日田市椿ヶ鼻	187.5 ミリ
島根県益田市匹見	173.0 ミリ	山口県岩国市羅漢山	164.0 ミリ
熊本県南小国町南小国	131.0 ミリ		

7月21日

山陰沖から本州南岸を通過して日本の東海上にのびる梅雨前線に向かって湿った空気が流れ込んだ。21日の7時50分までの1時間に山口県美祢市桜山で90.5ミリの猛烈な雨、山口県防府市防府では9時18分までの1時間に72.5ミリの非常に激しい雨が降り、24時間雨量が山口県防府市防府で275.0ミリとなるなど、山口県ではところにより1日で7月の月間降水量平年値を超える雨が降った。また、広島県、大分県、熊本県で日雨量100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

山口県防府市防府	275.0 ミリ	山口県山口市山口	277.0 ミリ
広島県北広島町八幡	121.5 ミリ	大分県豊後大野市温見	115.5 ミリ
熊本県阿蘇市阿蘇乙姫	110.0 ミリ		



7月22日

梅雨前線が九州の南海上から本州南岸に停滞した。長崎県と熊本県の一部では1時間に50ミリを超える非常に激しい雨が降り、大分県と熊本県では日雨量100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

熊本県高森町高森	154.0 ミリ	大分県豊後大野市犬飼	110.0 ミリ
----------	----------	------------	----------

7月23日

梅雨前線は九州の南海上から日本の南海上まで南下し、中国地方や九州北部は晴れまたは曇りの天気となった。日中はところにより弱い雨が降った。梅雨前線は夜には九州南部まで北上した。

7月24日

梅雨前線が九州北部まで北上し、九州の西海上の低気圧が対馬海峡へ進んだ。梅雨前線と低気圧に向かって湿った空気が流れ込んだ。24日には、16時32分までの1時間に長崎県壱岐市芦辺で103.0ミリ、16時55分までの1時間に長崎県壱岐市石田で111.0ミリ、19時25分までの1時間に福岡県福岡市博多で116.0ミリ、19時30分までの1時間に福岡県篠



栗町篠栗で 100.5 ミリ、19 時 52 分までの 1 時間に福岡県飯塚市飯塚で 101.0 ミリとなるなど、九州地方ではところにより 1 時間に 80 ミリを超える猛烈な雨が降った。また、日雨量が長崎県壱岐市芦辺で 313.0 ミリ、福岡県飯塚市飯塚で 289.5 ミリ、佐賀県太良町多良岳で 202.5 ミリとなるなど、九州北部でところにより日雨量が 300 ミリを超える大雨となり、また、中国地方の一部と九州北部の広い範囲で、日雨量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

長崎県壱岐市芦辺	313.0 ミリ	福岡県飯塚市飯塚	289.5 ミリ
佐賀県太良町多良岳	202.5 ミリ	山口県下関市下関	151.5 ミリ
熊本県山鹿市鹿北	134.5 ミリ	広島県呉市呉	114.5 ミリ

7月25日

梅雨前線が九州北部から山陰沖に停滞した。九州の西海上の梅雨前線上の低気圧が日本海中部へ進んだ。梅雨前線と低気圧に向かって引き続き湿った空気が流れ込んだ。広島県と九州北部の一部では 1 時間に 50 ミリを超える非常に激しい雨が降った。また日雨量が福岡県久留米市耳納山で 203.5 ミリ、熊本県益城町益城で 201.0 ミリとなるなど、九州北部でところにより日雨量が 200 ミリを超える大雨となり、また、中国地方の一部と九州北部の広い範囲で日雨量が 100 ミリを超える大雨となった。



[主な日雨量]

福岡県久留米市耳納山	203.5 ミリ	熊本県益城町益城	201.0 ミリ
広島県呉市呉市蒲刈	184.5 ミリ	大分県玖珠町玖珠	172.5 ミリ
長崎県佐世保市佐世保	170.5 ミリ	佐賀県唐津市和多田	164.0 ミリ
山口県下関市下関	110.0 ミリ		

7月26日

梅雨前線が九州北部から中国地方に停滞した。九州の西海上の梅雨前線上の低気圧が九州北部を通過して山陰沖へ進んだ。梅雨前線と低気圧に向かって引き続き湿った空気が流れ込んだ。9 時 21 分までの 1 時間に長崎県松浦市松浦で 81.0 ミリ、11 時 18 分までの 1 時間に福岡県那珂川町九千部山で 80.0 ミリの猛烈な雨が降ったほか、九州北部の一部で 1 時間に 50 ミリを超える非常に激しい雨が降った。日雨量は、福岡県那珂川町九千部山で 309.5 ミリ、佐賀県嬉野市嬉野で 211.5 ミリとなるなど、九州北部でところにより日雨量が 300 ミリを超える大雨となり中国地方の一部と九州北部の広い範囲で日雨量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

福岡県那珂川町九千部山	309.5 ミリ	佐賀県嬉野市嬉野	211.5 ミリ
長崎県佐世保市国見山	188.0 ミリ	熊本県天草市本渡	109.0 ミリ
島根県吉賀町吉賀	105.0 ミリ		

(10)7月27日:群馬県館林市(突風(竜巻))< 大気不安定 >

7月27日は、梅雨前線が九州の南海上から北陸地方を通過して東北地方にのびていた。前線に向かって南から湿った空気が流れ込み、関東地方では大気の状態が非常に不安定であった。群馬県南部では14時頃、活発な積乱雲が通過していた。

14時過ぎ、群馬県館林市大谷町付近から細内町付近にかけて突風が発生した。この突風をもたらした現象は、被害の発生時刻に被害地付近を活発な積乱雲が通過中であったこと、14時10分頃、被害地の上空で漏斗雲を撮影した映像や目撃証言が複数あったこと、被害地付近を、ものを巻き上げながら東に移動する渦の映像や目撃証言が複数あったこと、被害は、長さ約6.5キロメートル、

幅約50メートルの帯状に分布していたこと、被害や痕跡から推定される風向はおおむね西よりであったが、一部で収束性が認められたことから、竜巻と認められた。

この突風の強さは、多数の住家の瓦が飛散したこと、複数の住家の屋根の飛散や複数の自動車が横転がみられたが、周囲の状況からF2との特定には至らなかったことから、藤田スケールでF1またはF2と推定した。

この竜巻により、負傷者21名、住家の全壊14棟、一部損壊24棟などの被害が発生した。

(11)8月6日～7日:九州南部、四国地方、関東甲信地方(大雨)<大気不安定>

空気の影響で大気の状態が不安定となり、西日本から東日本にかけて大雨となったところがあった。

この大雨により、長野県、新潟県などで住家浸水が発生したほか、土砂災害が発生した。また、群馬県では林業被害が発生した。(被害の状況は気象庁調べによる)

8月6日

南からの湿った空気の影響で大気の状態が不安定となった。東京都と群馬県の一部で、1時間に50ミリを超える非常に激しい雨が降った。九州南部と関東甲信地方の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

東京都神津島村神津島	137.0ミリ	宮崎県美郷町中小屋	113.5ミリ
------------	---------	-----------	---------

8月7日

南からの湿った空気の影響で大気の状態が不安定となった。17時34分までの1時間に茨城県笠間市笠間で81.5ミリの猛烈な雨が降ったほか、高知県、群馬県、茨城県の一部で1時間に50ミリを超える非常に激しい雨が降った。関東甲信地方の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

茨城県常陸太田市中野	104.0ミリ	茨城県笠間市笠間	99.5ミリ
------------	---------	----------	--------

(12)8月9日～11日:西日本から東日本(大雨)<台風第9号>

8月8日9時に硫黄島の南西海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、9日15時に日本の南海上で台風第9号となった。台風は、次第に向きを北東へ変え、10日9時に勢力が最大となった。台風は、勢力を弱めながら本州南岸を東へ進み、進路を北に変えた直後の13日9時に日本の東海上で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は、北東へ進路を変え、14日21時に日本のはるか東海上で温帯低気圧に変わり、さらに東北東に向きを変え、16日9時前にアリューシャンの南海上で経度180度線を超えた。

熱帯低気圧およびそれから変わった台風周辺の湿った空気の影響により、8日から11日にかけて、総雨量が四国地方の多いところで700ミリを超えたほか、徳島県、香川県、兵庫県、岡山県の一部では、8月の月間降水量平年値の2倍を超える記録的な大雨となった。また、西日本から東日本の太平洋側および東北地方の一部で、日雨量が100ミリを超える大雨となった。

この台風により、徳島県、岡山県、兵庫県、長野県で死者25名、行方不明者2名となり、特に、兵庫県佐用郡佐用町では死者18名、行方不明者(状況不明も含む)2名となった。また、岡山県、兵庫県、埼玉県など西日本から東日本の広い範囲で住家の浸水が約5,500棟となるなど各地で浸水害や土砂災害が発生した。さらに、農業・林業・水産業被害や鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等による交通障害が発生した。(被害の状況は総務省消防庁などによる(平成21年11月20日15時現在))

8月8日

9時に硫黄島の南西海上で熱帯低気圧が発生した。熱帯低気圧と太平洋高気圧の周辺を回って流れ込んだ湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、21時30分までの1時間に長野県諏訪市諏訪で34.5ミリの激しい雨が降るなど、九州、関東甲信地方を中心に雨が降った。

[主な日雨量]

長野県諏訪市諏訪 78.5 ミリ 宮崎県宮崎市青島 63.0 ミリ

8月9日

熱帯低気圧は発達しながら日本の南海上を北西へ進み、15時に同海域で台風第9号となった。熱帯低気圧およびそれから変わった台風周辺の湿った空気が西日本を中心に流れ込み、大気の状態が不安定となった。21時17分までの1時間に兵庫県佐用郡佐用町佐用で89.0ミリの猛烈な雨が降ったほか、四国、中国地方、近畿、東海地方および関東甲信地方の一部で非常に激しい雨が降った。日雨量は徳島県名西郡神山町旭丸で394.0ミリ、奈良県吉野郡上北山村日出岳で347.0ミリ、兵庫県佐用郡佐用町佐用で326.5ミリとなるなど、四国、近畿でところにより300ミリを超えたほか、中国地方、東海地方の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

徳島県神山町旭丸	394.0 ミリ	奈良県上北山村日出岳	347.0 ミリ
兵庫県佐用町佐用	326.5 ミリ	高知県四万十町窪川	325.0 ミリ
香川県東かがわ市引田	237.0 ミリ	岡山県美作市今岡	230.0 ミリ
愛媛県四国中央市富郷	150.5 ミリ	和歌山県田辺市本宮	120.5 ミリ
三重県大台町宮川	115.0 ミリ	鳥取県若桜町若桜	102.5 ミリ



住家が崩れに巻き込まれる
岡山県 美作市(岡山県提供 8月10日撮影)



河川のはん濫により、道路が冠水
兵庫県佐用町 佐用川沿い(兵庫県警本部提供 8月16日撮影)



河川のはん濫により堤防が破壊
兵庫県 佐用町久崎(8月22日撮影)



堤防が破壊されたことにより浸水し、
倒壊した住家(左写真の右端の住家)
兵庫県 佐用町久崎(8月22日撮影)

8月10日

台風第9号は、本州南岸を北東へ進み、紀伊半島の南海上に達した。台風周辺の湿った空気が九州から東北地方の広い範囲に流れ込んで大気の状態が不安定となり、また、台風を取り巻く雨雲が紀伊半島にかかった。3時14分までの1時間に高知県高岡郡津野町船戸で95.0ミリ、4時39分までの1時間に高知県須崎市須崎で86.5ミリ、6時51分までの1時間に徳島県那賀郡那賀町木頭で100.5ミリ、7時15分までの1時間に徳島県名西郡神山町旭丸で81.0ミリ、8時35分までの1時間に徳島県徳島市徳島で90.5ミリとなるなど、四国の一部で猛烈な雨が降ったほか、九州、中国地方、近畿、東海地方および関東甲信地方の一部で非常に激しい雨が

降った。日雨量は、徳島県那賀郡那賀町木頭で 461.0 ミリとなるなど、四国でところにより 400 ミリを超えたほか、九州、近畿、東海地方、関東甲信地方、東北地方の一部で日雨量が 100 ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

徳島県那賀町木頭	461.0 ミリ	栃木県日光市今市	243.0 ミリ
熊本県阿蘇市阿蘇乙姫	225.5 ミリ	高知県馬路村魚梁瀬	221.5 ミリ
千葉県市原市牛久	187.5 ミリ	神奈川県山北町丹沢湖	171.5 ミリ
福島県いわき市山田	164.0 ミリ	茨城県北茨城市北茨城	156.0 ミリ
大分県竹田市竹田	154.5 ミリ	東京都大島町大島	139.5 ミリ
奈良県上北山村日出岳	136.5 ミリ	香川県東かがわ市引田	122.5 ミリ
群馬県桐生市桐生	117.5 ミリ	三重県大台町宮川	116.0 ミリ
静岡県伊豆市天城山	111.5 ミリ	宮城県丸森町丸森	102.5 ミリ

8月11日

台風第9号は東海の南海上を東へ進み、関東の南海上を通過して日本の東海上に達した。台風周辺の湿った空気が近畿と東海地方に流れ込んで大気の状態が不安定となった。6時32分までの1時間に静岡県伊豆市天城山で76.0ミリの非常に激しい雨が降った。日雨量は、静岡県伊豆市天城山で173.5ミリ、奈良県田原本町田原本で107.5ミリ、三重県大台町宮川で104.0ミリとなるなど、近畿地方、東海地方でところにより100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

静岡県伊豆市天城山	173.5 ミリ	奈良県田原本町田原本	107.5 ミリ
三重県大台町宮川	104.0 ミリ		

(13)8月19日:沖縄県那覇市(局地的大雨)<大気不安定>

沖縄本島地方は上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、19日午後、沖縄本島内の所々で局地的に激しい雨となった。19日14時ごろ、那覇市樋川のガープ川で橋の耐震調査工事をしていた男性作業員5名が河川の急激な増水のため流され、4名が亡くなった。14時ごろ、事故現場付近に気象レーダーで観測された強い降雨域があり、また、解析雨量は、事故現場付近の河川上流部では同時刻の1時間に20~30ミリとなった。

なお、事故現場から500メートル程度離れた沖縄気象台で観測された13時から14時までの1時間降水量は3.5ミリであり、強い雨が狭い範囲に降る局地的大雨であった。

(14)10月6日~8日:全国(暴風、大雨、高波、高潮)<台風第18号>

9月29日15時にマーシャル諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は、西北西に進み、30日9時にポンペイ島の北海上で台風第18号となった。台風は、西北西の向きを維持しながら急速に発達し、10月4日15時にマリアナ諸島の西海上で勢力が最大となった。台風は、6日に南大東島の西海上で向きを北に変え、日本の南海上を北東に進んだ。台風は、北東の向きを維持しながら、8日5時過ぎに知多半島付近に上陸し、東海地方、関東甲信、東北地方を縦断して、8日21時に三陸沖で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は東に向きを変え、11日15時にアリューシャンの南海上で消滅した。

この台風により、愛知県東海市東海で8日5時48分までの1時間に83.5ミリの猛烈な雨が降ったほか、近畿地方の一部で6日から8日までの総雨量が300ミリを超えるなど、沖縄地方から東北地方の広い範囲で大雨となった。

また、この台風は、非常に強い勢力を保ったまま南西諸島から西日本に接近し、強い勢力で東海地方に上陸したため、沖縄地方から北海道地方にかけての広い範囲で最大風速20メートルを超える暴風となった。

7日から8日には沖縄・奄美から北日本の沿岸でしけとなり、近畿や東海の太平洋側と伊豆諸島では、高さ9メートルを超える猛烈なしけとなったところもあった。

南西諸島では7日夜未明から、九州南部、四国地方の太平洋側沿岸では7日昼過ぎから夜遅く

にかけて、近畿南部、東海、関東南部、東北南部の太平洋側では8日未明から昼前にかけて、東北北部と北海道の太平洋側では8日昼過ぎから9日明け方にかけて、最大潮位偏差が50センチメートル以上となった。愛知県赤羽根では8日明け方に最大潮位偏差が183センチメートル、最高潮位TP上190センチメートル、静岡県石廊崎では8日朝に最大潮位偏差が135センチメートル、最高潮位TP上187センチメートルなどとなった。(TP:東京湾平均海面(標高・海拔の基準))。

さらに、茨城県土浦市と龍ヶ崎市、千葉県九十九里町等では、竜巻が発生した((15)および(16)参照)。

この台風により、和歌山県、埼玉県および宮城県で死者5名となり、沖縄地方から北海道地方の広い範囲で住家の浸水が約3,400棟、住家の損壊が約3,400棟となるなど各地で浸水害、土砂災害等が発生した。農業・林業・水産業被害や鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等による交通障害が発生した。さらに、茨城県土浦市と龍ヶ崎市、千葉県九十九里町等では、竜巻により負傷者や住家損壊が発生した。(被害の状況は総務省消防庁などによる(平成21年11月18日10時現在))

10月6日

台風第18号は日本の南海上を北北西へ進み、南大東島の西海上に達した。また、本州南岸に停滞した前線に向かって台風周辺から暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発となった。このため、沖縄・奄美と関東甲信地方の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。

午後には南大東島が暴風域に入り、沖縄県南大東村南大東で23時40分に最大風速38.8メートルを観測するなど、沖縄・奄美で暴風となった。

また、午後に、沖縄・奄美から九州南部の太平洋側でしけとなり、特に南大東島では10メートルを超える猛烈なしけとなった。

[主な日雨量]

沖縄県南大東村南大東 164.0 ミリ 東京都八丈町八丈島 151.5 ミリ

[主な最大風速]

沖縄県南大東村旧東 東南東 32.8メートル) [22:29]

10月7日

台風第18号は九州の南海上を北北東へ進み、非常に強い勢力のまま四国の南海上へ進んだ。このため、日雨量は三重県鳥羽市鳥羽で220.5ミリ、和歌山県那智勝浦町色川で220.5ミリとなるなど、近畿地方および東海地方の所々で200ミリを超えたほか、九州地方、四国地方、近畿地方および東海地方の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。

九州南部、四国地方および近畿地方の一部が暴風域に入り、沖縄県北大東村北大東で0時17分に最大風速39.1メートルを観測するなど、沖縄・奄美、九州地方、四国地方、近畿地方の一部で暴風となった。

また、午前には沖縄・奄美から西日本の太平洋沿岸で、午後にはさらに東海地方の太平洋沿岸や九州北部と山陰の日本海沿岸でもしけとなり、特に沖縄・奄美から西日本の太平洋沿岸と九州北部の日本海沿岸の一部では、6メートルを超える大しけとなったところがあった。

南西諸島から九州南部、四国地方の太平洋側沿岸の一部で最大潮位偏差が50センチメートル以上となり、高知県土佐清水では最大潮位偏差が94センチメートル、最大潮位TP上186センチメートルに達した。

[主な日雨量]

三重県鳥羽市鳥羽	220.5 ミリ	和歌山県那智勝浦町色川	220.5 ミリ
奈良県上北山村日出岳	204.0 ミリ	鹿児島県中種子町中種子	188.0 ミリ
愛知県南知多町南知多	135.5 ミリ	徳島県上勝町福原旭	112.5 ミリ
高知県土佐清水市清水	107.0 ミリ		

[主な最大風速]

沖縄県北大東村北大東	南東	39.1	メートル)	[00:17]
鹿児島県喜界町喜界島	北北西	29.7	メートル	[08:30]
高知県室戸市室戸岬	東北東	28.2	メートル	[19:18]
長崎県雲仙市雲仙岳	北東	28.1	メートル	[16:41]

10月8日

台風第18号は強い勢力で紀伊半島の南を北東へ進み、同5時過ぎに知多半島付近に上陸し、その後、東海地方、関東甲信地方、東北地方を縦断し、同日21時に三陸沖で温帯低気圧に変わった。愛知県東海市東海で5時48分までの1時間に83.5ミリの猛烈な雨が降った。また、日雨量が岩手県普代村普代で258.0ミリとなるなど、東北地方の所々で200ミリを超えたほか、中国地方、近畿地方、東海地方、北陸地方、関東甲信地方および東北地方の一部で日雨量が100ミリを超える大雨となった。

東海地方、北陸地方、関東甲信地方、東北地方および北海道地方の一部が暴風域に入り、北海道えりも町えりも岬で23時23分に最大風速36.0メートルを観測するなど、近畿地方、東海地方、北陸地方、関東甲信地方、東北地方および北海道地方の一部で暴風となった。

午前、四国から東日本の太平洋沿岸と西日本から東日本の日本海側でしけとなり、特に東海地方では10メートルを超える猛烈なしけとなったところがあった。さらに、午後には、東日本から北日本の沿岸でしけとなり、北日本の太平洋沿岸の一部で大しけとなったところがあった。

近畿南部から東北北部の太平洋側の一部で最大潮位偏差が50センチメートル以上となり、愛知県赤羽根では最大潮位偏差が183センチメートル、最高潮位TP上190センチメートル、静岡県石廊崎では8日朝に最大潮位偏差が135センチメートル、最高潮位TP上187センチメートルに達した。

[主な日雨量]

岩手県普代村普代	258.0 ミリ	宮城県石巻市雄勝	254.5 ミリ
福島県浪江町浪江	243.0 ミリ	岡山県真庭市上長田	185.5 ミリ
栃木県日光市奥日光	180.0 ミリ	奈良県曽爾村曾爾	179.0 ミリ
新潟県糸魚川市平岩	173.0 ミリ	和歌山県高野町高野山	167.0 ミリ
鳥取県鳥取市鹿野	146.5 ミリ	神奈川県横浜市中区横浜	144.0 ミリ
茨城県北茨城市花園	141.5 ミリ	山梨県南部町南部	138.5 ミリ
三重県津市白山	138.5 ミリ	静岡県静岡市葵区井川	138.0 ミリ
東京都練馬区練馬	137.0 ミリ	福井県おおい町大飯	137.0 ミリ
埼玉県越谷市越谷	136.0 ミリ	東京都府中市府中	130.5 ミリ
京都府綾部市故屋岡	130.0 ミリ	長野県小谷村小谷	122.5 ミリ
青森県青森市酸ヶ湯	117.0 ミリ	滋賀県高島市朽木平良	116.0 ミリ
富山県南砺市五箇山	114.0 ミリ	大阪府河内長野市河内長野	110.5 ミリ
秋田県鹿角市八幡平	110.0 ミリ	兵庫県養父市八鹿	105.5 ミリ

[主な最大風速]

北海道えりも町えりも岬	北北東	36.0	メートル	[23:23]
愛知県常滑市セントレア	北北西	32.7	メートル	[05:20]
新潟県佐渡市弾崎	北北西	30.3	メートル	[13:38]
和歌山県白浜町南紀白浜	北西	25.4	メートル	[02:53]
兵庫県神戸市中央区神戸	北北西	25.2	メートル	[04:39]
東京都三宅村三宅坪田	南南西	25.2	メートル	[06:37]
三重県津市津	北北西	25.1	メートル	[04:30]
石川県輪島市輪島	北	22.7	メートル	[10:45]
宮城県石巻市石巻	東北東	21.9	メートル	[09:15]
大阪府豊中市豊中	北北西	21.3	メートル	[02:28]
富山県朝日町泊	東北東	21.2	メートル	[06:41]
静岡県御前崎市御前崎	南	20.1	メートル	[05:57]

(15) 10月8日：茨城県土浦市、利根町（竜巻）＜台風第18号、大気不安定＞

台風第18号は四国の南海上を北東へ進み、8日5時過ぎに知多半島付近に上陸した後、関東地方から東北地方を北東へ進んだ。台風の接近に伴い南から暖かく湿った空気が流れ込み、関東地

方では大気の状態が非常に不安定であった。

10月8日5時頃、茨城県土浦市宍塚を中心に下高津から矢作にかけて突風が発生した。また、同日の4時50分頃に、同県北相馬郡利根町加納新田から龍ヶ崎市八代町でも突風が発生した。

土浦市下高津から矢作で発生した突風をもたらした現象は、被害の発生時刻に被害地付近を活発な積乱雲が通過中であったこと、被害や痕跡は長さ約2.8キロメートル、幅約200～300メートルの帯状に分布していたこと、被害や痕跡から推定した風向に回転性がみられたことから、竜巻と推定した。

この突風の強さは、複数の住家で屋根瓦の飛散がみられたこと、風圧による窓ガラス割れが複数あったこと、倉庫の屋根の飛散がみられたこと、直径20～30センチメートル程度の樹木の幹折損が複数みられたこと、住家の屋根の飛散がみられたが、周囲の状況からF2の可能性は低いとみられることから、藤田スケールでF1と推定した。

また、北相馬郡利根町加納新田から龍ヶ崎市八代町で発生した突風をもたらした現象は、被害の発生時刻に被害地付近を活発な積乱雲が通過中であったこと、被害や痕跡は断続的であるが長さ約6.0キロメートル、幅約100～200メートルの帯状に分布していたこと、被害や痕跡から推定した風向の一部に収束性や回転性がみられたこと、激しい風はごく短時間だったという証言があったことから、竜巻と推定した。

この突風の強さは、複数の住家で屋根瓦の飛散がみられたこと、木造の倉庫の倒壊が複数みられたこと、住家屋根の一部飛散がみられたが、周囲の状況からF2の可能性は低いとみられることから、藤田スケールでF1と推定した。

この竜巻により、負傷者6名、住家の全壊1棟、半壊16棟などの被害が発生した。

(16)10月8日：千葉県九十九里町、山武市（竜巻）＜台風第18号、大気不安定＞

台風第18号は四国の南海上を北東へ進み、8日5時過ぎに知多半島付近に上陸した後、関東地方から東北地方を北東へ進んだ。台風の接近に伴い南から暖かく湿った空気が流れ込み、関東地方では大気の状態が非常に不安定であった。

10月8日4時30分頃、千葉県山武郡九十九里町、山武市で突風が発生した。この突風をもたらした現象は、被害の発生時刻に被害地付近を活発な積乱雲が通過中であったこと、被害や痕跡は、断続的であるが長さ約1.5キロメートル、幅20～30メートルの極めて細い帯状に分布していたこと、被害や痕跡から推定した風向の一部に回転性がみられたこと、から竜巻と推定した。

この突風の強さは、住家の屋根瓦の飛散が多数みられたこと、非住家の全壊がみられたことから、藤田スケールでF1と推定した。

この竜巻により、住家の全壊1棟などの被害が発生した。

(17)10月30日：秋田県能代市（竜巻）＜低気圧、大気不安定＞

朝から夕方にかけて、オホーツク海の低気圧からのびる寒冷前線が秋田県を通過した。このため、秋田県内は大気の状態が不安定となり積乱雲が発生した。レーダー観測によると、能代市浅内付近は、8時40分過ぎから10時頃にかけて発達した積乱雲が通過した。

9時20分頃、秋田県能代市浅内で突風が発生した。この突風をもたらした現象は、被害の発生時刻に被害地付近を活発な積乱雲が通過中であったこと、9時20分頃から30分頃にかけて、被害地付近で物を巻き上げながら移動する渦の映像や目撃証言が複数あったこと、被害や痕跡は、長さ約3.2キロメートル、幅約100メートルの帯状に分布していたこと、被害や痕跡から推定した風向に、収束性が認められたことから、竜巻と認められた。

この突風の強さは、非住家の屋根飛散が複数みられたこと、直径約30センチメートルの樹木の幹の折損がみられたこと、ビニールハウスの倒壊がみられたこと、住家の屋根の飛散が複数みられたが、周辺の状況からF2の可能性は低いと推定したことから、藤田スケールでF1と推定した。

この竜巻により、負傷者1名、住家の半壊2棟などの被害が発生した。

(18) 11月10日～11日：西日本～東日本（大雨）＜低気圧＞

前線を伴う低気圧が相次いで日本をとおリ、西日本から東日本の広い範囲で大雨となった。

この大雨により、和歌山県で死者1名、住家の浸水が約900棟となったほか、兵庫県、和歌山県などで土砂災害が発生した。また、和歌山県、島根県で停電が発生した。（被害の状況は気象庁調べによる）

11月10日

前線上の九州に低気圧が発生した。18時01分までの1時間に長崎県新上五島町頭ヶ島で84.5ミリの猛烈な雨が降ったほか、鹿児島県と長崎県の一部で1時間に50ミリ以上の非常に激しい雨が降った。九州地方および四国地方の一部で、日雨量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

鹿児島県 屋久島町屋久島	197.0 ミリ	徳島県上勝町福原旭	196.0 ミリ
高知県香美市繁藤	177.0 ミリ	大分県佐伯市蒲江	166.5 ミリ
長崎県新上五島町有川	156.5 ミリ	宮崎県串間市串間	152.0 ミリ
山口県長門市油谷	143.5 ミリ	佐賀県伊万里市伊万里	118.0 ミリ

11月11日

九州の低気圧が前線を伴って三陸沖へ進み、九州の南海上の低気圧が東へ進んだ。3時57分までの1時間に和歌山県和歌山市和歌山で122.5ミリの猛烈な雨が降ったほか、高知県、兵庫県、和歌山県、三重県の一部で1時間に50ミリ以上の非常に激しい雨が降った。日雨量が、和歌山県和歌山市和歌山で244.5ミリとなるなど、近畿地方の一部で200ミリを超える大雨となったほか、四国地方、中国地方、近畿地方、東海地方、関東甲信地方で日雨量が100ミリを超える大雨となった。

[主な日雨量]

和歌山県和歌山市和歌山	244.5 ミリ	鳥取県鳥取市鹿野	199.0 ミリ
静岡県伊豆市天城山	163.5 ミリ	兵庫県洲本市洲本	143.0 ミリ
岡山県真庭市上長田	140.5 ミリ	三重県紀北町紀伊長島	126.5 ミリ
徳島県三好市京上	125.0 ミリ	愛知県新城市作手	124.5 ミリ
大阪府熊取町熊取	118.0 ミリ	神奈川県箱根町箱根	109.5 ミリ
茨城県水戸市水戸	103.0 ミリ	山梨県山中湖村山中	100.0 ミリ

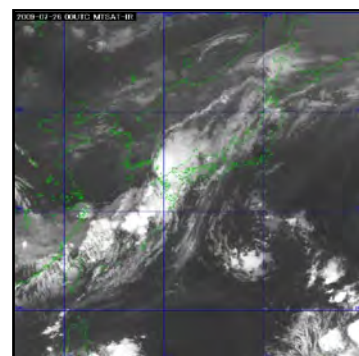
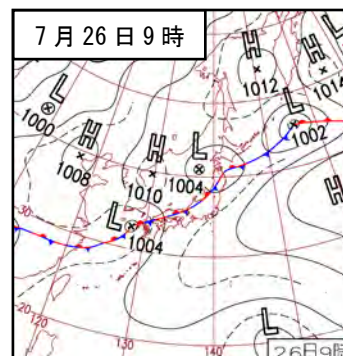
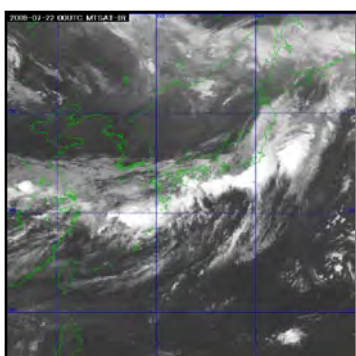
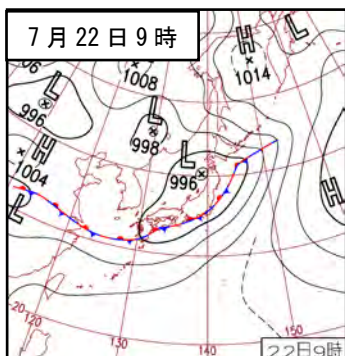
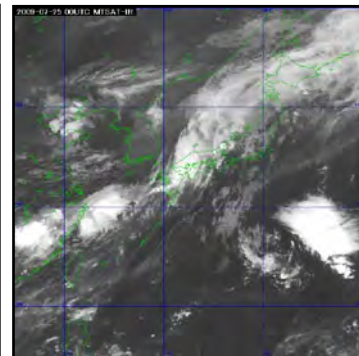
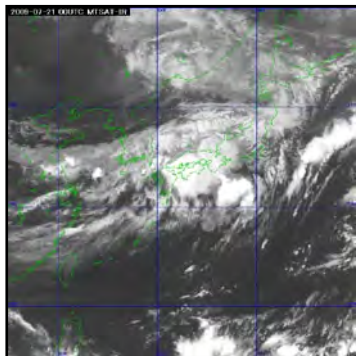
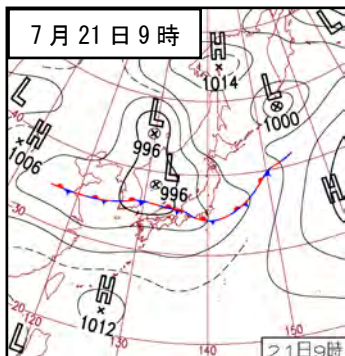
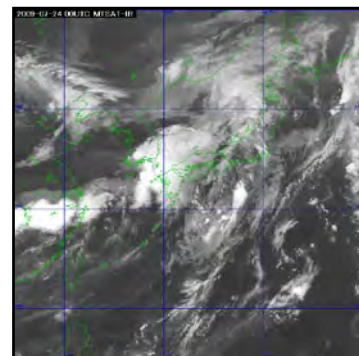
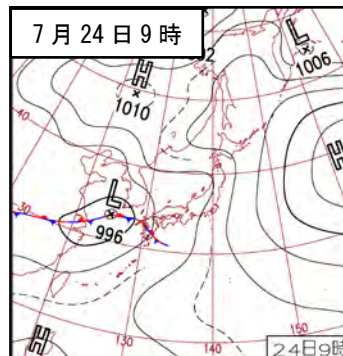
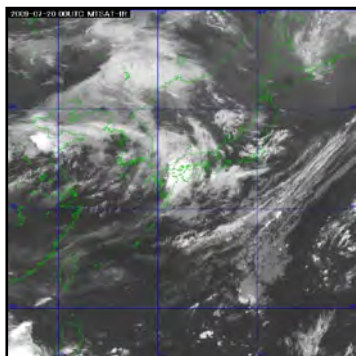
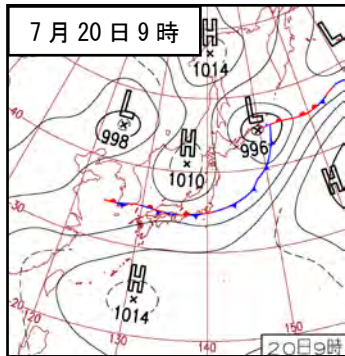
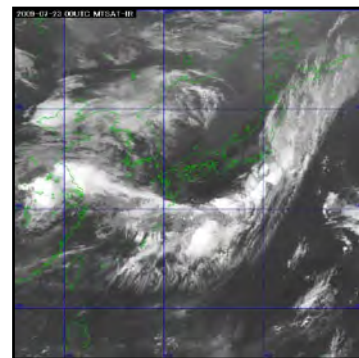
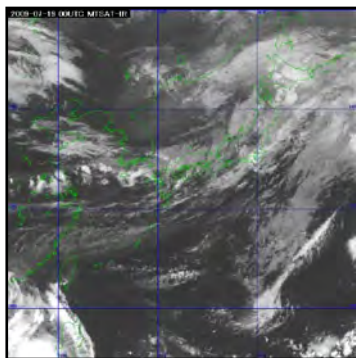
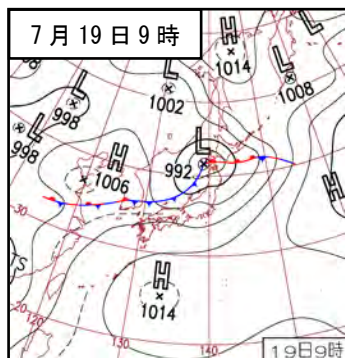
■平成21年に発生した主な竜巻等の突風

発生日時	現象区別	発生場所	主な被害状況	藤田 スケール	気象状況
1月25日 05時00分頃	その他 (不明を含む)	北海道日高支庁 日高郡新ひだか町	住家半壊1棟、一部破損3棟、 非住家損壊等	F1	気圧の谷
7月19日 19時00分頃	竜巻	岡山県 美作市	負傷者2名、住家全壊2棟、半 壊11棟、一部破損65棟、非住 家損壊等	F2	梅雨前線
7月27日 14時00分頃	竜巻	群馬県 館林市	負傷者21名、住家全壊14棟、 一部損壊24棟、一部破損286 棟、非住家損壊、車両被害等	F1~F2	暖気の移流
9月13日 03時40分頃	竜巻	山形県 鶴岡市	負傷者1名、住家一部破損7 棟、非住家損壊、車両破損等	F0	日本海低気圧
10月8日 04時50分頃	竜巻	茨城県 龍ヶ崎市、 北相馬郡利根町	負傷者6名、住家全壊1棟、半 壊16棟、一部破損210棟、非 住家損壊等	F1	台風
10月8日 05時頃	竜巻	茨城県 土浦市	負傷者2名、住家全壊1棟、半 壊11棟等	F1	台風
10月8日 04時30分頃	竜巻	千葉県 山武郡九十九里 町、	住家全壊1棟、一部破損36 棟、非住家損壊等	F1	台風
10月30日 09時20分頃	竜巻	秋田県 能代市	負傷者1名、住家半壊2棟、一 部損壊4棟、非住家損壊、車両 被害等	F1	寒冷前線

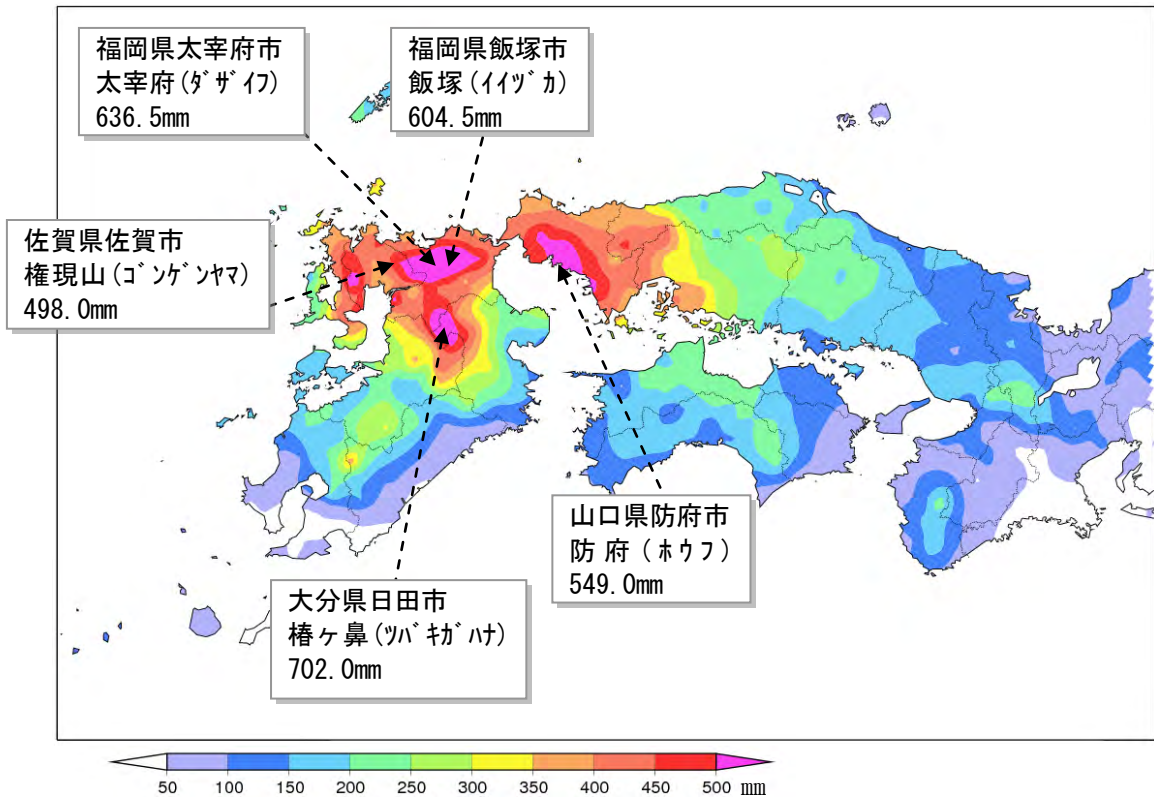
※被害(死者、負傷者、住家全壊、住家半壊)が発生したもの

詳しくは、気象庁ホームページに「竜巻等の突風データベース」を掲載していますのでご参照ください。
(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/bosai/tornado/index.html>)

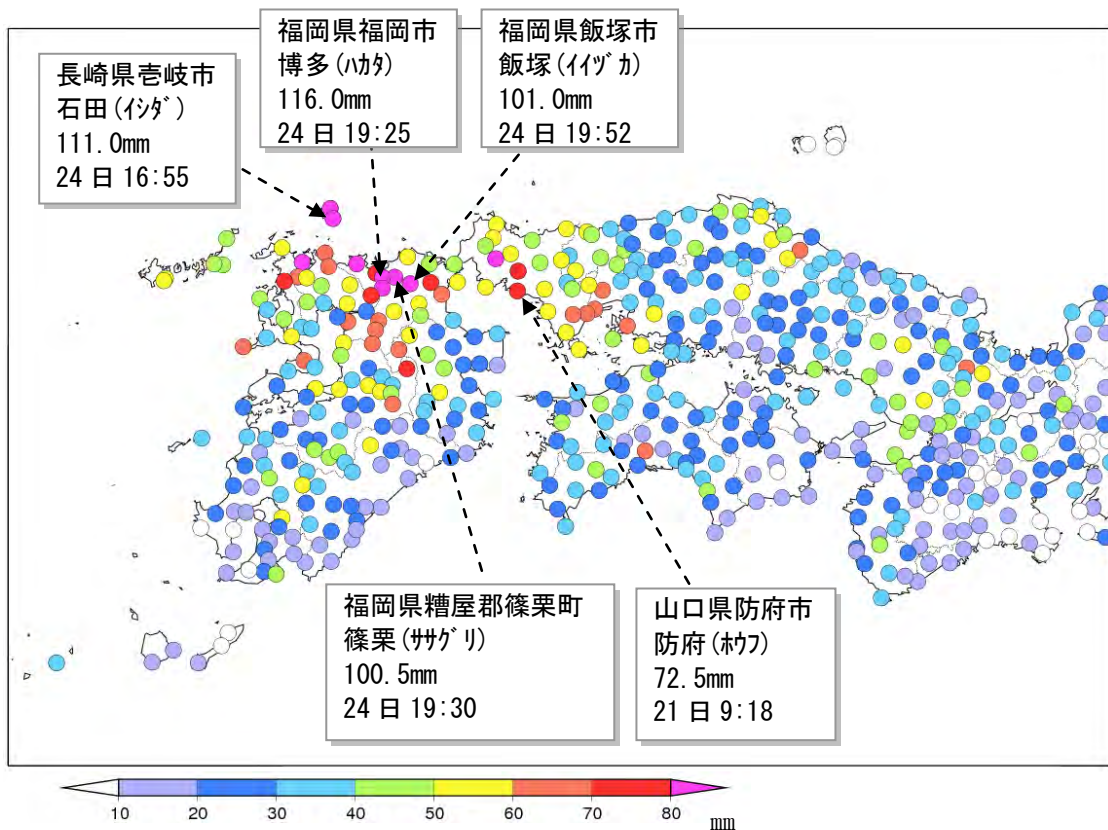
災害番号 (9) 9時の天気図及び衛星赤外画像[期間：7月19日～7月26日]



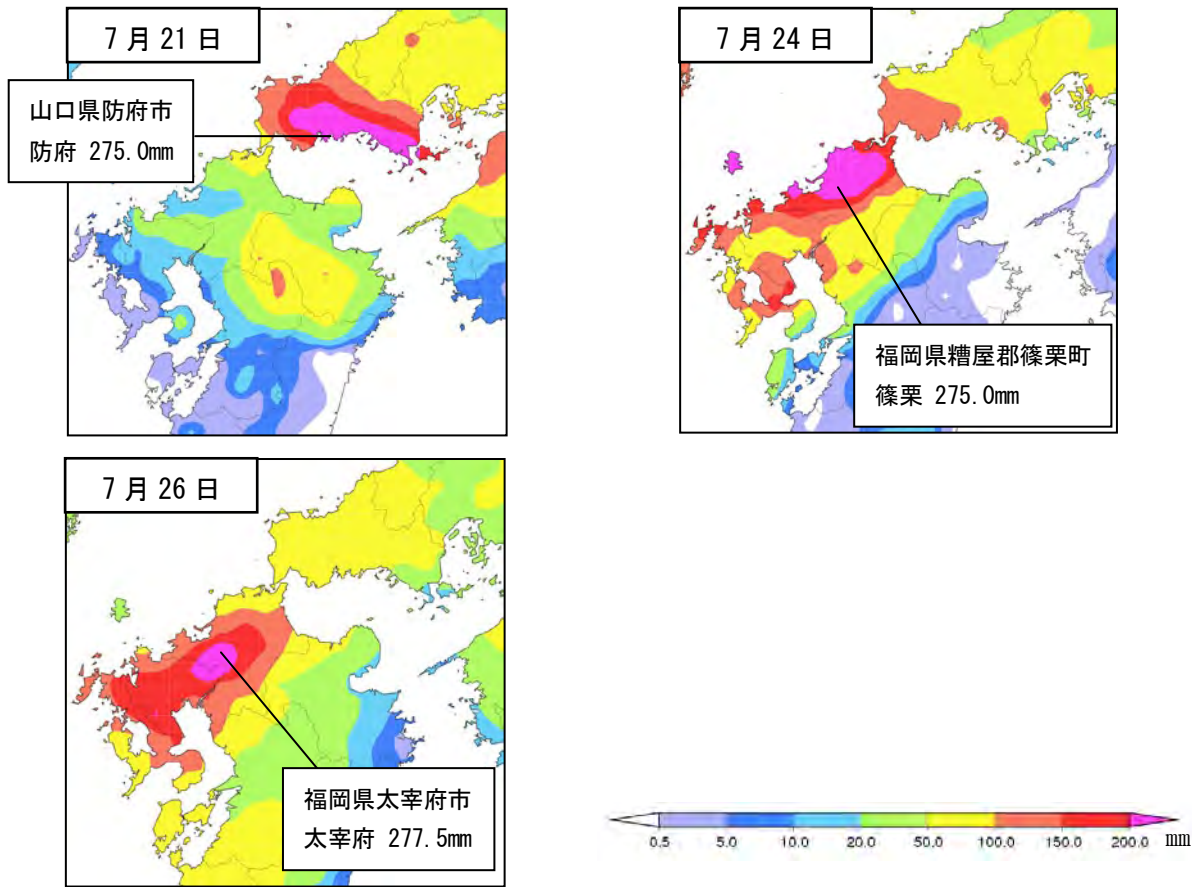
災害番号 (9) 総雨量分布図 [期間 : 7月19日~7月26日]



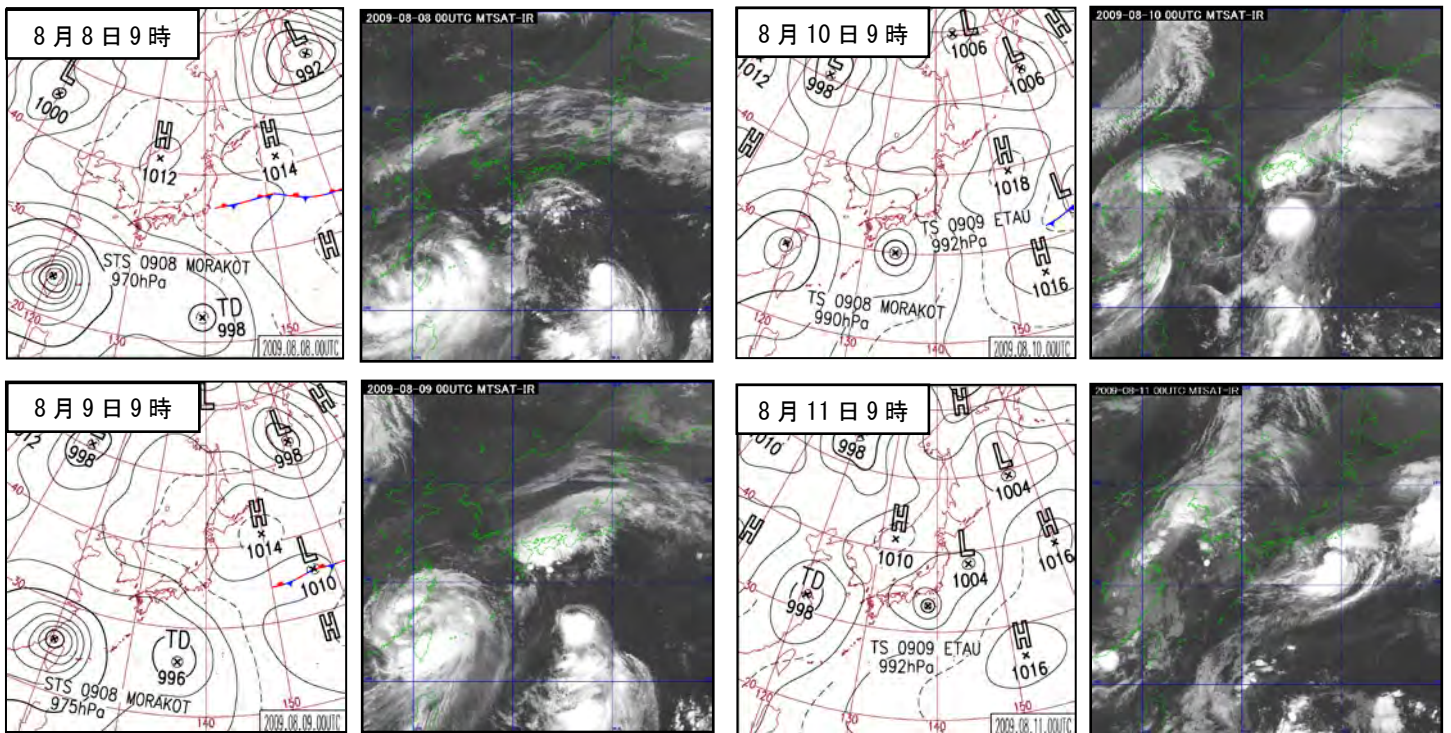
災害番号 (9) 期間最大1時間雨量図 [期間 : 7月19日~7月26日]



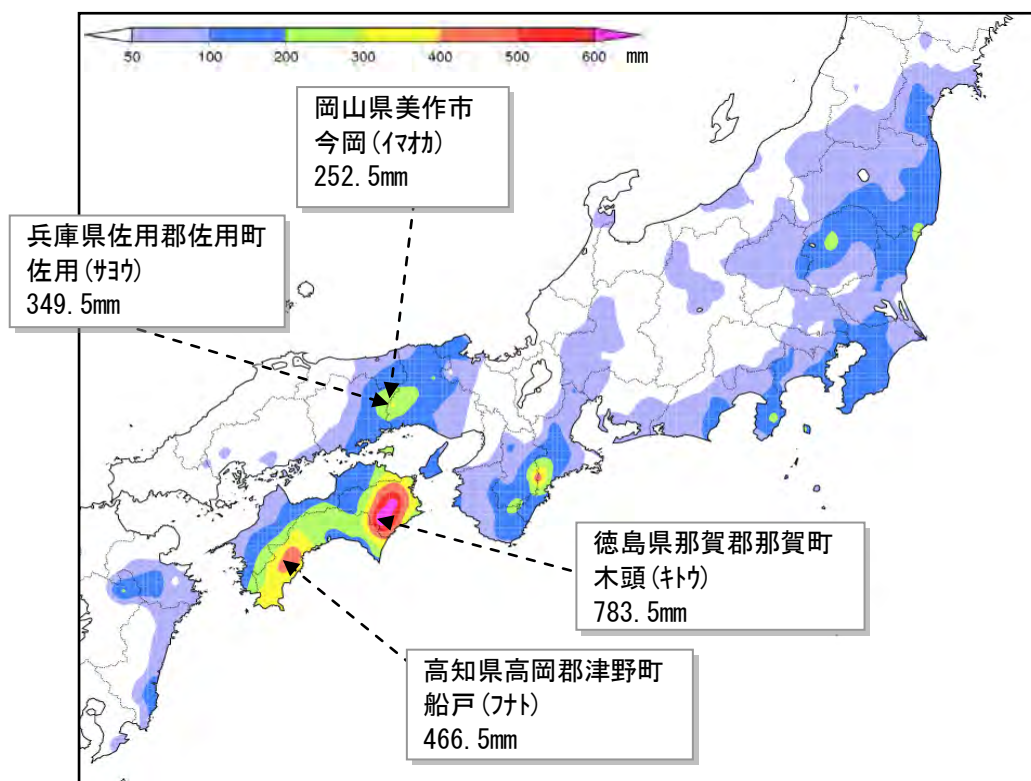
災害番号 (9) 日降水量分布図



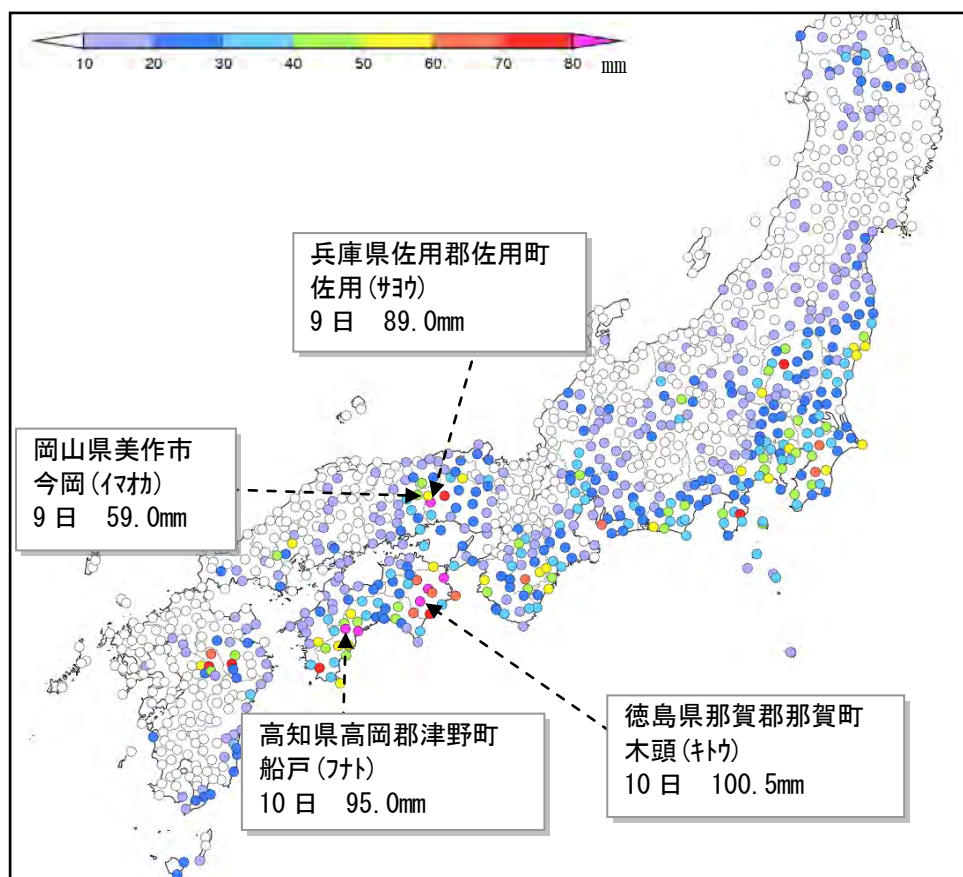
災害番号 (12) 9時の天気図及び衛星赤外面像[期間：8月8日～8月11日]



災害番号 (12) 総雨量分布図 [期間：8月8日～8月11日]

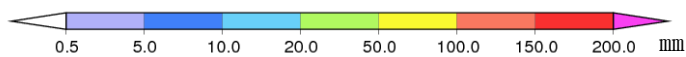
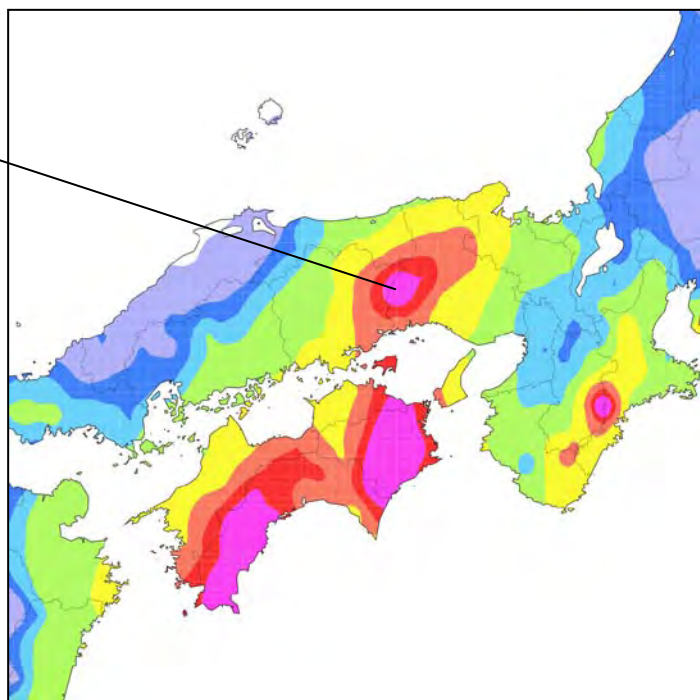


災害番号 (12) 期間最大1時間雨量図 [期間：8月8日～8月11日]

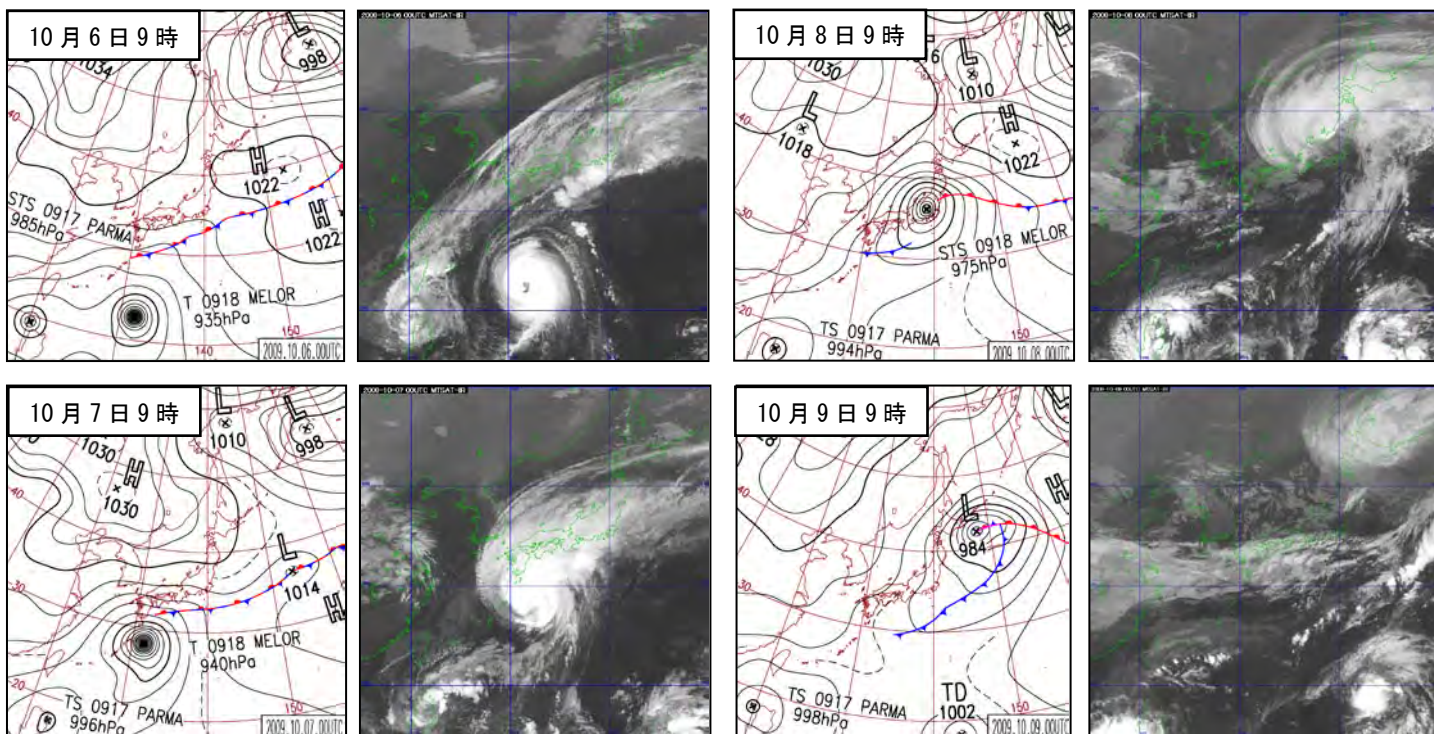


災害番号（12）平成 21 年 8 月 9 日の日降水量分布図

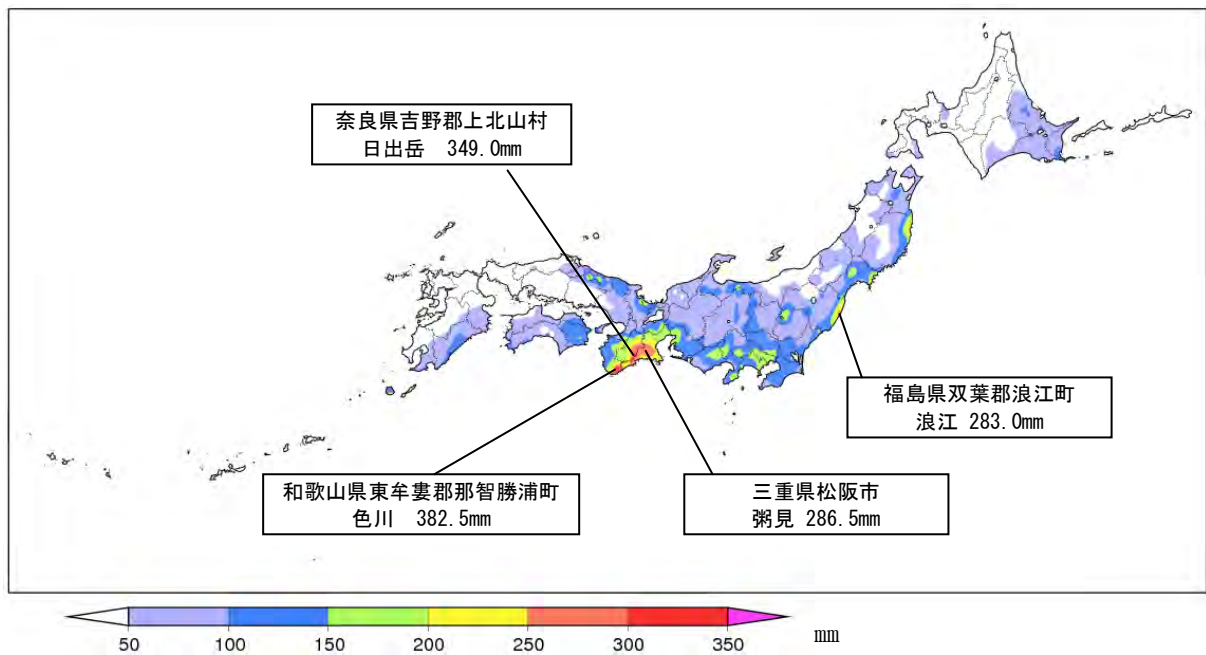
兵庫県佐用郡佐用町
佐用 326.5mm



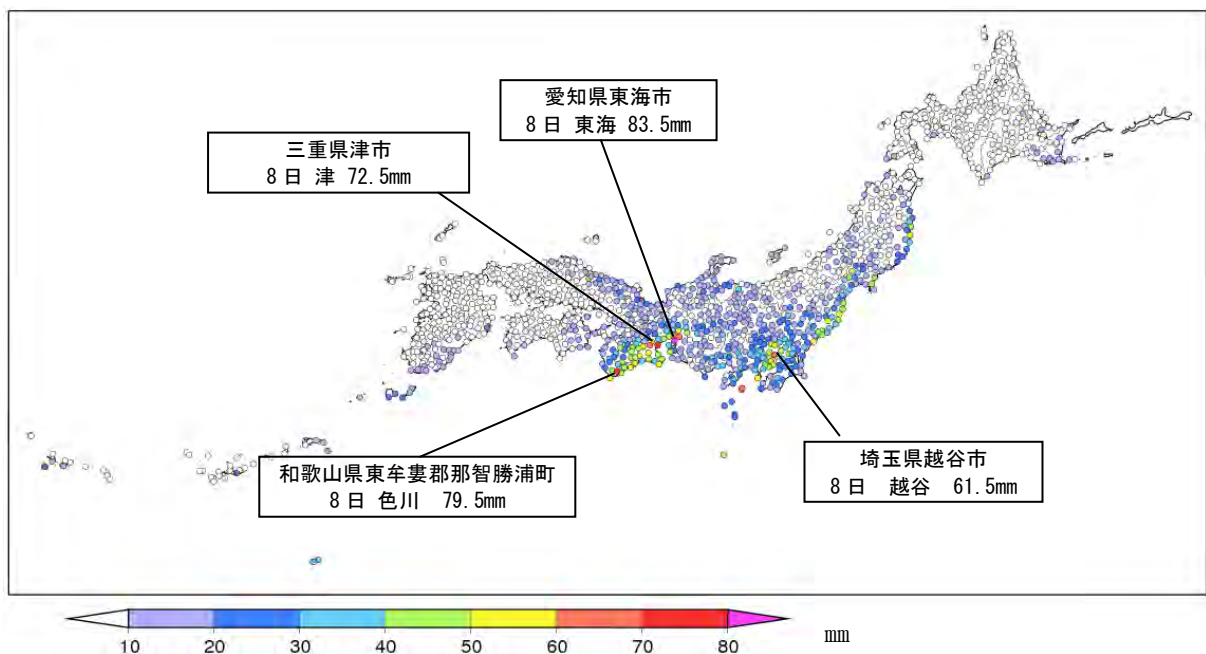
災害番号（14） 9 時の天気図及び衛星赤外画像[期間：10 月 6 日～10 月 9 日]



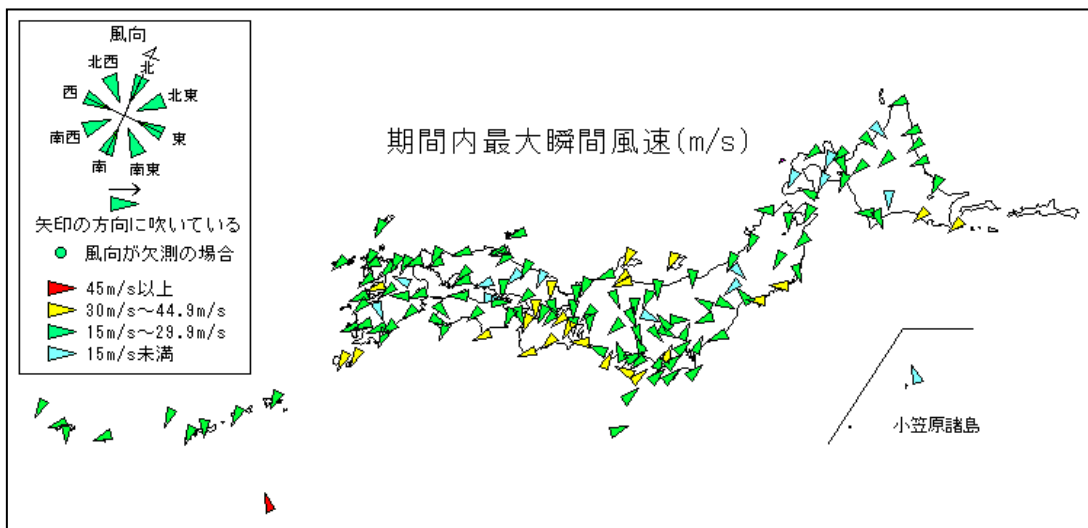
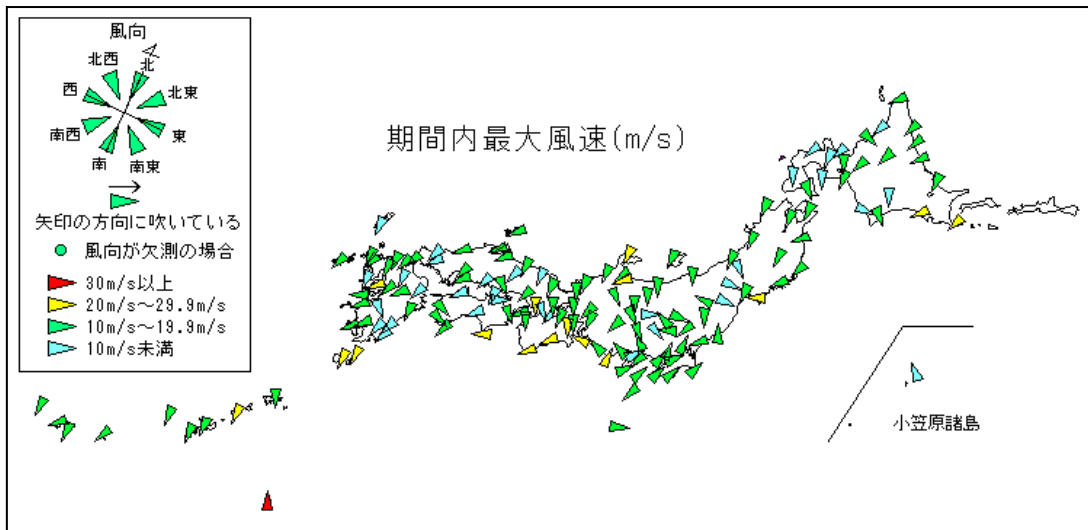
災害番号 (14) 総雨量分布図 [期間：10月6日～10月9日]



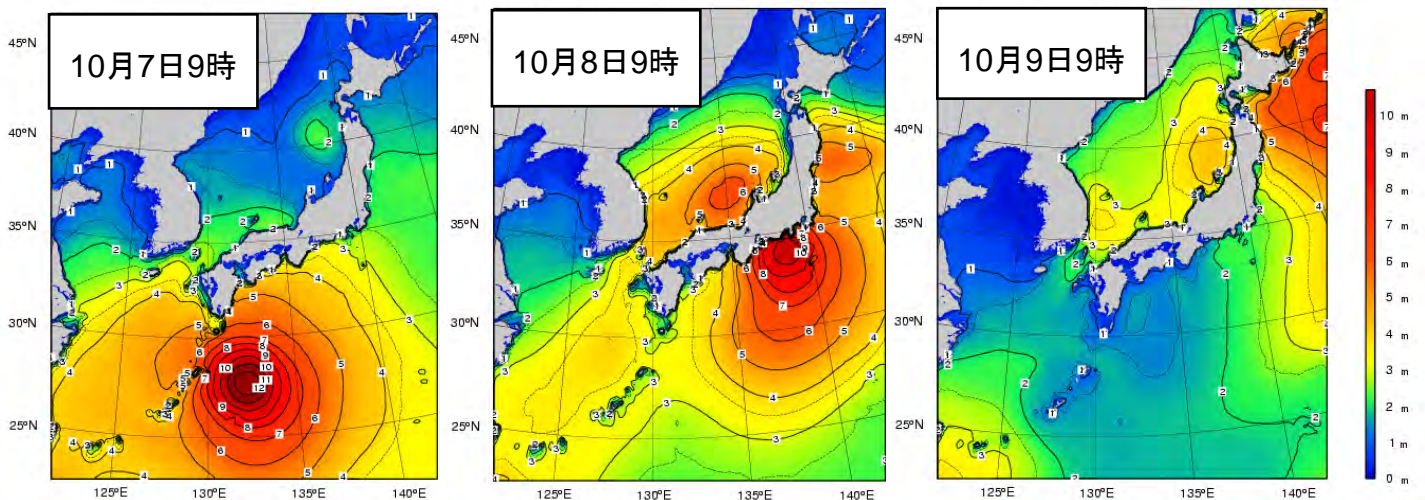
災害番号 (14) 期間最大1時間雨量分布図 [期間：10月6日～10月9日]



災害番号 (14) 期間内最大風速、最大瞬間風速 [期間：10月6日～10月9日]



災害番号 (14) 9時の沿岸波浪図 [期間：10月7日～10月9日]



資料 1-1 平成 21 年（2009 年）激甚災害指定状況一覧表（地すべり、地震を除く）

< 内閣府作成資料等から引用 >

激甚災害(本激：地域を特定せず、災害そのものを指定)

期間	災害原因	気象要因
6/9～8/2	豪雨	梅雨前線
8/8～8/11	豪雨、暴風雨	熱帯低気圧、台風第9号

本激は農地等

局地激甚災害(局激：市町村単位で災害を指定)

期間	災害原因	気象要因	対象地区	
			都道府県	市町村
1/30～1/31	豪雨	低気圧	富山県	富山市
			兵庫県	香美町
3/13～3/14	豪雨	低気圧	和歌山県	有田川村
6/22～7/31	豪雨	梅雨前線	岐阜県	関市
			和歌山県	新宮市
			島根県	飯南町、美郷町
8/6～8/7	豪雨	大気不安定	長野県	長野市
8/8～8/11	豪雨、 暴風雨	熱帯低気圧、台風 第9号	京都府	福知山市
			兵庫県	宍粟市、朝来市、佐用町
			岡山県	美作市
			徳島県	美馬市
			高知県	四万十町、三原村
10/6～10/8	暴風雨	台風第18号	岩手県	普代村
			宮城県	登米市
			新潟県	糸魚川市
			静岡県	川根本町
			三重県	津市、松阪市、名張市、伊賀市、紀北町
			大阪府	河内長野市
			奈良県	宇陀市、吉野町、黒滝村、山添村、曾根村、御杖村

本激は農地等、局激は公共土木、中小企業

(注) 激甚災害および局地激甚災害は「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき指定され政令により公布される。

(参考) 激甚災害について

< 内閣府HP、激甚災害制度の手引き(災害対策制度研究会/編著)から引用 >

1 激甚災害制度の概要

激甚災害制度は、「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」に基づき、国民経済に著しい影響を及ぼす災害に対して、「地方財政の負担の緩和」、「被災者に対する特別の助成」を行うことが特に必要であると認められる場合に、その災害を激甚災害として政令で指定し、あわせてその災害に対して適用すべき特例措置を指定するものです。

その結果、一般の災害復旧事業補助・災害復旧貸付等の支援措置に加えて、激甚災害法に基づき、公共土木施設、公立学校、公営住宅、農地等の災害復旧事業等の財政援助等の様々な特例措置が適用されることとなります。

激甚災害法により、激甚災害を指定する政令の制定にあたっては、あらかじめ中央防災会議の意見を聴くこととされており、中央防災会議では、その指定基準として、現在、激甚災害指定基準(本激)と局地激甚災害指定基準(局激)の2つを決定しています。

2 本激と局激の違い 局地激甚災害について

激甚災害指定基準(本激)では、全国を単位として積み上げられた被害額を基準としているため、激甚災害制度の創設(昭和37年)当初は、ある特定地域に激甚な被害を及ぼした災害であっても、全国レベルで見ればさほどの被害とはならず、指定基準を越えられない(激甚災害として指定されない)という状況が生じていました。

そこで、市町村単位の被害額を基準とする局地激甚災害指定基準を昭和43年に創設し、限られた地域内で多大な被害を被った地域に対して各種の特例措置が適用されることとしました。

激甚災害指定基準による指定、いわゆる「本激」が地域を特定せず、災害そのものを指定するのに対し、局地激甚災害指定基準による指定、いわゆる「局激」は市町村単位で災害を指定します。ただし、激甚災害に指定されても、被害を受けた地方公共団体等のすべてが特例措置を受けられるわけではなく、被害の大きさが一定規模以上の地方公共団体等に限って特例措置が適用されます。

2 平成 21 年(2009 年)台風の概要

2-1 平成 21 年(2009 年)に発生した台風

平成 21 年に発生した台風(表 2.1)は 22 個(平年値 26.7 個)と平年値を下回った。5～10 月の発生数は 21 個(平年値 21.3 個)と平年並みだったが、11 月以降の発生数が 1 個(平年値 3.7 個)と比較的少なかった。

日本への接近数は 8 個(平年値 10.8 個)だった。地域別では北日本と東日本で平年値を上回るか同程度である一方、西日本と沖縄・奄美で平年値を下回っており、特に沖縄・奄美では接近数が 3 個(平年値 7.2 個)と少なくなった。また、上陸数は台風第 18 号の 1 個(平年値 2.6 個)で、2007 年台風第 9 号の上陸以来 2 年ぶりとなった。

表 2.1 平成 21 年(2009 年)の台風発生数、日本への上陸数^{*1}、日本への接近数^{*2}と平年値及び平成 20 年(2008 年)との比較

項目	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
		平年値	発生数	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	
上陸数							0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0		2.6
接近数					0.1	0.5	0.7	2.1	3.4	2.6	1.3	0.7	0.1	10.8
平成 20 年 (2008 年)	発生数				1	4	1	2	4	4	2	3	1	22
	上陸数													0
	接近数					3	1	2	1	2	1			9
平成 21 年 (2009 年)	発生数					2	2	2	5	7	3	1		22
	上陸数										1			1
	接近数					1			3	3	2			8

(注)・平年値は、昭和 46 年(1971 年)～平成 12 年(2000 年)の 30 年平均。

・日本への接近は 2 か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸^{*1} 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近^{*2} 台風の中心が、日本から概ね 300km 以内に入った場合を「接近」という。

資料2-1-1 台風発生数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1951 S.26	0	1	1	2	1	1	3	3	2	4	1	2	21 (-)
52 27	0	0	0	0	0	3	3	5	3	6	3	4	27 (0)
53 28	0	1	0	0	1	2	1	6	3	5	3	1	23 (-)
54 29	0	0	1	0	1	0	1	5	5	4	3	1	21 (-)
55 30	1	1	1	1	0	2	7	6	4	3	1	1	28 (0)
56 31	0	0	1	2	0	1	2	5	6	1	4	1	23 (-)
57 32	2	0	0	1	1	1	1	4	5	4	3	0	22 (-)
58 33	1	0	0	1	1	4	7	5	5	3	2	2	31 (+)
59 34	0	1	1	1	0	0	2	5	5	4	2	2	23 (-)
60 35	0	0	0	1	1	3	3	10	3	4	1	1	27 (0)
1961 36	1	0	1	0	2	3	4	6	6	4	1	1	29 (0)
62 37	0	1	0	1	2	0	5	8	4	5	3	1	30 (+)
63 38	0	0	0	1	0	4	4	3	5	4	0	3	24 (-)
64 39	0	0	0	0	2	2	7	5	6	5	6	1	34 (+)
65 40	2	1	1	1	2	3	5	5	8	2	2	0	32 (+)
66 41	0	0	0	1	2	1	4	10	9	4	3	1	35 (+)
67 42	0	1	2	1	1	1	7	9	9	4	3	1	39 (+)
68 43	0	0	0	1	1	1	3	8	3	5	5	0	27 (0)
69 44	1	0	1	1	0	0	3	4	3	3	2	1	19 (-)
70 45	0	1	0	0	0	2	3	6	5	5	4	0	26 (0)
1971 46	1	0	1	3	4	2	8	5	6	4	2	0	36 (+)
72 47	1	0	0	0	1	3	6	5	5	5	3	2	31 (+)
73 48	0	0	0	0	0	0	7	5	2	4	3	0	21 (-)
74 49	1	0	1	1	1	4	4	5	5	4	4	2	32 (+)
75 50	1	0	0	0	0	0	2	4	5	5	3	1	21 (-)
76 51	1	1	0	2	2	2	4	4	5	1	1	2	25 (0)
77 52	0	0	1	0	0	1	3	3	5	5	1	2	21 (-)
78 53	1	0	0	1	0	3	4	8	5	4	4	0	30 (+)
79 54	1	0	1	1	2	0	4	2	6	3	2	2	24 (-)
80 55	0	0	0	1	4	1	4	2	6	4	1	1	24 (-)
1981 56	0	0	1	2	0	3	4	8	4	2	3	2	29 (0)
82 57	0	0	3	0	1	3	3	5	5	3	1	1	25 (0)
83 58	0	0	0	0	0	1	3	5	2	5	5	2	23 (-)
84 59	0	0	0	0	0	2	5	5	4	7	3	1	27 (0)
85 60	2	0	0	0	1	3	1	8	5	4	1	2	27 (0)
86 61	0	1	0	1	2	2	3	5	3	5	4	3	29 (0)
87 62	1	0	0	1	0	2	4	4	6	2	2	1	23 (-)
88 63	1	0	0	0	1	3	2	8	8	5	2	1	31 (+)
89 H.1	1	0	0	1	2	2	7	5	6	4	3	1	32 (+)
90 2	1	0	0	1	1	3	4	6	4	4	4	1	29 (0)
1991 3	0	0	2	1	1	1	4	5	6	3	6	0	29 (0)
92 4	1	1	0	0	0	2	4	8	5	7	3	0	31 (+)
93 5	0	0	1	0	0	1	4	7	5	5	2	3	28 (0)
94 6	0	0	0	1	1	2	7	9	8	6	0	2	36 (+)
95 7	0	0	0	1	0	1	2	6	5	6	1	1	23 (-)
96 8	0	1	0	1	2	0	5	6	6	2	2	1	26 (0)
97 9	0	0	0	2	3	3	4	6	4	3	2	1	28 (0)
98 10	0	0	0	0	0	0	1	3	5	2	3	2	16 (-)
99 11	0	0	0	2	0	1	4	6	6	2	1	0	22 (-)
2000 12	0	0	0	0	2	0	5	6	5	2	2	1	23 (-)
01 13	0	0	0	0	1	2	5	6	5	3	1	3	26 (0)
02 14	1	1	0	0	1	3	5	6	4	2	2	1	26 (0)
03 15	1	0	0	1	2	2	2	5	3	3	2	0	21 (-)
04 16	0	0	0	1	2	5	2	8	3	3	3	2	29 (0)
05 17	1	0	1	1	1	0	5	5	5	2	2	0	23 (-)
06 18	0	0	0	0	1	1	3	7	3	4	2	2	23 (-)
07 19	0	0	0	1	1	0	3	4	5	6	4	0	24 (-)
08 20	0	0	0	1	4	1	2	4	4	2	3	1	22 (-)
09 21	0	0	0	0	2	2	2	5	7	3	1	0	22 (-)
平年値 1971-2000	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7

台風の発生月：熱帯低気圧が台風(風速およそ17.2m/s以上)となった月とする。
 合計の(-)は25個未満、(0)は25個以上30個未満、(+)は30個以上を示す。

資料2-1-2 日本への台風上陸数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
52 27	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
53 28	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
54 29	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5
55 30	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	4
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
57 32	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
58 33	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
60 35	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4
1961 36	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	3
62 37	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	5
63 38	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
64 39	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
65 40	0	0	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	5
66 41	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	5
67 42	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
68 43	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
70 45	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	4
72 47	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3
73 48	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
74 49	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
75 50	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
76 51	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
77 52	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
78 53	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
79 54	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
80 55	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
82 57	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	4
83 58	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
84 59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
85 60	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3
86 61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
87 62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
88 63	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	5
90 2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	1	0	6
1991 3	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
92 4	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
93 5	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	6
94 6	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
95 7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
96 8	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
97 9	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	4
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
99 11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
2000 12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2001 13	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
02 14	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
03 15	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
04 16	0	0	0	0	0	2	1	3	2	2	0	0	10
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
06 18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	3
08 20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
09 21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
平年値 1971-2000	-	-	-	-	-	0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0	-	2.6

台風の日本への上陸：台風の中心が北海道・本州・四国・九州の海岸線に達した場合をいう。
小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は通過とする。

資料2-1-3 日本への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1951 S.26	0	0	0	0	1	1	3	1	1	2	0	0	8
52 27	0	0	0	0	0	1	2	3	2	2	3	0	12
53 28	0	0	0	0	0	1	2	4	1	3	0	0	10
54 29	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	1	0	10
55 30	0	0	0	1	0	0	7	3	1	4	0	1	16
56 31	0	0	0	1	0	0	1	3	6	0	0	0	10
57 32	0	0	0	0	0	1	0	3	3	2	2	0	10
58 33	0	0	0	0	0	4	5	2	3	0	1	0	15
59 34	0	0	0	1	0	0	1	3	3	3	2	0	13
60 35	0	0	0	0	0	3	2	11	1	2	0	1	19
1961 36	0	0	0	0	1	2	2	4	4	3	0	0	15
62 37	0	0	0	0	1	0	4	6	2	1	1	0	14
63 38	0	0	0	0	0	3	2	2	2	3	0	0	12
64 39	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1	0	0	8
65 40	0	0	0	0	1	3	1	4	4	1	1	0	15
66 41	0	0	0	0	2	2	1	7	8	1	0	0	19
67 42	0	0	0	1	0	0	3	4	3	2	1	0	13
68 43	0	0	0	0	0	1	2	2	4	1	0	0	10
69 44	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	2	0	8
70 45	0	0	0	0	0	0	2	4	3	0	0	0	9
1971 46	0	0	0	1	1	0	2	3	5	1	1	0	13
72 47	0	0	0	0	0	0	3	3	2	3	0	0	11
73 48	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4
74 49	0	0	0	0	0	1	3	4	3	0	0	0	10
75 50	0	0	0	0	0	0	1	4	1	2	2	0	9
76 51	0	0	0	1	2	2	5	2	1	0	2	0	13
77 52	0	0	0	0	0	0	1	4	2	0	0	0	6
78 53	0	0	0	0	0	2	3	6	3	1	1	0	14
79 54	0	0	0	0	1	0	0	2	2	3	0	0	7
80 55	0	0	0	0	1	0	0	2	3	2	1	0	9
1981 56	0	0	0	0	0	2	3	3	2	2	1	0	11
82 57	0	0	0	0	1	2	3	4	3	1	0	0	13
83 58	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	1	0	7
84 59	0	0	0	0	0	1	2	2	1	1	1	1	9
85 60	0	0	0	0	1	1	2	7	2	2	0	0	12
86 61	0	0	0	0	1	1	2	3	3	1	1	0	12
87 62	0	0	0	0	0	1	5	2	1	2	0	0	10
88 63	0	0	0	0	0	2	1	4	4	2	0	0	13
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	3	4	3	1	0	0	11
90 2	0	0	0	0	1	1	1	5	3	1	1	1	14
1991 3	0	0	0	0	1	0	1	4	5	2	1	0	14
92 4	0	0	0	0	0	1	1	5	3	2	3	0	14
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	0	0	9
94 6	0	0	0	0	1	0	4	6	3	2	2	0	15
95 7	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
96 8	0	0	0	0	2	0	3	2	3	1	1	0	10
97 9	0	0	0	1	1	3	1	3	3	2	1	0	15
98 10	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	0	0	8
99 11	0	0	0	1	0	0	3	4	3	0	1	0	11
2000 12	0	0	0	0	2	0	4	4	3	1	1	0	15
01 13	0	0	0	0	1	0	2	2	4	2	0	0	11
02 14	0	0	0	0	0	1	6	2	3	1	1	0	13
03 15	0	0	0	1	1	2	0	2	3	1	1	1	12
04 16	0	0	0	1	1	3	3	6	3	3	0	1	19
05 17	0	0	0	1	0	1	2	3	4	2	0	0	12
06 18	0	0	0	0	0	0	3	4	2	1	0	0	10
07 19	0	0	0	0	1	0	1	4	3	3	0	0	12
08 20	0	0	0	0	3	1	2	1	2	1	0	0	9
09 21	0	0	0	0	1	0	0	3	3	2	0	0	8
平年値 1971-2000	-	-	-	0.1	0.5	0.7	2.1	3.4	2.6	1.3	0.7	0.1	10.8

台風の接近：台風が日本から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-4 北海道・本州・四国・九州への台風接近数一覧表

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1951 S.26	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	4
52 27	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	1	0	7
53 28	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	4
54 29	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	6
55 30	0	0	0	0	0	0	5	1	1	4	0	0	10
56 31	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	5
57 32	0	0	0	0	0	1	0	2	2	0	0	0	5
58 33	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	5
59 34	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	0	0	6
60 35	0	0	0	0	0	1	0	5	1	0	0	0	7
1961 36	0	0	0	0	0	1	2	3	1	1	0	0	7
62 37	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	8
63 38	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	6
64 39	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
65 40	0	0	0	0	1	1	0	2	4	0	1	0	9
66 41	0	0	0	0	1	2	0	2	4	1	0	0	9
67 42	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0	0	5
68 43	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	5
69 44	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
70 45	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	5
1971 46	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	6
72 47	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0	0	6
73 48	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
74 49	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0	4
75 50	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	4
76 51	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	4
77 52	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
78 53	0	0	0	0	0	1	1	3	1	1	0	0	7
79 54	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	5
80 55	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
1981 56	0	0	0	0	0	1	1	2	1	1	0	0	6
82 57	0	0	0	0	0	1	0	2	2	1	0	0	6
83 58	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	4
84 59	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2
85 60	0	0	0	0	0	1	1	4	2	1	0	0	6
86 61	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0	0	5
87 62	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	5
88 63	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	6
89 H. 1	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0	0	0	7
90 2	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	0	8
1991 3	0	0	0	0	0	0	1	3	4	1	0	0	9
92 4	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	0	0	5
93 5	0	0	0	0	0	0	3	2	2	1	0	0	8
94 6	0	0	0	0	0	0	1	2	2	1	0	0	6
95 7	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
96 8	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	4
97 9	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	6
98 10	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	6
99 11	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	5
2000 12	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	5
01 13	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	4
02 14	0	0	0	0	0	1	4	2	0	1	0	0	8
03 15	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6
04 16	0	0	0	0	1	2	1	4	2	3	0	0	12
05 17	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
06 18	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
07 19	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	5
08 20	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
09 21	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	4
平年値	-	-	-	-	0.0	0.3	1.2	1.6	1.6	0.7	0.0	-	5.2
1971-2000													

台風の北海道・本州・四国・九州への接近: 台風が中心が北海道・本州・四国・九州から概ね300km以内に入った場合をいう。

接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

資料2-1-5 平成21年(2009年)に発生した台風の一覧表

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値		熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置		消滅前の最後に確認された日時と位置、又は域外で最初に確認された日時			
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	風速	強風域半径	月日時	北緯	東経	種類	月日時	北緯
1	KUJIRA	5 1 21	12.8	124.1	5 3 03	13.4	124.6	5 5 15	940	5 6 15	240	L	5 8 03	32.3	149.3
2	CHAN-HOM	5 3 03	9.7	111.1	5 3 21	9.9	111.6	5 7 15	975	5 7 15	SE:220 NW:190	TD	5 9 09	17.2	127.5
3	LINFA	6 17 15	17.4	116.7	6 18 09	17.6	116.1	6 21 09	975	6 21 15	S:300 N:190	TD	5 22 15	27.4	120.7
4	NANGKA	6 22 21	10.8	129.0	6 23 15	11.8	125.3	6 24 21	994	6 24 15	300	TD	6 27 03	23.0	114.2
5	SOUDELOR	7 20 03	18.7	121.7	7 11 09	19.8	115.4	7 12 03	992	7 12 03	190	TD	7 12 09	20.5	110.4
6	MOLAVE	7 15 09	14.1	128.6	7 16 15	16.6	125.1	7 18 21	975	7 18 15	SE:440 NW:240	TD	7 19 15	23.3	111.1
7	GONI	8 1 15	16.6	123.2	8 3 21	19.7	115.3	8 5 21	990	8 5 03	S:330 N:150	TD	8 8 15	18.4	108.2
8	MORAKOT	8 3 03	20.1	133.4	8 3 09	20.3	133.8	8 7 09	945	8 7 03	650	TD	8 11 03	31.0	120.5
9	ETAU	8 8 09	22.7	139.7	8 9 15	27.0	135.2	8 12 15	992	8 13 03	SE:370 NW:150	TD	8 13 09	33.8	151.7
10	VAMCO	8 16 21	11.6	160.7	8 18 03	14.5	158.3	8 22 03	945	8 26 03	SE:370 NW:220	TD	8 26 09	51.4	169.3
11	KROVANH	8 28 09	21.4	149.1	8 28 21	23.8	149.0	8 31 09	975	9 1 15	NE:370 SW:220	L	9 1 21	42.9	148.2
12	DUJUAN	9 3 03	17.5	130.1	9 4 03	17.1	128.2	9 10 09	980	9 6 03	SE:600 NW:480	L	9 10 15	45.5	167.4
13	MUJIGAE	9 9 09	16.9	119.1	9 10 09	19.0	114.9	9 11 15	994	9 10 15	N:240 S:90	TD	9 12 09	20.0	106.0
14	CHOI-WAN	9 12 09	14.3	153.5	9 13 03	15.4	150.9	9 17 03	915	9 20 09	SE:560 NW:390	L	9 20 21	36.8	152.3
15	KOPPU	9 13 09	19.5	120.3	9 14 03	19.7	116.6	9 15 03	975	9 14 15	300	TD	9 15 21	23.3	109.5
16	KETSANA	9 25 09	14.2	127.9	9 26 09	15.1	122.4	9 29 09	960	9 28 21	E:440 W:410	TD	9 30 15	15.3	107.1
17	PARMA	9 28 03	9.4	145.5	9 29 15	7.8	138.9	10 1 21	930	10 5 09	330	TD	10 14 09	20.3	107.1
18	MELOR	9 29 15	9.6	160.4	9 30 09	11.5	156.2	10 5 03	910	10 8 18	SE:650 NW:560	L	10 8 21	40.0	143.6
19	NEPARTAK	10 8 09	15.2	143.8	10 9 15	19.4	142.7	10 13 15	992	10 14 03	E:280 W:220	L	10 14 09	34.0	160.0
20	LUPIIT	10 14 21	10.9	148.8	10 15 21	12.1	140.2	10 19 15	930	10 19 15	440	L	10 27 09	38.3	146.1
21	MIRINAE	10 26 03	11.8	152.5	10 27 15	14.9	143.7	10 29 09	955	10 30 09	N:370 S:220	TD	11 3 03	13.0	106.7
22	NIDA	11 22 03	6.7	148.3	11 23 21	8.5	147.1	11 26 09	905	11 30 03	NW:480 SE:300	TD	12 3 09	21.7	134.2

表中の日時はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解析し、5m/s単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧、「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、又は東経100°より西側の領域。

2-2 平成 21 年(2009 年)に日本に影響した主な台風

日本に影響*した主な台風について以下に概要を示す。

* 台風の中心が日本から概ね500kmに入った場合を本稿では「日本に影響した台風」とした。

(1) 台風第1号(0901 KUJIRA)

5月1日21時にルソン島の南東沿岸付近で発生した熱帯低気圧は、ゆっくりと北東へ進み、3日03時に同海域で台風第1号となった。台風は勢力を強めながら進み、5日03時にフィリピンの東海上で勢力が最大となった。台風は、勢力を弱めながら北東へ進み、7日に小笠原諸島付近を通過して8日03時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は、さらに北東へ進み、13日21時にカムチャツカ半島の東海上で消滅した。

(2) 台風第3号(0903 LINFA)

6月17日15時に南シナ海で発生した熱帯低気圧は、ほとんど停滞し、18日09時に同海域で台風第1号となった。台風は勢力を強めながら北へ進み、20日15時に同海域で勢力が最大となった。台風は、その後勢力を弱めながら中国大陸の南岸に沿って北東へ進み、22日15時に熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は、東シナ海を東北東に進み、23日15時に温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は本州南岸を通過して、7月1日03時にカムチャツカ半島の東海上で消滅した。

(3) 台風第6号(0906 MOLAVE)

7月15日09時にフィリピンの東海上で発生した熱帯低気圧は、北西に進み、16日15時にルソン島の東海上で台風第6号となった。台風は、ルソン島の北で西北西に向きを変えた後、18日03時に勢力が最大となった。台風は、勢力を維持したまま南シナ海をさらに西北西に進み、19日03時に香港の北に達した。台風は、その後急速に勢力を弱め、19日15時に熱帯低気圧に変わり、19日21時に中国大陸南部で消滅した。

(4) 台風第8号(0908 MORAKOT)

8月3日03時に南大東島の南東海上で発生した熱帯低気圧は、3日09時に同海域で台風第8号となった。4日、台風は東から西に進路を変えて沖縄の南東海上を進み、7日00時に石垣島の南海上で勢力が最大となった。台風は、さらに西に進み、7日夜に台湾に上陸した。台風は、勢力を弱めながら進路を北に変え、9日夜に福建省に達し、11日03時に上海の南西で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は、進路を北東に変えて黄海を進み、12日03時に黄海で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は、その後も北東へ進み、12日15時に朝鮮半島付近で消滅した。

(5) 台風第9号(0909 ETAU)

8月8日09時に硫黄島の南西海上で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、9日15時に日本の南海上で台風第9号となった。台風は、次第に向きを北東へ変え、10日09時に勢力が最大となった。台風は、勢力を弱めながら本州南岸を東へ進み、進路を北に変えた直後の13日09時に日本の東海上で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は、北東へ進路を変え、14日21時に日本のはるか東海上で温

帯低気圧に変わり、さらに東北東に向きを変え、16日09時前にアリューシャンの南海上で経度180度線を越えた。

(6) 台風第11号 (0911 KROVANH)

8月28日09時に北マリアナ諸島の東で発生した熱帯低気圧は北へ進み、28日21時に小笠原諸島の南東海上で台風第11号となった。台風は、向きを北西へ変え、31日03時に勢力が最大となった。台風は、再び北に向きを変え、31日に八丈島の東を通過した。台風は、加速しながら北東へ向きを変え、本州の東海岸に沿って進み、9月1日21時に北海道の東海上で温帯低気圧となった。温帯低気圧は東へ進み、2日21時に千島の南海上で消滅した。

(7) 台風第12号 (0912 DUJUAN)

9月3日03時にルソン島の東海上で発生した熱帯低気圧は、ゆっくりと西に進み、東に向きを変えた後の4日03時に台風第12号となった。台風は、同海域で北東に向きを変え、5日09時に勢力が最大となった。台風は、勢力を維持したまま次第に北に向きを変えて進み、日本の南海上で加速しながら東北東に向きを変え、日本の東海上で北東に向きを変えて進んだ。台風は、10日15時にアリューシャンの南海上で温帯低気圧に変わり、11日21時前に経度180度線を越えた。

(8) 台風第14号 (0914 CHOI-WAN)

9月12日09時にサイパン島の東海上で発生した熱帯低気圧は、西北西に進み、13日03時に同海域で台風第14号となった。台風は、西に向きを変えて急速に発達し、再び西北西に向きを変え、15日21時にサイパン島の北海上で勢力が最大となった。台風は、向きを北東に変え、加速しながら小笠原諸島の北海上を通過し、20日21時に日本の東海上で温帯低気圧となり、21日09時に消滅した。

(9) 台風第18号 (0918 MELOR)

9月29日15時にマーシャル諸島の西海上で発生した熱帯低気圧は、西北西に進み、30日09時にポンペイ島の北海上で台風第18号となった。台風は、西北西の向きを維持しながら急速に発達し、10月4日15時にマリアナ諸島の西海上で勢力が最大となった。台風は、6日に南大東島の西海上で向きを北に変え、日本の南海上を北東に進んだ。台風は、北東の向きを維持しながら、8日05時過ぎに知多半島付近に上陸し、東海地方、関東甲信、東北地方を縦断して、8日21時に三陸沖で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は東に向きを変え、11日15時にアリューシャンの南海上で消滅した。

(10) 台風第19号 (0919 NEPARTAK)

10月8日09時にサイパン島の西海上で発生した熱帯低気圧は、北北西へ進み、9日15時に北マリアナ諸島の西海上で台風第19号となった。台風は、北東へ向きを変え、12日09時に小笠原諸島の東海上で勢力が最大となった。台風は、加速しながら東北東へ向きを変え、14日09時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は、16日03時前にアリューシャンの南海上で経度180度線を越えた。

(11) 台風第20号 (0920 LUPIT)

10月14日21時にグアム島の南東海上で発生した熱帯低気圧は、西から西北西へ向きを変えて進み、15日21時にヤップ島の北東海上で台風第20号となった。台風は、フィリピンの東海上に達した後時計回りにゆっくりと北へ向きを変え、19日03時に勢力が最大となった。台風は、徐々に勢力を弱めながら西北西へ向きを変えた後、西南西へ向きを変えた。台風は、ゆっくりと進みながらルソン島の北東沿岸付近で北東へ急に向きを変え、沖縄の南海上に達した後、加速しながら日本の南海上を北東へ進み、27日09時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は、31日09時にアリューシャンの北海上で消滅した。

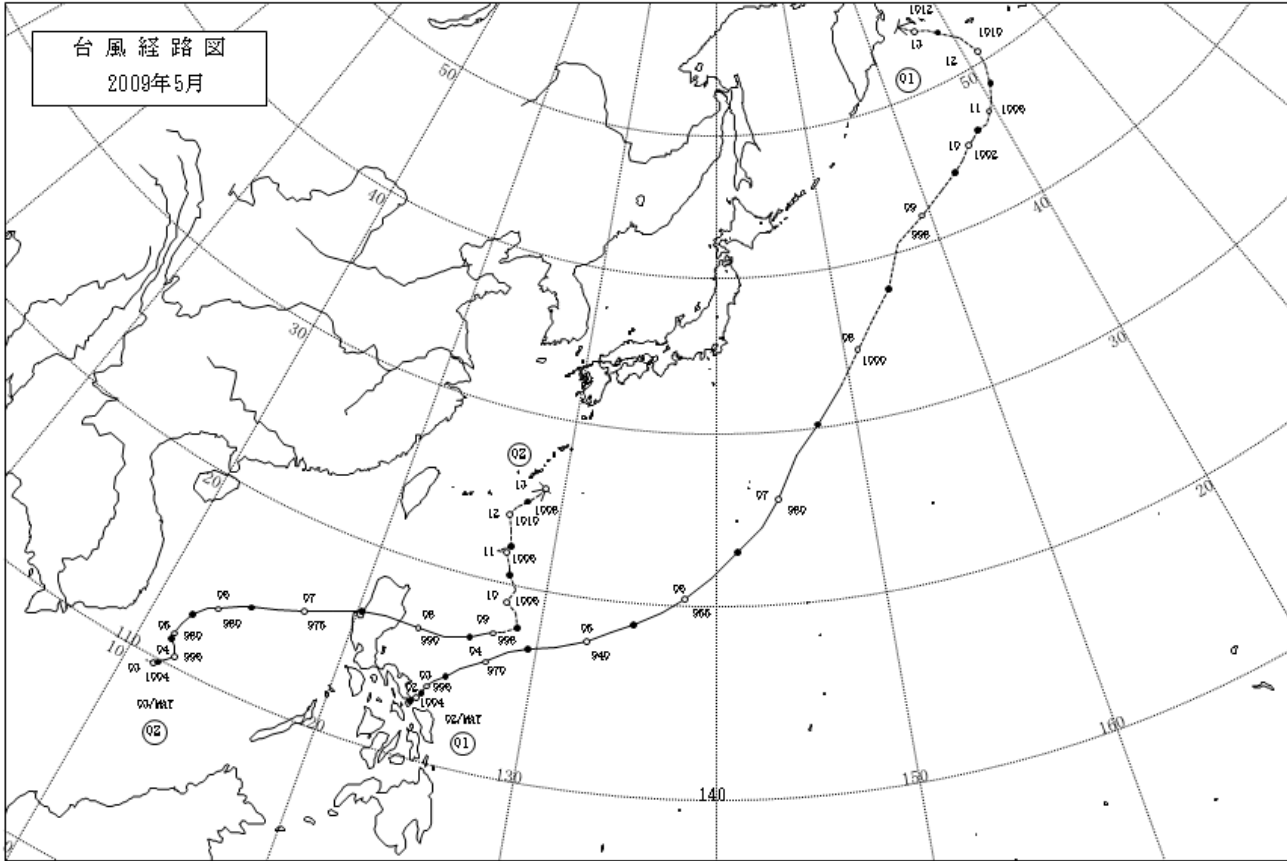
資料2-2-1 平成21年(2009年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧、温帯低気圧の期間は除く)

台風 番号	日本への影響				日本への接近				上陸、通過
	月日		地域	月日		地域			
	始	終		始	終				
1	5/6	5/7	小笠原諸島	5/7	5/7	小笠原諸島			
3	6/21	6/22	沖縄地方						
6	7/17	7/18	沖縄地方						上陸または通過せず
8	8/5	8/10	沖縄・奄美		8/6	8/9	沖縄地方		上陸または通過せず
9	8/9	8/12	沖縄・奄美、西日本、東日本、伊豆諸島、東北地方		8/10	8/11	四国地方、近畿地方、東海地方、関東甲信地方、伊豆諸島		上陸または通過せず
11	8/29	9/1	四国地方、近畿地方、東日本、伊豆諸島、小笠原諸島、北日本		8/30	9/1	東日本、北日本、伊豆諸島		上陸または通過せず
12	9/5	9/9	沖縄地方、近畿地方、東海地方、関東甲信地方、伊豆諸島、小笠原諸島		9/8	9/8	伊豆諸島		上陸または通過せず
14	9/18	9/20	伊豆諸島、小笠原諸島		9/19	9/19	小笠原諸島		上陸または通過せず
18	10/6	10/8	沖縄・奄美、西日本、東日本、北日本		10/6	10/8	沖縄・奄美、西日本、東日本、伊豆諸島、北日本		8日午前5時過ぎ愛知県知多半島付近に上陸
19	10/11	10/13	小笠原諸島						
20	10/23	10/27	沖縄地方、九州南部・奄美地方、四国地方、近畿地方、東海地方、関東甲信地方、伊豆諸島、東北地方		10/24	10/27	沖縄・奄美、東海地方、関東地方、伊豆諸島		上陸または通過せず

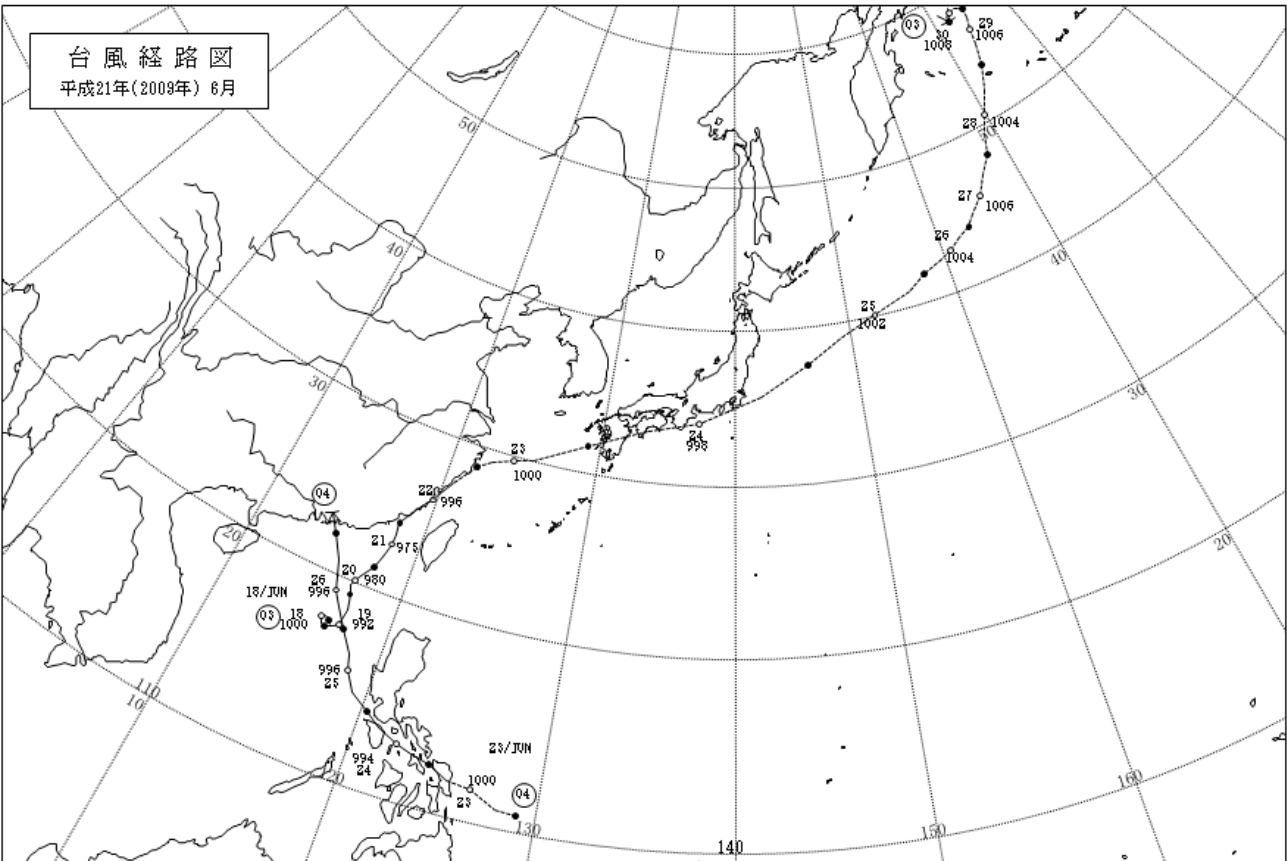
*台風の中心が日本から概ね300kmに入った場合を「日本に接近した台風」とした。

*台風の中心が日本から概ね500kmに入った場合を「日本に影響した台風」とした。

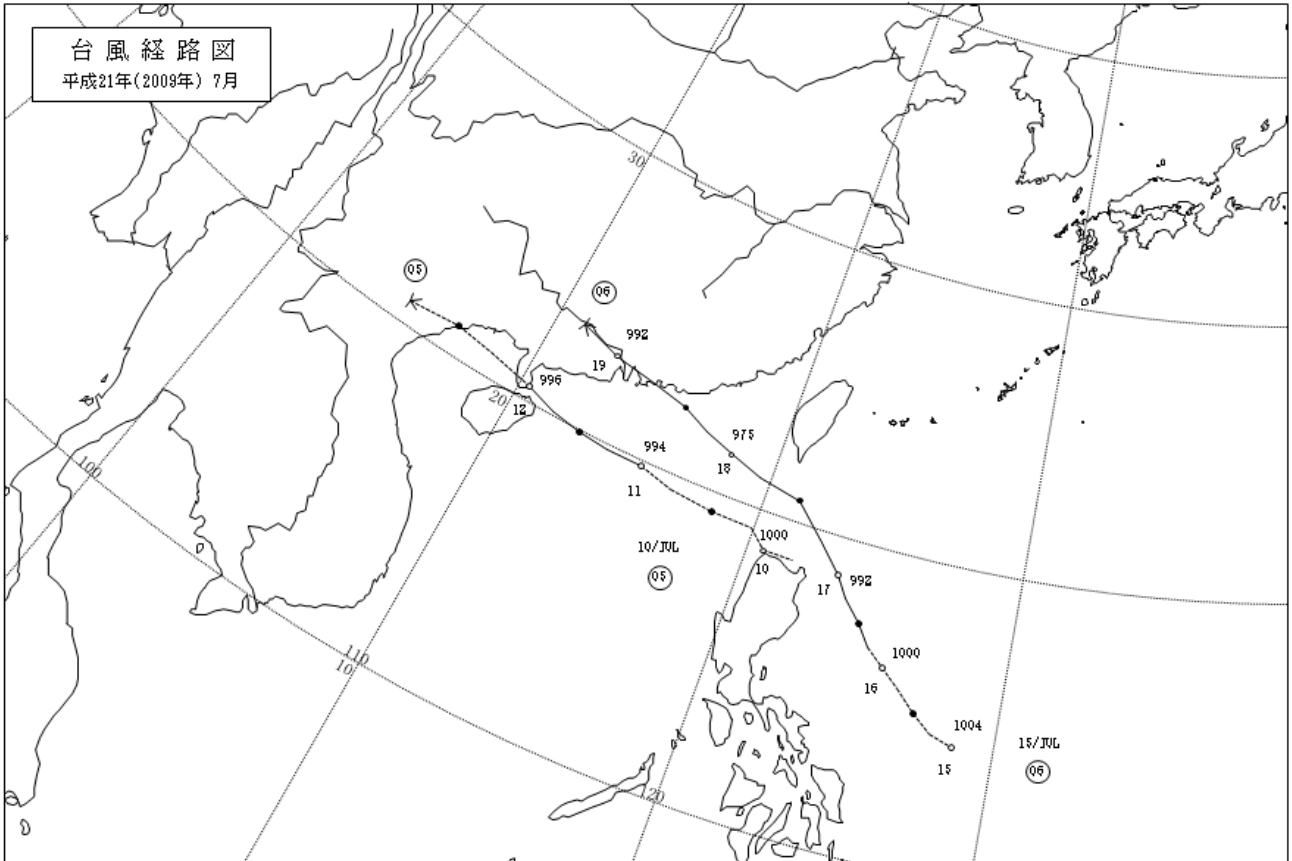
資料 2-2-2 平成 21 年 (2009 年) に発生した台風の経路図



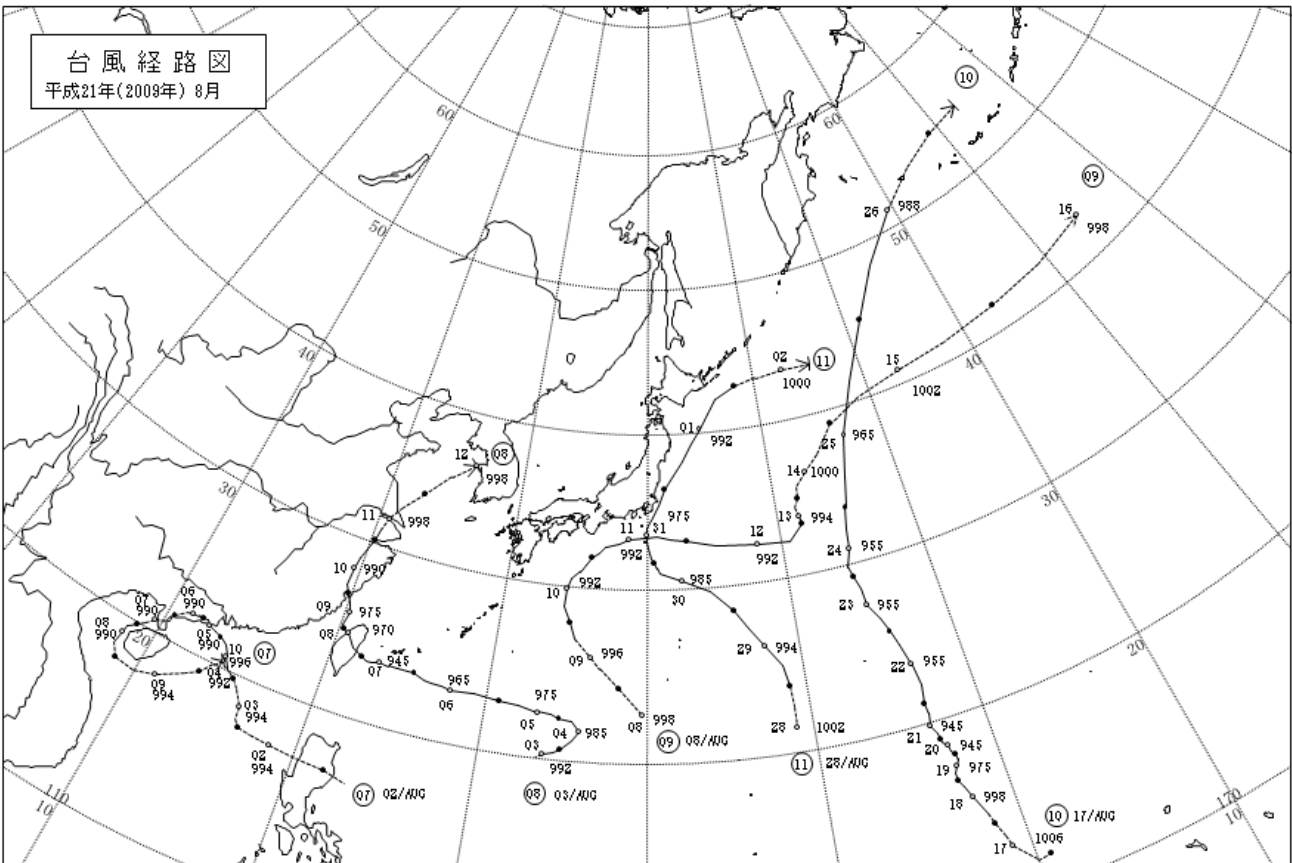
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は例に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。



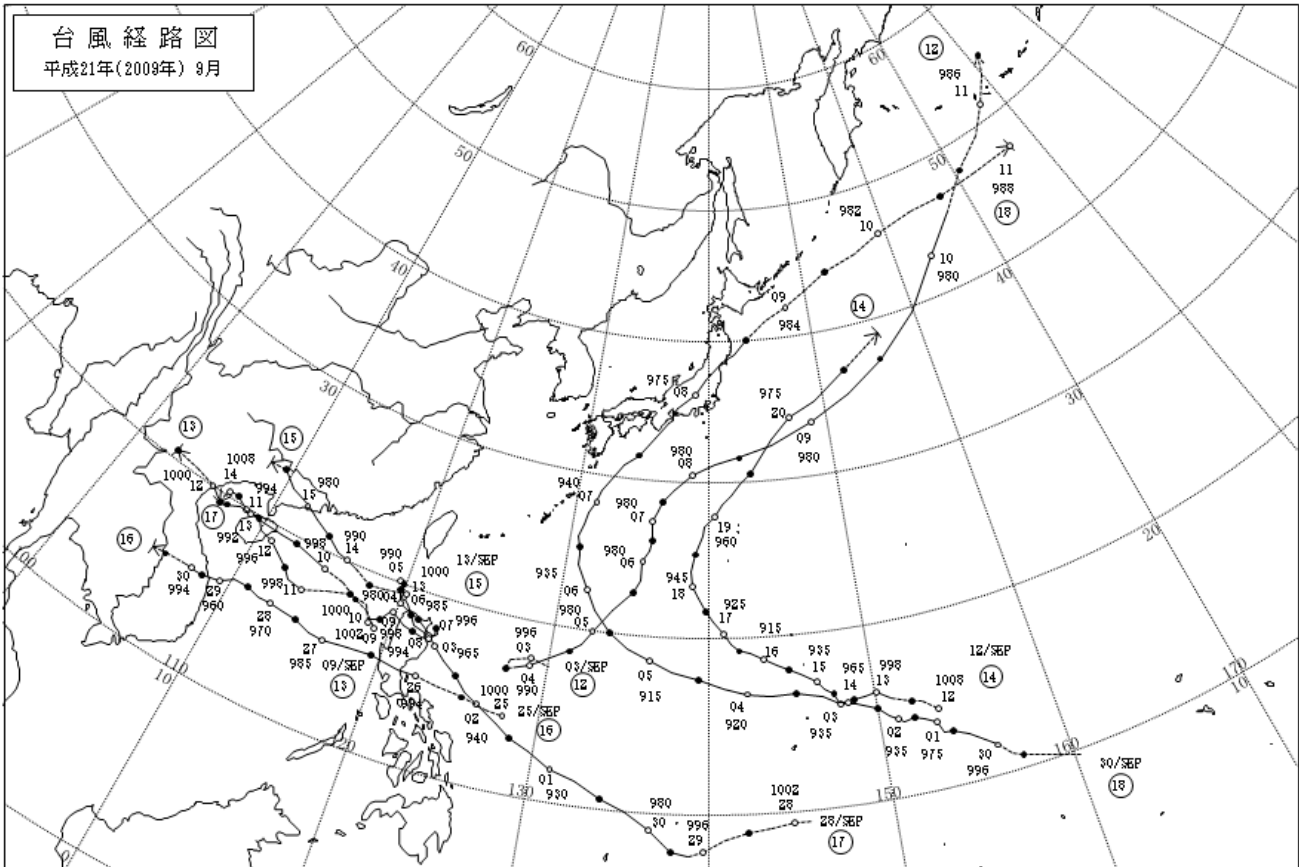
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は例に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。



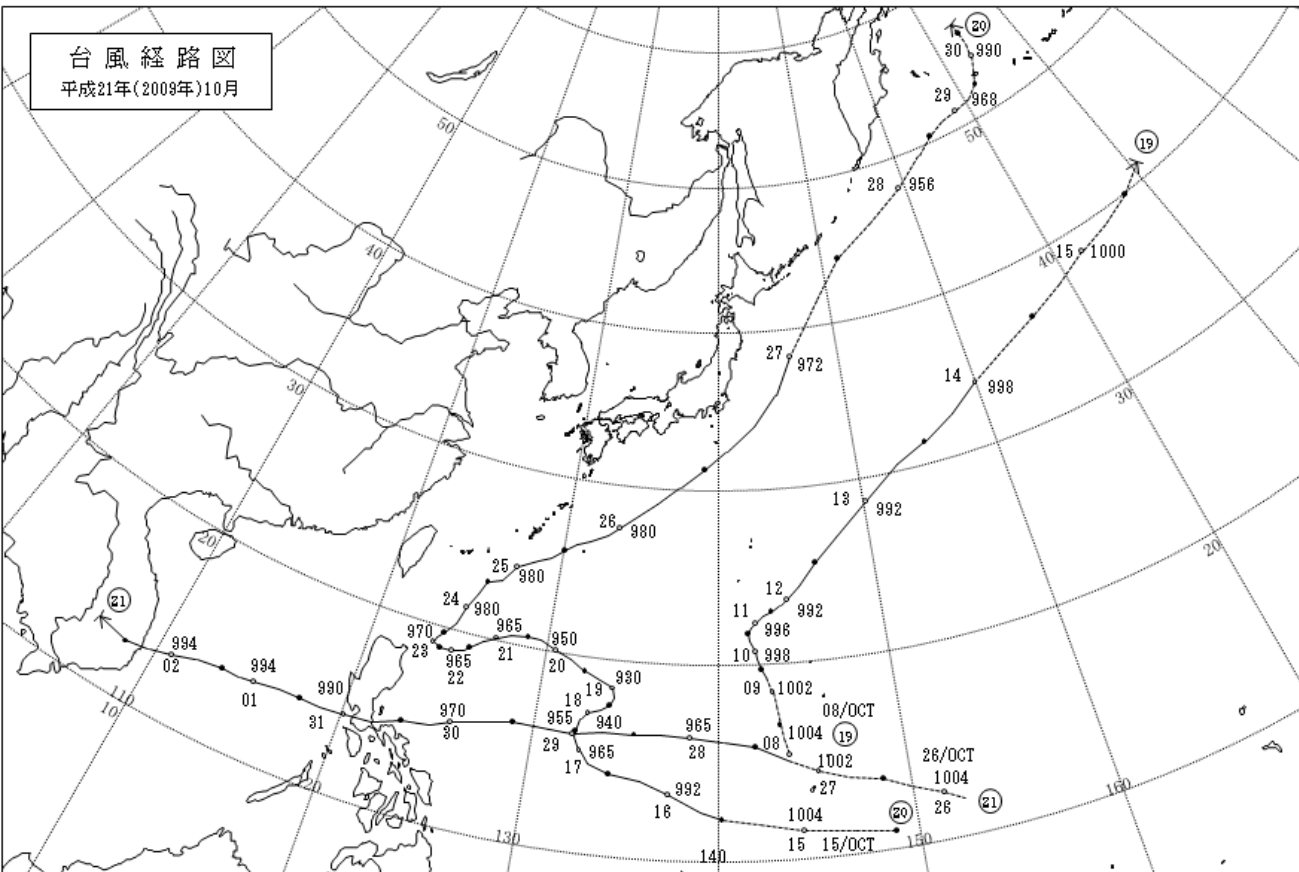
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。



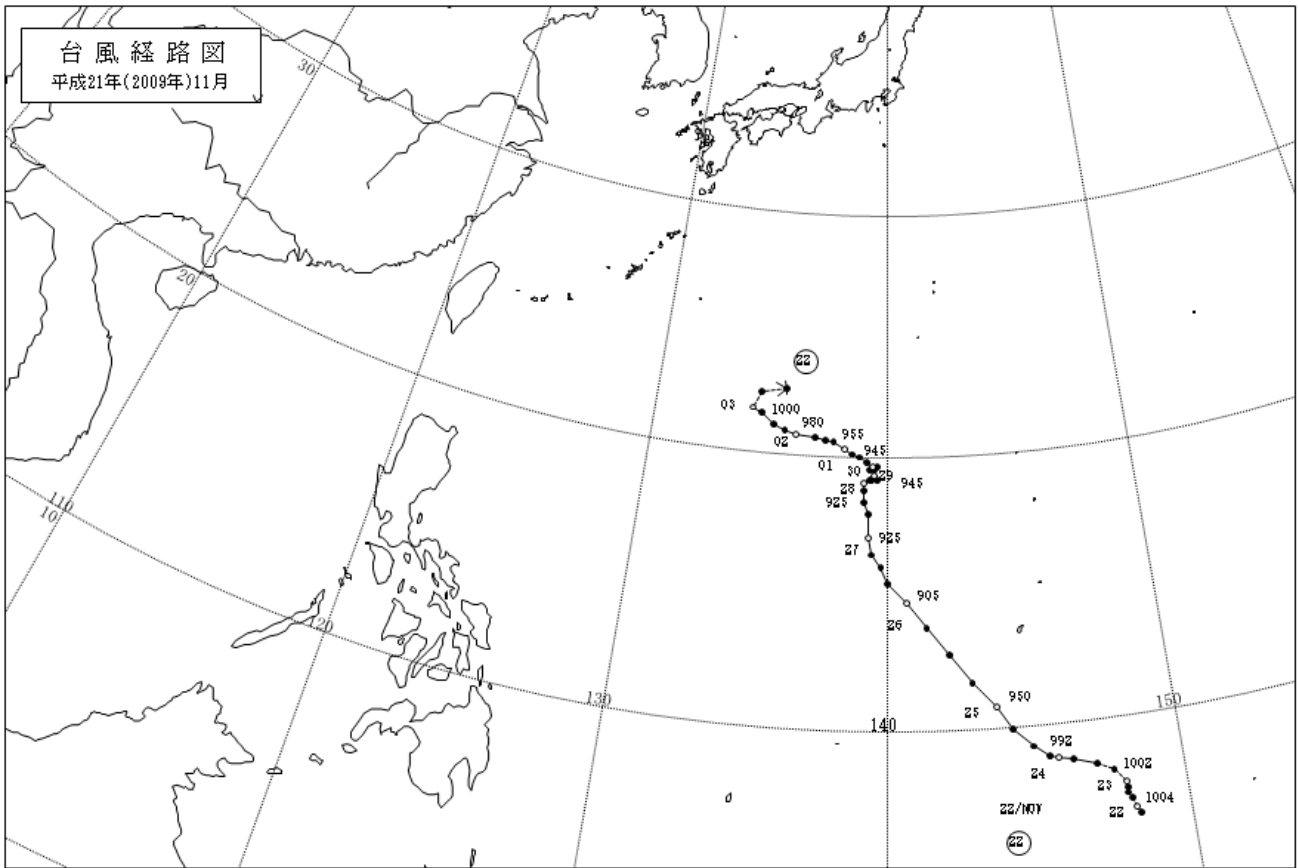
丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は例に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は例に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。



丸で囲った数字は台風番号である。経路上の○印は傍に記した日の9時、●印は21時の位置で、→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧・温帯低気圧の期間を示す。

3 平成21年（2009年）の天気概況

1月

冬型の気圧配置が続く（1日～7日）

1日は、低気圧が北海道の東海上を南東へ進み、日本付近は引き続き強い冬型の気圧配置（以下、冬型と略す）となった。沖縄本島地方から西日本の太平洋側にかけての一部で雨が降り、西日本の日本海側で雪や雨が降り、北陸から北日本の日本海側やオホーツク海側にかけて雪が降った。山陰から北陸の一部では雷を伴った。東日本から北日本にかけての太平洋側では概ね晴れた。

2日は、日本付近は引き続き強い冬型となった。沖縄・奄美の一部や四国から近畿南部の一部で雨が降り、九州北部の一部や中国地方から近畿北部にかけて雪や雨が降り、北陸から北日本の日本海側やオホーツク海側にかけて雪が降った。山陰から北陸にかけての一部では雷を伴った。東海地方から東北地方の太平洋側にかけては概ね晴れた。

3日は、冬型が西日本から緩み始めた。沖縄の一部で雨が降り、西日本の日本海側の一部や北陸で雨や雪が降り、北海道の一部や東北地方の日本海側で雪が降った。弱い気圧の谷の影響で伊豆諸島では曇ったが、西日本から東北地方にかけての太平洋側では概ね晴れた。

4日は、西日本から東日本で冬型が緩んだ。山陰から近畿北部にかけての一部で雨が降り、北陸の一部で雨や雪が降り、北日本の日本海側を中心に雪が降った。沖縄・奄美や九州北部の日本海側では概ね曇りとなり、西日本から東日本にかけての太平洋側では概ね晴れた。

5日は、日本付近は引き続き弱い冬型となった。南西諸島の一部や四国の一部と山陰から北陸にかけて雨が降り、東北地方の日本海側で雨や雪が降り、北海道の日本海側を中心に雪が降った。弱い気圧の谷の影響で伊豆諸島では曇ったが、東日本から北日本にかけての太平洋側では概ね晴れた。

6日は、日本付近は引き続き弱い冬型となった。山陰から北陸にかけて雨が降り、東北地方の日本海側で雪や雨が降り、北海道の日本海側で雪が降った。弱い気圧の谷の影響で、先島諸島の一部では雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

7日は、冬型の影響が残り、北陸の一部で雨が降り、北日本の日本海側で雪が降った。弱い気圧の谷の影響で、山陰を中心に雨が降った。別の弱い気圧の谷の影響で、先島諸島で雨が降った。四国沖と関東の南海上に発生した低気圧が東へ進み、近畿南部から東海地方にかけての一部や伊豆諸島で雨が降った。

低気圧が日本付近を通過（8日～15日）

8日は、低気圧が日本の南海上を東へ進み、八丈島の南東海上で消滅した。また、南西諸島付近には弱い気圧の谷があり、四国沖に低気圧が発生した。九州南部から東海地方にかけての一部と南西諸島や伊豆諸島で雨が降った。日本海西部には別の弱い気圧の谷があり、低気圧が発生した。九州北部では概ね曇りとなり、北日本の日本海側を中心に曇りや雪となった。その他の地方は概ね晴れた。

9日は、四国沖の低気圧が前線を伴って本州南岸を北東へ進み、別の低気圧が日本海を北東へ進んだ。南西諸島の一部や四国から中国地方の一部と東海地方から北陸にかけて雨が降り、関東甲信から東北地方にかけて雨や雪が降った。山陰から北陸にかけての一部では雷を伴った。

10日は、北海道の西海上を低気圧が北へ進み、また、前線を伴う別の低気圧が発達しながら三陸沖を北東へ進み、日本付近に強い寒気が流れ込んだ。南西諸島の一部で雨が降り、西日本から東海地方や甲信地方にかけて雪や雨が降り、北陸から北日本にかけて雪が降った。山陰の一部では大雪となり、山陰から北陸にかけての一部では雷を伴った。関東では概ね晴れた。

11日は、北海道の南東海上の発達した低気圧が東へ進んだ。また、別の低気圧が沿海州付近を南西へ進み、夜には別の低気圧が日本海中部に発生した。日本付近には引き続き強い寒気が流れ込み、奄美地方で雨が降り、西日本の日本海側を中心に雪や雨が降り、北陸から東北地方の日本海側にかけてと北海道で雪が降った。関東甲信から東北地方の太平洋側にかけては概ね晴れた。

12日は、沿海州付近の低気圧は消滅したが、別の低気圧が日本海中部にほぼ停滞した。また、東海道沖に発生した低気圧が関東の東海上へ進んで前線を伴い、三陸沖には別の低気圧が発生した。南西諸島の一部や伊豆諸島で雨が降り、西日本から東日本にかけての太平洋側の一部で雪や雨が降り、北海道の一部と西日本の日本海側から北陸、東北地方にかけて雪が降った。山陰から東北地方にかけての日本海側では雷を伴い、奄美地方の一部や種子島・屋久島地方の一部では暴風を伴った。

13日は、低気圧が日本海から東北地方を通過して三陸沖へ進み、本州付近には寒気が流れ込んだ。沖縄本島地方から種子島・屋久島地方にかけて雨が降り、西日本から東海地方、甲信地方にかけての

一部で雪や雨が降り、北海道の一部と東北地方で雪が降った。山陰から東北地方の日本海側にかけては雷を伴った。関東では概ね晴れた。

14日は、北海道の西海上に発生した低気圧が北へ進んで消滅し、日本海中部に発生した別の低気圧が北海道の西海上へ進み、伴う寒冷前線が東日本や北日本を東へ進んだ。沖縄本島地方から種子島・屋久島地方にかけて雨が降り、西日本の日本海側を中心に雪や雨が降り、北陸から北日本にかけて雪が降った。北陸から北日本の日本海側では雷を伴った。東日本の太平洋側では概ね晴れた。

15日は、低気圧が北海道付近からオホーツク海へ進み、伴う寒冷前線は日本の東海上へ離れた。日本付近には強い寒気が流れ込み、山陰から近畿北部にかけて雪や雨が降り、北陸から北日本にかけて雪が降った。西日本から東日本にかけての太平洋側では概ね晴れた。

高気圧と低気圧が交互に通過（16日～21日）

16日は、低気圧がオホーツク海から千島近海へ進み、日本付近には引き続き寒気が流れ込んだ。九州北部から山陰にかけての一部と北陸で雨や雪が降り、北日本の日本海側で雪が降った。北陸では雷を伴った。高気圧が東シナ海を東へ移動し、その他の地方は概ね晴れた。

17日は、千島近海に低気圧があり、また、三陸沖に低気圧が発生して東へ進んだ。北陸では雷を伴って雪や雨が降り、北日本の日本海側を中心に雪が降った。その後、本州付近は高気圧に覆われた。南西諸島や西日本から北日本にかけての太平洋側では概ね晴れた。

18日は、日本海西部に発生した低気圧が前線を伴って東へ進んだ。また、華中から日本の南海上にかけて発生した前線が本州南岸へ北上した。西日本から東海地方、甲信地方、北陸にかけて雨が降り、北日本の一部では雨や雪が降った。九州北部から山陰にかけての一部では雷を伴った。沖縄・奄美と北日本の太平洋側では概ね晴れた。

19日は、日本海から北海道付近へ進んだ低気圧からのびる寒冷前線と、東シナ海から本州南岸付近を通して日本の東海上へ伸びる前線が日本付近を東へ進んだ。また、北海道付近の低気圧からのびる前線上の閉塞点に発生した低気圧が北東へ進んだ。南西諸島から九州南部にかけての一部や四国、中国地方の一部と近畿、東海地方、関東で雨が降り、甲信地方から北陸、東北地方にかけて雨や雪が降り、北海道で雪が降った。山陰から東北地方の日本海側にかけては雷を伴った。

20日は、低気圧が千島近海から千島の東海上へ進んだ。北陸の一部で雨や雪が降り、北日本の日本海側を中心に雪が降った。弱い気圧の谷の影響で、東日本の太平洋側では概ね曇った。高気圧が黄海から朝鮮半島付近へ移動し、南西諸島から四国にかけては概ね晴れた。

21日は、東シナ海に発生した低気圧が沖縄本島付近へ進み、沖縄・奄美では雨が降った。四国沖に発生した低気圧が紀伊半島沖へ進み、西日本から東日本にかけて雨が降り、甲信地方では雪も降った。寒気の影響が残った北海道の日本海側では雪が降った。

前線の通過後、強い寒気が流れ込む（22日～26日）

22日は、関東の南海上の低気圧は東へ進んで消滅したが、沖縄本島付近の低気圧が四国沖へ進んで前線を伴った。また、渤海の低気圧が沿海州へ進み、伴う温暖前線が秋田沖へ達した。北陸の一部や東北地方の太平洋側の一部と南西諸島から四国、山陽から近畿、東海地方から関東や伊豆諸島で雨が降り、甲信地方では雨や雪が降った。

23日は、前線を伴う低気圧が東海道沖から日本の東海上へ進んだ。また、沿海州からサハリン付近へ進んだ低気圧からのびる寒冷前線が東日本や北日本を東へ進み、前線の通過後には強い寒気が流れ込んだ。南西諸島では雨が降り、九州の一部や四国、中国地方から北日本にかけては雨や雪が降った。

24日は、前線を伴う低気圧が日本の東海上を北東へ進み、日本海に低気圧が発生した。また、日本付近には引き続き強い寒気が流れ込んだ。南西諸島の一部で雨が降り、四国の一部や関東の一部で雨や雪が降り、西日本から北日本にかけての日本海側を中心に雪が降った。九州北部から東北地方の日本海側にかけては雷を伴うところがあった。

25日は、低気圧が北海道の西海上からオホーツク海へ進み、また、華中の高気圧が日本の南海上へ張り出した。寒気の影響で、九州北部から山陰、四国の瀬戸内側、北陸で雪や雨が降り、東北地方の日本海側から北海道にかけて雪が降った。北陸から東北地方の日本海側にかけては雷を伴い、北海道太平洋側東部では暴風を伴うところがあった。東日本から東北地方にかけての太平洋側では概ね晴れた。

26日は、日本海北部に発生した低気圧がサハリン付近へ進み、また、東北北部に発生した低気圧が北海道の南海上へ進んだ。寒気の影響で、南西諸島の一部で雨が降り、九州北部から山陰、四国の瀬

戸内側、北陸で雨や雪が降り、北日本の日本海側を中心に雪が降った。北陸から東北地方の日本海側にかけては雷を伴った。関東から東北地方の太平洋側にかけては概ね晴れた。

高気圧に覆われた後、低気圧の影響で大雨（27日～31日）

27日は、寒気の影響が残り、山陰から近畿北部にかけての一部で雨や雪が降り、北陸や北日本の日本海側を中心に雪が降った。弱い気圧の谷の影響で南西諸島では雨が降った。別の弱い気圧の谷の影響で伊豆諸島では曇ったが、高気圧が黄海から日本海へ移動し、西日本から東日本にかけての太平洋側では概ね晴れた。

28日は、弱い気圧の谷の影響で、南西諸島から九州南部にかけての一部で雨が降った。別の弱い気圧の谷の影響で、関東から伊豆諸島にかけて概ね曇った。北海道の一部では雪が降ったが、高気圧が日本海から北海道の東海上へ移動し、その他の地方は概ね晴れた。

29日は、東シナ海に低気圧が発生し、南西諸島から四国、中国地方にかけて雨が降った。奄美地方や種子島・屋久島地方では、大雨となったところがあった。湿った空気が流れ込んだ関東から伊豆諸島にかけての一部では雨が降った。オホーツク海に発生した低気圧が東へ進み、伴う寒冷前線が北海道を東へ進んだ。北海道の日本海側を中心に雪が降った。日本の東海上には高気圧があり、その他の地方は概ね晴れた。

30日は、九州の西海上の低気圧は消滅したが、九州の南海上に発生した低気圧が紀伊半島沖へ進んだ。南西諸島から東日本にかけて雨が降り、東北地方では雨や雪が降った。四国から東海地方にかけての一部では雷を伴い、奄美地方や近畿から東海地方にかけては大雨となったところがあった。

31日は、東海道沖の低気圧が発達しながら関東の東海上へ進んだ。南西諸島の一部と西日本から東日本にかけて雨が降り、東北地方では雨や雪が降った。東海地方の一部や伊豆諸島の一部では雷を伴った。関東の一部では暴風を伴い、東海地方、関東南部、北陸では大雨となったところがあった。

2月

低気圧と高気圧が交互に通過（1日～4日）

1日は、低気圧が日本の東海上で発達し、日本付近は冬型の気圧配置（以下、冬型と略す。）となった。北日本の日本海側で雪が降り、北陸で雪や雨が降った。日本海西部に高気圧があり、湿った空気の流れ込んだ西日本の日本海側で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

2日は、日本海中部に低気圧が発生し、津軽海峡へ進んだ。北日本の日本海側では雪が降った。山陰沖の高気圧が四国沖へ移動し、西日本付近を覆った。九州の一部で雨が降った。関東南部は曇った。その他の地方は概ね晴れた。

3日は、東シナ海に低気圧が発生し、前線を伴って四国沖へ進んだ。西日本で雨が降った。津軽海峡の低気圧が前線を伴って北海道の東海上へ進んだ。北海道で雪や曇りとなり、東北地方の日本海側は雪や雨が降った。東北地方の一部では雷を伴った。北陸では前線の影響で雪や雨が降った。その他の地方では概ね晴れた。

4日は、日本の南海上の低気圧が東へ進み、伴う前線が沖縄本島付近から日本の東海上でほぼ停滞した。日本海中部には高気圧があり、本州付近を覆った。湿った空気の流れ込んだ関東や四国、中国地方では曇った。四国の太平洋側の一部や近畿南部の一部では雨を伴った。北海道と東北地方の日本海側で曇った。その他の地方は概ね晴れた。

北日本で低気圧が相次いで通過（5日～8日）

5日は、日本海中部に低気圧が発生し、釧路沖へ進んだ。北海道の日本海側で雪が降り、東北地方の日本海側で雪や雨が降り、北陸から中国地方にかけての日本海側は雨が降った。関東や九州北部の一部は曇った。先島諸島で雨が降った。

6日は、釧路沖の低気圧が東へ進み、北日本から東日本にかけて冬型となった。北海道と東北地方の日本海側で雪が降り、北陸で雪や雨が降った。黄海に高気圧があり、湿った空気の流れ込んだ先島諸島の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

7日は、日本海中部に低気圧が発生して前線を伴って津軽海峡へ進んだ。北海道の一部と東北地方で雪が降り、北陸で雨が降った。東北地方から北陸の一部では雷を伴った。日本の南海上に高気圧があり、その他の地方は概ね晴れた。

8日は、釧路沖の低気圧が北海道の東海上へ進み、北日本を中心に冬型となった。北日本では雪が降り、北陸で雪や雨が降った。北海道から関東にかけての一部で強風を伴った。先島諸島で雨が降った。

その他の地方は概ね晴れた。

低気圧と高気圧が交互に通過（9日～12日）

9日は、沿海州の低気圧が網走沖へ進み、北海道の一部で雪が降り、東北地方の一部で雪や雨が降った。本州を覆っていた高気圧が日本の東海上へ移動し、低気圧が関東の東海上と紀伊半島の南海上に発生した。西日本で雨が降った。華中に高気圧があり、湿った空気の流れ込んだ先島諸島で雨が降った。その他の地方は概ね曇った。

10日は、関東の東海上の低気圧が発達しながら北東へ進んだ。日本海中部に高気圧があり、北東へ移動した。気圧の谷の影響で北海道の日本海側や東北地方で雪が降り、北陸から山陰にかけての一部で雨が降った。伊豆諸島から四国にかけての一部と先島諸島の一部で雨が降った。その他の地方では概ね晴れた。

11日は、沿海州の低気圧が日本海北部へ進んだ。別の低気圧が関東の東海上で発生し、東へ進んだ。北日本を中心に寒気が流れ込んだ。気圧の谷と寒気の影響で北海道は雪や曇りとなり、東北地方の日本海側と甲信地方で雪が降り、北陸から山陰にかけてと東海地方で雨が降った。北陸では雷を伴った。関東地方で雨や曇りとなった。四国の一部と九州北部の一部は曇った。その他の地方は概ね晴れた。

12日は、気圧の谷が日本の東海上へ抜け、日本海西部の高気圧が東北地方へ移動し、本州を覆った。沖縄本島付近の高気圧が日本の南海上へ進んだ。北海道で雪が降り、東北地方の日本海側で雪や雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

発達した低気圧の影響で、各地で大雨、強風（13日～15日）

13日は、黄海の低気圧が発達しながら日本海中部へ進み、伴う温暖前線が東北地方を通過した。東シナ海から日本の南海上にかけて前線が発生し、ほぼ停滞した。北海道で雪が降り、東北地方で雪や雨が降った。西日本を中心に暖かく湿った空気が流れ込んだため、北陸から九州にかけて雨が降った。四国の一部は大雨となった。関東の一部で雨が降り、強風を伴った。その他の地方は概ね曇った。

14日は、北海道の西海上の低気圧が北海道の東海上へ進み、伴う寒冷前線が東北地方を通過した。北海道では雪が降り、関東南部を除く東北地方から南西諸島にかけて雨が降った。東海地方の一部では大雨となった。北海道から近畿にかけての一部では強風を伴った。

15日は、日本海北部に低気圧がほぼ停滞した。気圧の谷の影響で北海道は雪が降った。東北地方の日本海側で雪や雨が降り、北陸から九州の日本海側は雨が降った。関東南部の一部と南西諸島の一部は曇った。その他の地方は概ね晴れた。

冬型の気圧配置となる（16日～19日）

16日は、千島近海の低気圧が発達しながら北東へ進み、日本付近は冬型となった。北日本を中心に強い寒気が流れ込み、北海道の一部や東北地方、甲信地方と北陸から山陰にかけて雪が降った。北海道から東海地方にかけての一部は強風を伴った。近畿南部や四国、九州と南西諸島の一部は雨が降った。東北南部から関東南部にかけては曇った。その他の地方は概ね晴れた。

17日は、引き続き強い冬型となった。北日本を中心に寒気が流れ込んだ影響で北海道の日本海側から山陰にかけて雪が降った。北海道の一部は強風を伴い、北陸は雷を伴った。九州北部の一部と南西諸島の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

18日は、北日本を中心に強い寒気が流れ込んだ影響で北日本の日本海側と北陸で雪が降った。北陸では雷を伴った。近畿北部から山陰にかけて雪や雨が降った。南西諸島は曇った。その他の地方は概ね晴れた。

19日は、北日本で寒気が残り、北日本の日本海側と北陸で雪が降った。関東甲信の一部で雪が降った。前線が華中から東シナ海にのび、華中の前線上で発生した低気圧が九州西方海上へ進んだ。東海地方の一部と西日本で雨が降った。南西諸島の一部で曇った。その他の地方は概ね晴れた。

発達した低気圧の影響で北日本を中心に大荒れ（20日～21日）

20日は、四国の低気圧が発達しながら釧路沖へ進んだ。北日本から北陸で雪が降った。関東甲信では雪や雨が降った。北日本から東日本にかけてと西日本の太平洋側は強風を伴った。西日本と奄美・沖縄で雨が降った。近畿南部の一部では大雨となった。

21日は、千島近海の低気圧が発達しながら千島の東海上へ進んだ。北日本から北陸にかけてと近畿北部から山陰にかけて雪が降った。北海道と東北地方の一部で暴風や強風を伴った。その他の地方は

概ね晴れた。

低気圧が相次いで本州南岸を通過（22日～28日）

22日は、沿海州の低気圧が前線を伴って網走沖へ進んだ。北海道は雪が降り、東北地方の一部で雪や雨が降り、北陸の一部で雨が降った。前線が華中から東シナ海にのび、東シナ海の前線上で発生した低気圧が九州北部へ進んだ。前線の影響で西日本と東海地方の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

23日は、千島近海の低気圧が千島の東海上へ進んだ。北海道の一部で雪が降った。東北北部は曇った。九州北部の低気圧が日本の東海上へ進み、伴う前線が東シナ海から本州の南海上を通過して日本の東海上までのびた。沿海州の高気圧が日本海中部へ移動した。東南北部や北陸と甲信地方で雪や雨が降り、関東から奄美・沖縄にかけて雨が降った。東海地方の一部で大雨となった。

24日は、日本の東海上の低気圧が千島の東海上へ進み、伴う前線が日本の南海上を通過して東シナ海まで達した。日本海中部の高気圧は日本の東海上へ移動した。中国東北区で低気圧が発生し、前線を伴って北海道の西海上へ進んだ。北海道の日本海側で雪が降り、東南北部で雪や雨が降った。東北北部は曇りとなった。北陸や関東南部と東海地方や西日本で雨が降った。

25日は、北海道の西海上の低気圧が前線を伴って千島近海へ進んだ。北海道の日本海側で雪が降り、東北地方で雪や雨が降った。九州南部地方で低気圧が発生し、関東の東海上へ進んだ。東日本と西日本で雨が降った。

26日は、東シナ海から関東の東海上に前線がほぼ停滞した。前線の影響で、九州や四国と近畿南部の一部や関東南部で雨が降り、中国地方や北陸は雨や曇りとなった。北海道の日本海側で雪が降った。その他の地方は概ね晴れた。

27日は、引き続き前線が東シナ海から関東の東海上にかけてほぼ停滞し、九州の南海上と関東の東海上の前線上で低気圧が発生した。東日本から奄美・沖縄にかけて雨が降った。北海道の日本海側で雪が降り、東北地方の一部で雪や曇りとなった。

28日は、日本の東海上の低気圧から日本の南海上にのびる前線がほぼ停滞した。中国東北区の高気圧が日本海中部へ移動し、東北地方を高気圧が覆った。前線の影響で、九州南部地方や南西諸島で雨が降った。関東南部から四国にかけての一部で雨や曇りだった。気圧の谷の影響で北海道の日本海側で雪が降った。その他の地方は概ね晴れた。

3月

本州南岸を低気圧が次々と通過（1日～7日）

1日は、サハリンの西海上の低気圧がサハリンの東海上へ進み、別の低気圧が日本海西部から北海道の西海上へ進んだ。東北地方の一部や北海道の日本海側で雪が降り、北陸で雪や雨が降り、山陰で雨や曇りとなった。四国沖の低気圧が前線を伴って関東の東海上へ進んだ。関東で雨や曇りとなり、伊豆諸島は強風を伴った。西日本の太平洋側で雨が降り、沖縄・奄美は雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

2日は、華北に高気圧があり、冬型の気圧配置（以下「冬型」と略す。）となった。関東甲信の一部と北日本で雪が降り、東北地方の一部では強風を伴った。近畿北部から北陸にかけては雪や雨が降り、山陰は雨が降った。気圧の谷の影響で九州は雨や曇りとなった。華南から南西諸島にかけて前線が発生した。南西諸島で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

3日は、日本海中部の高気圧が三陸沖へ移動し、北日本は高気圧に覆われた。東北地方の一部と北海道の日本海側で雪が降った。前線上の沖縄本島付近に低気圧が発生し、四国沖へ進み、別の低気圧が対馬海峡付近に発生し、北東へ進んで消滅した。北陸と甲信地方で雪が降り、西日本から関東にかけて雪や雨が降り、南西諸島で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

4日は、本州南岸の低気圧が三陸沖へ進んだ。黄海にある高気圧が朝鮮半島へ移動し、中国東北区にある別の高気圧が沿海州へ移動した。甲信地方や東北地方の太平洋側の一部と北海道の日本海側の一部で雪が降り、北陸と関東で雪や雨が降り、南西諸島から東海地方にかけて雨や曇りとなった。九州南部の一部と関東の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

5日は、朝鮮半島にある高気圧が三陸沖へ移動し、沿海州にある別の高気圧が網走沖へ移動して、北日本は高気圧に覆われた。東北地方の一部と北海道で雪が降った。華南から沖縄本島付近にかけて前線が発生し、前線上の沖縄本島付近に低気圧が発生して九州の南海上へ進んだ。南西諸島から四国、中国地方にかけてと近畿の一部や東海地方で雨が降った。八重山地方の一部では強風を伴った。その

他の地方は概ね晴れた。

6日は、九州の南海上の低気圧が発達しながら関東の東海上へ進み、伴う前線が日本の東海上から沖縄本島付近までのびた。別の低気圧が日本海中部から北海道の西海上に発達しながら進んだ。暖かく湿った空気の影響で、全国で雨が降った。四国の一部と東海地方の一部では大雨となり、北日本の一部では強風を伴い、沖縄本島の一部では雷を伴った。

7日は、北海道の西海上の低気圧がサハリンの西海上へ進み、関東の東海上の別の低気圧が発達しながらオホーツク海へ進み、伴う前線が沖縄の南海上までのびた。東北地方と北海道で雪が降り、山陰から北陸にかけて雨が降り、南西諸島で雨が降った。北日本の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

高気圧に覆われる（8日～9日）

8日は、日本海中部にある高気圧がほぼ停滞した。北海道の一部で雪が降り、北日本の一部では強風を伴った。関東の東海上に低気圧が発生し、ほぼ停滞した。関東南部で雨が降った。日本の東海上から東シナ海にかけて前線がほぼ停滞し、前線の影響で南西諸島と九州南部地方で雨が降った。その他の地方は概ね曇った。

9日は、東北地方にある高気圧が日本の東海上へ移動し、関東の東海上の低気圧は消滅した。沖縄の南海上から日本の東海上に前線がのび、前線上の九州の南海上に低気圧が発生して紀伊半島沖へ進んだ。北海道の一部で雪が降り、南西諸島と西日本の太平洋側から関東南部にかけて雨が降り、南西諸島の一部で強風や雷を伴った。九州北部から北陸にかけて曇った。その他の地方は概ね晴れた。

冬型の気圧配置になった後高気圧に覆われる（10日～12日）

10日は、関東の東海上の前線を伴った低気圧が発達しながら北海道の東海上へ進み、冬型となった。東北地方の一部と北海道で雪が降り、北陸や甲信地方で雪や雨が降り、山陰と近畿南部から関東にかけて雨が降った。北陸の一部では雷を伴い、伊豆諸島の一部と東北地方は強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

11日は、北海道の東海上の低気圧が千島近海へ進み、北日本を中心に冬型となった。北日本で雪が降り、北陸で雪や雨が降り、山陰から近畿北部にかけて雨が降った。東北地方の一部と北海道は強風を伴った。南西諸島や西日本と関東南部は曇った。その他の地方は概ね晴れた。

12日は、日本海西部にある高気圧が東北地方へ移動し、全国的に高気圧に覆われた。華中に前線が発生し、華中の前線上に低気圧が発生して東シナ海へ進んだ。北陸や関東北部の一部と東北地方の日本海側や北海道で雪が降った。北海道の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

低気圧が日本海を通過し、大荒れ（13日～15日）

13日は、九州の西海上の低気圧が発達しながら日本海中部へ進み、伴う前線が沖縄本島から東日本を通過した。北海道の一部で雪や雨が降り、南西諸島から東海地方にかけてと、北陸、関東の一部と東北地方で雨が降った。北陸は強風を伴い、西日本の一部では大雨や強風を伴った。その他の地方は概ね曇った。

14日は、日本海中部の低気圧がサハリンの東海上へ進み、伴う前線が本州を通過した。九州北部から北陸にかけてと甲信地方や北日本で雪や雨が降り、南西諸島から関東にかけて雨が降った。東海の一部と北海道の一部で大雨となった。北日本の一部で暴風や強風を伴い、北陸で雷や強風を伴い、四国、中国地方の一部から関東にかけて強風を伴った。

15日は、サハリンの東海上の低気圧が北東へ進んだ。東シナ海に高気圧があり、西日本から東日本にかけて高気圧に覆われた。北日本で雪が降り、近畿北部から北陸にかけて雪や雨が降った。北海道の一部で暴風や強風を伴い、東北地方の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

北日本を気圧の谷や低気圧が通過（16日～19日）

16日は、南西諸島にある高気圧が日本の南海上へ移動し、西日本を中心に高気圧に覆われた。北日本を中心に気圧の谷が通過した。北海道の一部で雪や雨が降り、東海地方と甲信地方の一部や北陸から東北地方にかけて雨が降った。東北地方の一部で雷や強風を伴い、北陸の一部や甲信地方の一部では雷を伴い、関東の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

17日は、日本の南海上にある高気圧が東へ移動し、引き続き西日本を中心に高気圧に覆われた。関東の東海上に低気圧が発生し東へ進んだ。北陸や甲信地方と東北地方や北海道の一部で雪や雨が降っ

た。東海地方や関東北部の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

18日は、関東の東海上に高気圧がほぼ停滞し、朝鮮半島に低気圧が発生して日本海中部へ進んだ。北海道で曇りや雨となり、九州の一部と東北地方の一部で曇り、沖縄本島で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

19日は、日本海中部の低気圧が前線を伴って千島近海へ進んだ。東北北部と北海道で雨が降った。九州の西海上に低気圧が発生し、東へ進んだ。西日本の太平洋側と東海地方で雨が降り、沖縄・奄美で雨が降った。九州北部から北陸にかけては曇りや雨となった。九州南部の一部では雷を伴い、東北地方の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

低気圧の影響で、各地で大荒れ（20日～23日）

20日は、千島近海の低気圧が北へ進み、伴う寒冷前線が東日本から東北地方を通過した。別の低気圧が九州から関東の東海上へ進んだ。北日本で雪や雨が降り、沖縄・奄美から東日本にかけて雨が降った。山陰から北陸にかけては雷を伴い、東海地方から東北地方にかけての一部では強風を伴った。

21日は、日本海中部にある高気圧が関東の東海上へ移動し、日本付近を覆った。華北に低気圧が発生し、前線を伴って黄海へ進んだ。北海道の一部で雪や強風となった。九州で雨が降った。九州北部の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

22日は、朝鮮半島の低気圧が北海道へ進み、伴う寒冷前線が本州を通過した。別の低気圧が四国沖に発生し、前線を伴って関東南部へ進んだ。日本全域で雨が降った。九州南部地方や東海地方と甲信地方は大雨となり、西日本の一部では雷を伴い、九州南部地方の一部と北陸や北海道は強風を伴った。

23日は、北海道の低気圧がサハリンへ進んだ。関東の東海上の低気圧が前線を伴って千島近海へ進んだ。日本海中部に高気圧があり、東へ移動し本州付近を覆った。北日本で雪や雨が降り、北陸の一部と関東北部の一部で雨が降った。東海地方の一部と関東や北日本の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

寒気が次々と南下（24日～31日）

24日は、日本海中部にある高気圧が日本の東海上へ移動し、日本付近は高気圧に覆われた。寒気の影響で北海道の一部や東北地方と北陸の一部で雪が降った。北陸の一部と北海道の一部では強風を伴った。関東の東海上に低気圧が発生した。関東南部で雨や曇りとなった。南西諸島や九州南部地方の一部と山陰は雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

25日は、本州付近に複数の低気圧が発生した。甲信地方や東北地方と北海道の一部で雪が降り、山陰から北陸にかけて雪や雨が降り、南西諸島と近畿南部から関東にかけて雨が降った。近畿の一部では雷を伴った。西日本の太平洋側の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

26日は、三陸沖の低気圧が網走沖へ進み、別の低気圧が日本海北部から北海道の南岸へ進んで消滅した。東シナ海に高気圧があり、九州の南海上へ移動した。寒気の影響で、関東甲信の一部と北日本で雪が降り、山陰から北陸にかけて雪や雨が降った。西日本の一部と東北地方の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

27日は、網走沖の低気圧が北海道の西海上へ進み、別の低気圧が関東の東海上に発生して東へ進んだ。北陸と甲信地方や北日本で雪が降り、関東の一部で雪や雨が降り、山陰と近畿の一部で雨が降り、九州の一部で曇りとなり、南西諸島で雨や曇りとなった。四国の太平洋側の一部や伊豆諸島の一部と北海道の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

28日は、北海道の東海上の低気圧が南西へ進んだ。弱い気圧の谷が本州付近を通過した。北日本で雪が降り、北陸と甲信地方で雪や雨が降り、山陰の一部と近畿北部の一部で雨が降った。北陸の一部と東北地方は雷を伴った。華中から沖縄本島付近にのびる前線上の沖縄本島付近に低気圧が発生し、東へ進んだ。南西諸島と九州南部地方で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

29日は、寒気の影響で、北日本の一部で雪が降り、北陸の一部で雪や雨が降った。沖縄本島付近の低気圧が日本の南海上へ進み、伴う前線が小笠原諸島付近から沖縄の南海上までのびた。南西諸島と九州は雨や曇りとなった。四国や近畿の一部と関東南部の一部では曇った。南西諸島の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

30日は、北海道の西海上に低気圧が発生し、東へ進んで消滅した。日本海中部に高気圧があり、本州付近を覆った。北日本の一部で雪が降り、伊豆諸島で雨が降り、南西諸島と九州南部地方で雨が降った。山陰から北陸にかけての一部では曇った。その他の地方は概ね晴れた。

31日は、日本海中部にある高気圧が三陸沖へ移動した。弱い気圧の谷の影響で北海道は雪が降り、

東北地方の一部で雪や雨が降った。日本海西部に低気圧が発生し、山陰で雨が降った。暖かく湿った空気の影響で、四国の太平洋側から関東南部にかけて雨や曇りとなり、南西諸島と九州南部地方で雨が降った。九州南部地方の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

4月

低気圧や高気圧が交互に通過（1日～6日）

1日は、本州南岸の低気圧が前線を伴って関東の東海上へ進み、日本海西部の別の低気圧はほとんど停滞した後消滅した。上空に強い寒気が流れ込んだ影響で、北日本の一部では曇りや雪となり、北陸と甲信地方では雪や雨が降り、九州北部から関東にかけて雨が降った。南西諸島では雨や曇りとなった。西日本から東日本にかけての太平洋側では雷を伴ったところがあった。九州南部地方は概ね晴れたが、一部では強風となった。

2日は、日本の東海上にある前線を伴った低気圧が発達しながら三陸沖へ進み、華中の高気圧が九州の西海上へ移動した。西日本の一部と東海地方や北陸と北日本の一部では雨が降り、関東甲信地方で雪や雨が降り、南西諸島は曇った。関東南部の一部では暴風を伴い、伊豆諸島の一部では雷や強風を伴い、九州南部地方の一部と東北南部の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

3日は、九州の西海上の高気圧が日本の南海上へ移動し、日本付近は高気圧に覆われた。弱い気圧の谷の影響で南西諸島から九州にかけてと四国の一部では曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

4日は、気圧の谷が日本付近を通過し、また、華中から四国沖にかけて前線が発生して関東の東海上へのびた。東北地方の一部では雨が降り、東日本の一部では雨や曇りとなり、西日本で雨が降った。南西諸島と北海道は概ね晴れた。

5日は、弱い気圧の谷の影響で北日本の一部では雨が降り、雷を伴ったところがあった。三陸沖に低気圧が発生して日本の東海上へ進み、沖縄の南海上から日本の東海上へのびる前線と一体となった。前線の影響で、四国から関東にかけて曇りや雨となり、南西諸島と九州南部地方で雨が降った。九州北部から近畿北部にかけては概ね晴れた。

6日は、サハリンの低気圧が東へ進んだため、北海道の一部では雪や雨が降り、強風を伴ったところがあった。北海道の東海上の低気圧から沖縄の南海上へのびる前線上の関東の南海上に低気圧が発生し、東へ進んだ。前線の影響で、南西諸島で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

高気圧に覆われる（7日～12日）

7日は、日本付近は高気圧に覆われた。南西諸島で雨や曇りとなった他は、全国的に概ね晴れた。

8日は、沿海州の低気圧が網走沖へ進んだため、北海道の一部では雨が降った。沖縄の南海上に前線が発生し、南西諸島は雨や曇りとなった。その他の地方は引き続き高気圧に覆われて概ね晴れた。

9日は、網走沖の低気圧が北海道の東海上へ進んだ。日本の南海上の停滞前線の影響で、小笠原諸島で雨が降り、弱い気圧の谷の影響で南西諸島の一部では雨が降った。日本付近は引き続き高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

10日は、千島の東海上から北海道の西海上にかけて前線が発生し北海道を通過したため、北海道の一部では曇りや雨となり、東北地方の一部では強風となった。弱い気圧の谷の影響で、小笠原諸島で雨が降り、上空の気圧の谷の影響で南西諸島の一部と九州南部地方の一部では雨が降った。本州付近は引き続き高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

11日は、日本付近は引き続き高気圧に覆われたため、西日本から北日本にかけて概ね晴れた。弱い気圧の谷の影響で、小笠原諸島で雨が降り、温かく湿った空気の影響で南西諸島の一部では曇りや雨となり、雷を伴ったところがあった。

12日は、引き続き日本付近は高気圧に覆われた。弱い気圧の谷の影響で北海道の一部では曇った。日本の南海上の低気圧が前線を伴って日本の東海上へ進んだため、西日本の一部と小笠原諸島は雨が降り、山陽では雷を伴ったところがあった。伊豆諸島や関東の一部では曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

本州南岸を低気圧が通過し大荒れ（13日～15日）

13日は、沿海州の低気圧が前線を伴ってサハリンの西海上へ進んだ。華中で低気圧が発生し、前線を伴って九州の西海上へ進んだため、南西諸島と九州で雨が降った。先島諸島では雷を伴ったところがあった。その他の地方は概ね晴れた。

14日は、サハリンの東海上の低気圧がオホーツク海北部へ進み、伴う前線が北海道を通過したため、

北海道の一部では雨が降り、強風を伴うところがあった。九州の西海上の低気圧が前線を伴って東海地方へ進んだため、南西諸島から東北地方にかけて雨が降った。九州南部地方の一部と東海地方の一部では大雨となり、雷や強風を伴うところがあった。近畿の一部では雷を伴った。

15日は、関東の低気圧が前線を伴って釧路沖へ進み、別の低気圧が日本海西部に発生した。中国地方の一部や近畿の一部と東日本から北日本にかけて雨が降った。伊豆諸島では雷を伴ったところがあり、関東の一部と東北地方の一部では強風を伴った。東シナ海に高気圧があり、沖縄本島付近へ移動したため、南西諸島と九州は概ね晴れた。

低気圧が次々と通過（16日～23日）

16日は、上空に寒気が流れ込んだ影響で、北海道の一部では雪が降り、九州北部から東北地方の日本海側にかけて雨や曇りとなった。関東付近に低気圧が発生し、東へ進んだ。関東の一部では雨が降り、雷を伴うところがあった。華南から沖縄の南海上にかけて前線が発生し、小笠原諸島付近へのびた。前線の影響で、南西諸島で雨が降った。西日本の太平洋側と東海地方は概ね晴れた。

17日は、三陸沖の低気圧が前線を伴って北東へ進んだ。前線の影響で、東日本と東北南部で雨が降った。弱い気圧の谷の影響で、西日本は雨や曇りとなった。東シナ海から日本の東海上にかけて前線がほとんど停滞し、南西諸島で雨が降った。先島諸島の一部では大雨となり、雷を伴うところがあった。その他の地方は概ね晴れた。

18日は、朝鮮半島の低気圧が北海道の西海上へ進み、北海道で雨が降った。北海道の東海上の低気圧から関東の南海上に前線が延び、関東で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

19日は、沿海州の高気圧が津軽海峡へ移動し、日本付近は高気圧に覆われてほぼ全国的に晴れた。日本の南海上から日本の東海上へのびる前線上の日本の南海上で低気圧が発生し、日本の小笠原諸島付近へ進んだため、小笠原諸島で雨が降った。

20日は、華中の低気圧が朝鮮半島へ進み、華中から東シナ海へのびる前線上の東シナ海に別の低気圧が発生して九州の西海上へ進んだ。南西諸島から西日本にかけて雨が降り、東海地方で雨や曇りとなり、北陸と関東から東北南部にかけて曇った。奄美地方では雷を伴い、九州や北陸では暴風や強風を伴ったところがあった。津軽海峡の高気圧が北海道の東海上へ移動し、北日本を中心に高気圧に覆われたため、東北北部と北海道は概ね晴れた。

21日は、九州の低気圧が前線を伴って東海地方へ進み、日本海西部の低気圧が沿海州へ進んだため、ほぼ全国的に雨が降った。東海地方の一部と甲信地方の一部では大雨となり、先島諸島で雷を伴い、西日本や北陸と北海道で強風を伴うところがあった。

22日は、東海地方の低気圧が千島近海へ進み、伴う前線が沖縄の南海上へのびた。沿海州の低気圧はほとんど停滞した後消滅した。北海道の西海上に別の低気圧が発生し、北へ進んで消滅した。北日本で雨が降り、東日本で雨や曇りとなった。北海道の一部では大雨となり、中国地方の一部と東海地方の一部では強風を伴った。南西諸島では曇りや雨となった。西日本は概ね晴れた。

23日は、高気圧が日本海中部にあり、千島近海の低気圧が東へ進んだため、日本付近は西高東低の気圧配置となった。北海道で雪が降り、中国地方から東北地方にかけての日本海側で雨が降った。千島近海の低気圧から沖縄の南方海上へのびる前線の影響で南西諸島は雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

発達した低気圧の影響で大荒れ（24日～27日）

24日は、華中に低気圧が発生し、前線を伴って九州の西海上へ進んだ。南西諸島や九州と、四国の一部や中国地方で雨が降った。九州では強風を伴ったところがあった。湿った空気が流れ込んだ影響で、関東南部と東北地方の一部では雨が降り、北陸で曇った。日本海中部の高気圧が三陸沖へ進んだため、その他の地方は概ね晴れた。

25日は、九州の西海上の前線を伴った低気圧が発達しながら関東の東海上へ進み、別の低気圧が日本海西部に発生した。南西諸島から東北地方にかけてと北海道の一部で雨が降った。西日本と東日本の一部では大雨となり、西日本の一部と東海地方の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

26日は、関東の東海上の前線を伴った低気圧が発達しながら三陸沖へ進み、日本海西部の別の低気圧は東へ進んで消滅した。東北地方と北海道で雪や雨が降り、中国地方や近畿と東日本で雨が降り、四国は雨や曇りとなり、南西諸島と九州は曇りとなった。東日本と北日本では大雨となったところや、雷や強風を伴ったところがあり、西日本では暴風や強風を伴ったところがあった。

27日は、北海道の東海上の低気圧が北東へ進んだ。北海道の一部では雪や雨が降り、近畿北部から北陸にかけてと東北地方では雨が降った。東日本の太平洋側と北海道では強風を伴ったところがあった。上空の気圧の谷や寒気の影響で九州は雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

高気圧に覆われる（28日～30日）

28日は、日本付近に寒気が流れ込み、大気の状態が不安定になったため、北海道の一部では雪が降り、西日本と東北地方で雨が降ったところがあった。西日本や東日本と北海道では雷を伴ったところがあった。日本の東海上にある前線の影響で、小笠原諸島で雨が降った。華中にある高気圧が東シナ海へ移動し、中国東北区にある高気圧が黄海へ移動して日本付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

29日は、日本付近は高気圧に覆われたため、ほぼ全国的に晴れた。

30日も、引き続き高気圧が日本付近を覆ったため、ほぼ全国的に晴れた。

5月

高気圧に覆われた後、気圧の谷の影響で大荒れ（1日～8日）

1日は、四国沖にある高気圧が東へ移動し、日本付近は高気圧に覆われたため、ほぼ全国的に晴れた。湿った空気の影響で先島諸島では雨が降った。北日本の一部では強風を伴った。

2日は、関東の東海上の高気圧がほとんど停滞し、日本付近は高気圧に覆われたため、ほぼ全国的に晴れた。

3日は、華中に高気圧があり、東へ移動した。上空の気圧の谷の影響で、九州と北海道で雨や曇りとなり、四国と中国地方から東北地方にかけて曇りや晴れとなった。

4日は、サハリンの低気圧がオホーツク海へ進み、華中の高気圧が黄海へ移動した。上空の気圧の谷の影響で、九州で雨が降り、西日本と東海地方で雨や曇りとなり、北陸や関東と東北地方で曇った。北海道では概ね晴れた。

5日は、日本の南海上に低気圧が発生して日本の東海上へ進んだ。黄海の高気圧はほとんど停滞し、沿海州にある高気圧が宗谷海峡へ移動した。上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で、四国から東日本にかけて雨が降り、九州の一部や中国地方と北日本の一部で雨や曇りとなった。関東の一部では大雨となり、中国地方の一部と北海道の一部では雷を伴った。

6日は、日本の東海上の低気圧が北へ進み、四国沖に上空に寒気を伴った低気圧が発生したため、近畿や東日本で雨が降り、四国と中国地方で雨や曇りとなり、東北南部では曇った。東海地方の一部と伊豆諸島で大雨となった。黄海の高気圧がほとんど停滞したため南西諸島と九州では概ね晴れ、網走沖の高気圧が北海道の東海上へ移動したため北海道と東北北部では概ね晴れた。

7日は、四国沖の低気圧が本州南岸へ進み、関東の東海上の低気圧がほとんど停滞した後消滅した。四国や近畿と東日本で雨が降り、中国地方で雨や曇りとなり、北日本の一部で曇った。東海地方の一部と伊豆諸島で大雨となり、近畿の一部と東海地方の一部では雷を伴った。南西諸島と九州では概ね晴れた。

8日は、本州南岸の低気圧が関東の東海上へ進んだため、四国から関東にかけて雨が降り、北陸で雨や曇りとなり、北日本の一部では曇りとなった。近畿の太平洋側から関東の太平洋側にかけては雷を伴ったところがあった。東シナ海に高気圧があり沖縄本島付近へ移動したため、南西諸島と九州では概ね晴れた。

高気圧に覆われる（9日～11日）

9日は、沿海州の低気圧がサハリンへ進んだため、北海道の一部で雨が降った。沖縄本島付近に高気圧がありほとんど停滞したため、その他の地方は概ね晴れた。

10日は、日本付近は高気圧に覆われた。気圧の谷が通過した影響で北日本の一部で曇りや雨となったほかはほぼ全国的に晴れた。

11日は、北海道の東海上に高気圧があり、東へ移動した。湿った空気が流入した影響で東北北部の一部や北海道の一部で雨や曇りとなった。華中から朝鮮半島へのびる前線が日本海中部までのびたため、北陸と関東や東北南部では曇った。沖縄の南海上の熱帯低気圧が北へ進んだため、南西諸島で雨や曇りとなった。日本の南海上の高気圧に覆われたため、西日本と東海地方では概ね晴れた。

低気圧の通過後高気圧に覆われる（12日～15日）

12日は、華中から日本海中部へのびる前線が三陸沖までのび、前線上の東北地方で低気圧が発生した。寒冷前線が通過した影響で、西日本の日本海側や北陸と東北地方で雨が降り、関東で曇った。日本海北部に低気圧が発生し、北西へ進んだため、北海道で雨が降った。沖縄の南海上の熱帯低気圧が北へ進んだため、南西諸島で雨が降った。西日本の太平洋側では概ね晴れた。

13日は、日本海北部の低気圧がほとんど停滞したため、北海道で雨が降り、雷を伴ったところもあった。東北地方の低気圧が発達しながら千島近海へ進み、伴う寒冷前線が九州から東北地方にかけて通過したため、西日本、北陸、関東、東北地方で雨が降った。関東の一部では雷を伴い、東北地方の一部では強風を伴った。沖縄本島付近の熱帯低気圧がほとんど停滞した後消滅した。奄美地方で曇りとなり、沖縄地方では概ね晴れた。

14日は、日本海北部の低気圧が北海道へ進んで消滅した。千島近海の低気圧が北東へ進み、中国東北区にある高気圧が沿海州へ移動したため、日本付近は西高東低の気圧配置となった。寒気が流れ込んだ影響で北陸の一部と北日本では雨が降った。東日本の一部と東北地方の一部では雷を伴い、東北地方の一部では強風を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

15日は、沿海州の高気圧が東北地方へ移動して日本付近は高気圧に覆われた。九州と中国地方の一部で曇ったほかは概ね晴れた。

発達した低気圧の影響で北日本を中心に大荒れ（16日～18日）

16日は、東北地方の高気圧が東へ移動し、華中から九州の西海上へのびる前線上の黄海に低気圧が発生して、朝鮮半島へ進んだ。近畿で雨が降り、中国地方と東日本で雨や曇りとなり、九州と四国で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

17日は、朝鮮半島の低気圧が発達しながら北海道の西海上へ進み、伴う前線が日本付近を通過したため、ほぼ全国的に雨が降った。北海道の一部では大雨や強風となり、東海地方や甲信地方では大雨となり、西日本の一部や関東の一部では強風となった。

18日は、北海道の西海上の低気圧がサハリンの東海上へ進み、伴う前線が華南までのびたため、南西諸島や東日本の一部と北日本で雨が降った。東北地方の一部で雷を伴い、北日本の一部で暴風や強風を伴い、関東の一部で強風を伴った。華中に高気圧があり東シナ海へ移動したため、西日本では概ね晴れた。

低気圧や高気圧が交互に通過した後、上空に寒気を伴った気圧の谷が本州を通過（19日～26日）

19日は、華南から九州の南海上へのびる前線上の沖縄本島付近に低気圧が発生し、日本の南海上へ進んだ。前線の影響で、南西諸島では大雨となり、雷を伴った。東日本の太平洋側と近畿の一部で曇った。サハリンの東海上の低気圧が北へ進んだ。北日本の一部では強風を伴った。東シナ海の高気圧が九州の西海上へ移動したため、その他の地方は概ね晴れた。

20日は、九州の西海上の高気圧が本州南岸へ移動し、本州付近は高気圧に覆われたため、九州から北海道にかけて概ね晴れた。日本の南海上の低気圧が日本の東海上へ進み、伴う前線が華南までのびた。前線上の華中に別の低気圧が発生し、華北へ進んだ。前線の影響で南西諸島では雨が降った。

21日は、華北の低気圧が日本海西部へ進み、前線が華南から九州の南海上までのびた。前線の影響で南西諸島の一部と九州で雨が降り、四国と中国地方で雨や曇りとなり、近畿や東海地方と北陸の一部で曇りとなった。九州の一部では大雨や雷となった。その他の地方は概ね晴れた。

22日は、日本海西部の低気圧が日本海中部へ進み、華南から日本の南海上へのびる前線がほとんど停滞した。西日本と北日本で雨が降り、南西諸島や九州と東日本で雨や曇りとなった。北陸の一部で強風を伴った。

23日は、日本海中部の低気圧が釧路沖へ進んだため、北海道で雨が降り、北陸の一部と東北地方で雨や曇りとなった。大気の状態が不安定になった影響で関東では雨や曇りとなった。中国地方の一部と近畿北部の一部で雨が降り、九州の一部では曇った。その他の地方は概ね晴れた。

24日は、釧路沖の低気圧が北海道の東海上へ進み、関東の東海上に低気圧が発生して東へ進んだ。上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で、四国から北海道にかけて雨が降り、九州の一部で雨や曇りとなった。中国地方の一部や近畿の一部と東日本の一部では雷を伴った。華南から沖縄本島付近へのびる前線がほとんど停滞したため、南西諸島で雨や曇りとなった。

25日は、北海道の東海上の低気圧がほとんど停滞したため、北海道の一部で雨が降った。低気圧の影響で、近畿の一部や東日本の一部と東北地方の一部で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

26日は、北海道の東海上の低気圧が東へ進み、北海道の一部で雨が降った。華南から日本の南海上を通り千島の東海上まで前線がのび、前線上の台湾付近で低気圧が発生した。低気圧や弱い気圧の谷の影響で、南西諸島と九州で雨が降った。九州の一部では雷を伴った。日本海中部に高気圧があり、本州付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

上空に寒気を伴った低気圧が通過し大荒れ（27日～31日）

27日は、九州の南海上に上空に寒気を伴った低気圧が発生してほとんど停滞し、沖縄の南海上の低気圧が前線を伴って日本の南海上へ進んだ。南西諸島から九州にかけて雨が降り、四国、中国地方や北陸と甲信地方で雨や曇りとなり、近畿や東海地方の一部と関東の一部では曇った。近畿の一部と北陸の一部で雷を伴い、九州の一部では強風を伴った。沿海州に低気圧が発生し、北海道の西海上へ進んだため、北海道で雨や曇りとなった。東北地方は概ね晴れた。

28日は、九州の南海上の低気圧は消滅したが、日本の南海上の低気圧が九州の南海上へ進んだ。南西諸島から東日本にかけて雨が降った。東海地方の一部や伊豆諸島の一部では大雨となり、雷や強風を伴った。近畿の一部では大雨となり強風を伴った。九州南部地方の一部や四国の一部では暴風や強風を伴った。北海道の西海上の低気圧が北海道へ進んで消滅した。北海道で雨や曇りとなり、東北地方の一部では曇った。北海道の一部では雷を伴った。

29日は、日本の南海上の低気圧がほとんど停滞した。南西諸島や東日本と東北地方の一部で雨が降り、九州北部の一部と四国の一部や中国地方の日本海側と近畿で雨や曇りとなり、北海道の一部では曇った。

30日は、日本の南海上の低気圧がほとんど停滞した。日本海中部に低気圧が発生して北東へ進み、日本の東海上に低気圧が発生して前線を伴って三陸沖へ進んだ。九州の一部と四国から北海道の一部にかけて雨が降った。近畿の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

31日は、日本の南海上の低気圧が関東の東海上へ進み、三陸沖の低気圧が釧路沖へ進み、日本海中部の低気圧が北海道の西海上へ進んだ。四国の一部や中国地方の一部と近畿から北海道にかけて雨が降った。関東の一部では雷を伴った。東シナ海に高気圧があり、南西諸島と九州では概ね晴れた。

6月

高気圧に覆われた後、低気圧が日本の南岸を通過（1日～7日）

1日は、北海道の西海上の低気圧と網走沖の低気圧がほとんど停滞した後消滅し、三陸沖の低気圧が前線を伴って北海道の東海上へ進んだ。北陸の一部と北日本の一部や関東甲信で雨が降った。関東の一部では雷を伴った。沖縄本島付近に高気圧があり九州の南海上へ移動して西日本は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

2日は、北海道の東海上の低気圧が千島の東海上へ進んだため、北海道の一部で雨が降った。華南から九州の南海上へのびる前線の影響で、九州では雨や曇りとなった。日本の南海上と関東の東海上に高気圧があり、本州付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

3日は、華南から九州の南海上にかけて前線がのび、前線上の九州の西海上に低気圧が発生したため、南西諸島と西日本で雨が降り、九州南部地方の一部では大雨となった。西日本の一部では強風を伴った。朝鮮半島の低気圧が日本海中部へ進んだため、東日本から北日本にかけて雨や曇りとなった。東北地方の一部では雷を伴った。

4日は、九州の南海上の低気圧が前線から離れて四国沖へ進んだため、西日本で雨が降った。華南から日本の南海上へのびる前線上の先島諸島付近に低気圧が発生し、九州の南海上へ進んだため、南西諸島で雨が降った。先島諸島の一部では雷を伴った。北海道の西海上の低気圧が北東へ進んで消滅した。北日本で雨が降り、東日本で雨や曇りとなった。北海道の一部では雷を伴った。

5日は、沖縄本島付近の低気圧が前線を伴って日本の南海上へ進んだ。南西諸島から西日本にかけてと東海地方や関東で雨が降った。九州北部の一部と伊豆諸島の一部では大雨となり、九州の一部と中国地方の一部では雷を伴った。千島の東海上に高気圧があり、湿った空気が流れ込んだ影響で、東北地方と北海道の太平洋側で雨が降り、一部では雷を伴った。北陸と東北地方の日本海側では曇った。

6日は、日本の南海上の低気圧からのびる前線の関東の東海上に低気圧が発生し、北東へ進んだため、西日本、東海地方、関東甲信、東北地方で雨が降り、東北地方の太平洋側では大雨となったところがあった。西日本の一部では雷を伴った。北海道では雨や曇りとなり、北陸では曇った。南西諸島では概ね晴れた。

7日は、関東の東海上の低気圧が三陸沖へ進んだため、北日本で雨が降った。弱い気圧の谷の影響で、

西日本の日本海側と北陸で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

高気圧に覆われた後、低気圧が日本の南岸を通過（8日～11日）

8日は、日本海西部と日本の南海上に高気圧があり、日本付近は高気圧に覆われた。上空の気圧の谷の影響で、東日本と北日本で雨や曇りとなり、西日本の日本海側で曇った。その他の地方は概ね晴れた。

9日は、華中の低気圧が前線を伴って東シナ海へ進んだ。九州や四国と中国地方では雨や曇りとなり、近畿と東日本では曇った。湿った空気が流れ込んだ影響で、北日本で雨や曇りとなった。南西諸島では概ね晴れた。

10日は、東シナ海の低気圧は消滅したが、華中から九州を通過して関東の東海上にかけて前線がのび、朝鮮半島に低気圧が発生して日本海中部へ進んだ。西日本で雨が降り、九州の一部と四国の一部では大雨となった。西日本の太平洋側の一部では強風となった。東日本と北日本の一部では雨や曇りとなり、南西諸島では概ね晴れた。

11日は、前線が華南から日本の南海上にかけて停滞し、前線上の本州南岸に低気圧が発生して三陸沖へ進んだため、南西諸島、九州南部地方、四国、中国地方の一部と近畿から東日本にかけて雨が降った。南西諸島の一部と北陸の一部では雷を伴った。日本海中部の低気圧が沿海州へ進んだため、北日本で雨が降り、北海道の一部では大雨となった。九州北部では概ね晴れた。

前線が沖縄付近に停滞、日本付近を上空に寒気を伴った気圧の谷が通過（12日～18日）

12日は、前線が華南から沖縄本島付近を通過して日本の東海上に停滞し、三陸沖の低気圧が前線から離れて北海道の東海上へ進んだ。前線の影響で、南西諸島で雨が降り、大雨となったところや、雷を伴ったところがあった。九州では曇りとなった。沿海州の低気圧がほとんど停滞した後消滅し、日本海中部に低気圧が発生して北海道の西海上へ進んだため、山陰の一部と北海道で雨が降り、東北地方で雨や曇りとなった。北日本の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

13日は、前線が九州の南海上に停滞し、前線上の東シナ海に低気圧が発生して日本の南海上へ進んだ。前線の影響で、南西諸島で雨が降り、大雨となったところや、雷を伴ったところがあった。西日本では雨や曇りとなった。近畿の一部では雷を伴った。関東の東海上に低気圧が発生したため、東日本と東北地方では雨や曇りとなった。北海道の西海上の低気圧がほとんど停滞したため、北海道では雨となった。

14日は、前線が引き続き沖縄本島付近に停滞したため、南西諸島で雨が降り、大雨となったところや、雷を伴ったところがあった。関東の東海上の低気圧が東へ進んだため、関東甲信で雨が降り、北陸と東北地方で雨や曇りとなった。関東甲信の一部と東北地方の一部では雷を伴った。北海道の西海上の低気圧がほとんど停滞した後消滅した。北海道で雨が降った。

15日は、引き続き前線が沖縄本島付近に停滞したため、南西諸島で雨が降った。沖縄本島地方の一部では大雨となり、先島諸島の一部では雷を伴った。上空の寒気の影響で、西日本の一部、東海地方の一部、関東甲信、東北地方の一部と北海道で雨が降った。西日本の一部と関東の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

16日は、九州の南海上に前線が停滞したため、南西諸島で雨が降り、雷を伴ったところがあった。上空の寒気の影響で、西日本の一部と東日本で雨が降り、雷を伴ったところがあった。東北地方の太平洋側と北海道では雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

17日は、前線が九州の南海上に停滞した。前線の影響で、南西諸島で雨が降り、先島諸島の一部では雷を伴った。上空の寒気の影響で、東日本と北日本の太平洋側で雨となり、関東の一部と東北地方の一部では雷を伴った。東日本と北日本の日本海側では曇った。その他の地方は概ね晴れた。

18日は、前線が九州の南海上に停滞し、先島諸島付近に低気圧が発生した。南西諸島と九州南部地方で雨が降り、奄美地方の一部では雷を伴い、先島諸島の一部では強風となった。上空の寒気の影響で、東日本と東北地方で雨が降り、東日本の一部では雷を伴った。九州北部の一部と近畿の一部では雨や曇りとなり、近畿の一部では雷を伴った。北海道で曇りとなった。

南海上から湿った空気が流れ込む（19日～21日）

19日は、九州の南海上に停滞していた前線は日本の東海上に離れ、先島諸島付近の低気圧が沖縄本島付近へ進んだ。南西諸島と九州南部地方で雨が降り、先島諸島の一部では雷を伴った。弱い気圧の

谷の影響で、北日本で曇りや雨となった。その他の地方は概ね晴れた。

20日は、沖縄本島付近の低気圧が日本の南海上へ進んだ。南海上から湿った空気が流れ込んだ影響で、西日本の太平洋側と東海地方で雨が降り、四国の一部では大雨となった。東日本では雨や曇りとなった。上空の気圧の谷の影響で、北海道で雨や曇りとなり、東北地方で曇った。西日本の日本海側では概ね晴れた。

21日は、日本の南海上の低気圧が四国沖へ進んで消滅した。南海上から湿った空気が流れ込んだ影響で、西日本から北日本にかけて雨が降った。南西諸島では概ね晴れた。

低気圧や前線が通過し大荒れ（22日～24日）

22日は、華北から東北地方にかけて前線がのび、また朝鮮半島の低気圧が発達しながら北海道の西海上へ進んだため、西日本から北日本にかけて雨が降った。西日本から東日本にかけての日本海側の一部で大雨となり、西日本の一部や北海道の一部では雷や強風を伴い、東日本の一部では雷を伴った。南西諸島では概ね晴れた。

23日は、北海道の西海上の低気圧がサハリンの西海上へ進み、伴う前線が日本付近を通って華中までのびた。東シナ海の熱帯低気圧が前線上の温帯低気圧に変わって、九州の西海上へ進んだ。南西諸島の一部、九州、四国、中国地方の一部、近畿と東日本から北日本にかけて雨が降った。九州南部地方と北海道では大雨となり、西日本の一部と北海道では雷や強風を伴い、東日本の一部では雷を伴った。東北地方の一部では強風を伴った。

24日は、九州の西海上の低気圧が前線を伴って三陸沖へ進んだ。南西諸島、九州、四国、山陽、近畿、東海地方と関東甲信で雨が降り、近畿の一部と東海地方の一部で大雨となった。近畿南部の一部や伊豆諸島の一部では雷を伴い、近畿南部の一部では暴風となった。その他の地方は概ね晴れた。

前線が九州の北部付近に停滞し、九州で大雨（25日～30日）

25日は、三陸沖の低気圧が北東へ進んだ後前線から離れ、奄美地方から三陸沖にかけて前線が停滞した。南西諸島で雨が降り、関東で雨や曇りとなった。九州南部地方と四国の一部では曇った。その他の地方は概ね晴れた。

26日は、引き続き九州の南海上の前線が停滞したため、南西諸島で雨が降り、大雨となったところや、雷を伴ったところがあった。沿海州の低気圧が東へ進んで消滅した。北海道のオホーツク海側で雨が降り、雷を伴ったところがあった。その他の地方は概ね晴れた。

27日は、九州の南海上の前線が北上し、九州の南部で停滞したため、南西諸島と九州で雨が降り、九州南部地方の一部で大雨となり、奄美地方の一部では雷を伴った。四国では曇りとなった。サハリンの東海上に発生した低気圧が千島近海へ進んだため、北海道のオホーツク海側で雨が降った。大気の状態が不安定になった影響で、東北地方の一部で雨が降り、雷を伴ったところがあった。その他の地方は概ね晴れた。

28日は、九州の南部から四国沖へのびる前線が北上して九州の北部に停滞し、前線上の四国沖に低気圧が発生して関東の東海上へ進んだ。九州と四国から関東にかけての太平洋側で雨が降り、九州南部地方の一部で大雨となった。九州では雷を伴ったところがあり、伊豆諸島の一部では強風となった。千島近海の低気圧が北東へ進み、北海道のオホーツク海側で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

29日は、九州の北部の前線が北上して中国地方から近畿にかけて停滞し、関東の東海上の低気圧が前線から離れて東へ進んだ。日本海西部に低気圧が発生し、日本海中部へ進んだ。西日本から東日本にかけて雨が降り、九州北部と中国地方では大雨となったところや、雷を伴ったところがあった。西日本の一部では強風となった。南西諸島と北日本は概ね晴れた。

30日は、中国地方から近畿にかけての前線が停滞し、前線上の東シナ海に低気圧が発生して九州の西海上へ進んだ。西日本から東日本にかけて雨が降り、九州北部の一部では大雨となり、雷を伴ったところや、強風となったところがあった。四国では大雨となったところや、強風となったところがあった。日本海中部の低気圧が北海道の西海上へ進んだため、東北地方で雨が降り、北海道で雨や曇りとなり、北海道の一部では雷を伴った。南西諸島では概ね晴れた。

7月

前線が九州から関東の東海上にかけて停滞（1日～6日）

1日は、前線が九州から関東南部にかけて停滞し、前線上の対馬海峡の低気圧が北陸へ進んだため、

西日本と東日本で雨が降り、九州北部の一部と北陸の一部では大雨となった。西日本の一部と東海地方の一部では雷を伴い、西日本の一部では暴風や強風となった。北海道の西海上の低気圧がほとんど停滞したため、北日本で雨が降り、北海道の一部では雷を伴った。南西諸島は概ね晴れた。

2日は、前線が九州の南海上から本州の南岸を通過して三陸沖に停滞し、前線上の低気圧が関東の東海上から三陸沖へ進んだため、南西諸島や九州南部地方、四国と近畿から東北地方にかけて雨が降り、南西諸島の一部と近畿南部の一部では雷を伴った。九州北部や中国地方と北海道は雨や曇りとなった。

3日は、華南から九州の南海上に停滞した前線が日本の南海上までのび、前線上の低気圧が東シナ海から日本の南海上へ進んだ。朝鮮半島の低気圧は日本海西部へ進んだ。南西諸島から東北南部にかけて雨が降り、奄美地方の一部では大雨となった。西日本の一部や東北地方の一部では雷を伴った。上空の寒気の影響で、北海道では雨や曇りとなった。

4日は、前線が華南から九州の南海上を通過して関東の東海上にかけて停滞し、前線上の低気圧が東海地方の南海上から三陸沖へ進んで前線から離れ、別の低気圧が前線上の東シナ海に発生して九州の南海上へ進んだ。南西諸島や西日本の一部、東日本と東北地方で雨が降り、一部では雷を伴った。上空の寒気の影響で、北海道では雨や曇りとなった。

5日は、前線が九州の南海上から関東の東海上にかけて停滞し、前線上の九州の南海上の低気圧が前線から離れて九州の西海上へ進んだ。先島諸島や沖縄本島地方、九州、四国、中国地方の一部と近畿南部で雨が降り、先島諸島の一部と九州北部の一部では雷を伴った。近畿北部の一部、東日本の一部では雨や曇りとなった。上空の寒気の影響で、北日本の一部で雨や曇りとなり、東北地方の一部では雷を伴った。

6日は、前線が九州の南海上から本州南岸を通過して関東の東海上にかけて停滞したため、四国や中国地方の一部、近畿と東日本で雨が降り、近畿南部の一部では大雨となった。近畿の一部と東日本の一部では雷を伴った。九州の西海上の低気圧は対馬海峡へ進んで消滅した。九州北部の一部では雨が降った。弱い気圧の谷の影響で、南西諸島の一部では雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

前線が本州付近に停滞（7日～13日）

7日は、南から湿った空気が流れ込んだ影響で、四国や近畿と東海地方で雨が降り、近畿南部の一部では大雨となった。近畿の一部では雷を伴った。華北から黄海を通過して日本海西部に前線が発生して停滞し、前線上の黄海に低気圧が発生して日本海西部へ進んだため、西日本の日本海側や北陸、東北地方と北海道の一部で雨が降り、北陸の一部と東北地方の一部では雷を伴った。

8日は、日本海西部の低気圧が網走沖へ進み、伴う前線が東北地方を通過して華北までのびたため、九州北部から北海道にかけて雨が降り、九州北部の一部や中国地方の一部と甲信地方の一部で大雨となった。九州北部の一部や北陸の一部と東北地方の一部では雷を伴い、北陸の一部では強風となった。九州南部地方では雨や曇りとなった。南から湿った空気が流れ込んだ影響で、南西諸島の一部では雨が降った。

9日は、前線を伴った低気圧が網走沖から千島近海へ進んで前線から離れ、前線が華北から東北地方を通過して北海道の東海上にかけて停滞した。前線上の華北の低気圧が日本海西部へ進んだため、東日本と東北地方で雨が降り、北陸の一部と東北地方の一部では雷を伴った。西日本と北海道の一部では雨や曇りとなり、九州北部の一部や四国の一部と北海道の一部で強風となった。南西諸島は概ね晴れた。

10日は、日本海西部の低気圧が北海道の東海上へ進み、伴う前線が九州から東北地方を通過した。西日本や東海地方の一部、北陸、甲信地方と北日本で雨が降り、西日本の一部や北陸の一部と北海道の一部では雷を伴い、四国の一部や東日本の一部と東北地方の一部で強風となった。関東は曇りとなった。南から湿った空気が流れ込んだ影響で、先島諸島で雨が降った。

11日は、前線が九州北部から関東南部にかけて停滞したため、九州と四国で雨が降り、九州北部の一部では大雨となった。九州の一部では雷を伴った。中国地方から東北南部にかけては曇った。前線を伴った低気圧が北海道の東海上から千島の東海上へ進んで前線から離れた。東北北部の一部と北海道の一部で雨や曇りとなった。南西諸島は概ね晴れた。

12日は、華中から西日本を通過して千島の東海上にかけて前線がのびたため、九州北部や中国地方で雨や曇りとなり、四国の一部と東日本で曇った。前線上の黄海の低気圧が日本海西部へ進んだため、東北地方と北海道の一部で雨が降った。沖縄の南海上にある熱帯低気圧の影響で、先島諸島と沖縄本島地方で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

13日は、日本海西部の低気圧が釧路沖へ進み、伴う前線が東日本から東北地方を通過した。四国の

一部や東海地方の一部、北陸、甲信地方と北日本で雨が降った。東海地方の一部や北陸の一部と北海道の一部では雷を伴い、北日本の一部では強風となった。西日本の日本海側では雨や曇りとなり、中国地方の一部と近畿北部の一部では雷を伴った。台湾付近の熱帯低気圧の影響で、先島諸島で雨が降り、一部で強風となった。

低気圧が日本海を通過（14日～17日）

14日は、釧路沖の低気圧は北海道の東海上に離れたが、黄海の別の低気圧が朝鮮半島へ進み、伴う温暖前線が日本海中部までのびたため、北日本で雨が降り、北陸は雨や曇りとなった。日本の南海上に高気圧があり、西日本を中心に高気圧に覆われたため、西日本から東日本にかけて概ね晴れたが、南から湿った空気が流れ込んだ影響で、南西諸島で雨が降り、大気の状態が不安定になった影響で近畿北部の一部で雨が降り、一部では雷を伴った。

15日は、朝鮮半島の低気圧が北海道の西海上へ進み、伴う前線が東日本から北海道にかけて通過した。西日本や北陸と北日本で雨が降り、北海道の一部では大雨となった。九州北部の一部では雷を伴った。東北地方の一部では強風となった。その他の地方は概ね晴れた。

16日は、北海道の西海上の低気圧が前線を伴って千島近海へ進んだため、東北地方の一部と北海道で雨が降り、東北地方の一部と北海道の一部では強風となった。華北から中国地方にかけて停滞した前線が北陸までのびたため、九州や中国地方、近畿、北陸と関東北部の一部で雨が降り、九州の一部や北陸の一部と関東の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

17日は、日本海西部から関東地方までのびた前線が停滞したため、西日本や東日本と東北地方の一部で雨が降り、中国地方の一部と東日本の一部では大雨となった。東日本の一部と東北地方の一部では雷を伴った。千島近海の低気圧がほとんど停滞したため、北海道のオホーツク海側で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

日本海の停滞前線が九州の南海上まで南下、九州や中国地方で大雨（18日～23日）

18日は、華北の低気圧が日本海西部へ進み、伴う前線が東北北部を通過して三陸沖までのびたため、東日本と北日本で雨が降り、北陸の一部と東北地方の一部では大雨となった。北日本の一部では雷を伴った。近畿は雨や曇りとなり、九州北部と中国地方は曇った。その他の地方は概ね晴れた。

19日は、日本海西部の低気圧が釧路沖へ進み、伴う前線が東日本から東北地方にかけて通過した。中国地方や近畿、東海地方、北陸と北日本で雨が降り、中国地方の一部と東北地方の一部では大雨となった。西日本の一部と北陸の一部では雷を伴った。九州や関東甲信では雨や曇りとなり、四国では曇りとなった。南西諸島は概ね晴れた。

20日は、釧路沖の低気圧が千島近海へ進んだため、北海道と東北地方の日本海側で雨が降った。前線が朝鮮半島から関東南部にかけて停滞したため、西日本で雨が降り、九州北部の一部と中国地方の一部では大雨となった。西日本の一部では雷を伴い、中国地方の一部では強風となった。東日本は雨や曇りとなり、北陸の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

21日は、朝鮮半島から関東にかけて停滞した前線が九州北部まで南下したため、西日本から東日本にかけて雨が降り、西日本の一部と東日本の一部では大雨となった。西日本の一部と東日本の一部では雷を伴ったところもあった。日本海西部に低気圧が発生して日本海中部へ進んだため、北日本で雨が降った。

22日は、九州北部から関東にかけて停滞していた前線が九州の南海上に南下し、四国沖に低気圧が発生したため、奄美地方や九州、四国、近畿と東日本で雨が降り、九州北部の一部や四国の一部と伊豆諸島の一部では大雨となった。奄美地方の一部や西日本の一部と東日本の一部では雷を伴った。中国地方は曇りとなった。日本海中部の低気圧が北海道の西海上へ進んだため、北日本は雨が降り、北海道の一部では雷を伴った。先島諸島と沖縄本島地方は概ね晴れた。

23日は、前線が九州の南海上から日本の南海上を通過して三陸沖にかけて停滞したため、奄美地方や東日本の太平洋側で雨が降り、奄美地方の一部と東日本の太平洋側の一部では雷を伴った。近畿や東日本の日本海側と東北地方の一部では雨や曇りとなった。北海道の西海上の低気圧がほとんど停滞した後消滅し、北海道は雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

前線が北上して九州北部から本州にかけて停滞、西日本を中心に大雨（24日～27日）

24日は、九州の南海上に停滞していた前線が九州北部に北上し、前線上の東シナ海の低気圧が九州の西海上へ進んだ。九州や四国と中国地方で雨が降り、九州北部の一部と中国地方の一部では大雨と

なった。九州北部の一部と中国地方の一部では雷を伴った。近畿は概ね曇った。南から湿った空気が流れ込んだ影響で、東日本と北日本で雨が降り、東海地方と関東甲信の一部では大雨となった。関東の一部と北海道の一部では雷を伴った。

25日は、前線が九州北部から日本海中部を通過して千島近海に停滞し、前線上の山陰沖に低気圧が発生して日本海中部へ進み、また、前線上の千島近海に別の低気圧が発生して北東へ進んだため、西日本から北日本にかけて雨が降り、西日本の一部や東海地方の一部と北海道の一部で大雨となった。西日本の一部や東日本の一部と北日本の一部では雷を伴った。南から湿った空気が流れ込んだ影響で、先島諸島では雨が降った。

26日は、前線が九州北部から本州の日本海側を通過して東北地方にかけて停滞し、前線上の九州の西海上に低気圧が発生して中国地方へ進んだ。日本海中部の低気圧が北海道の西海上へ進んだ。南西諸島や西日本、東海地方、北陸、関東甲信の一部と北日本で雨が降り、西日本の一部では大雨となった。奄美地方の一部や西日本の一部、東日本の一部と東北地方の一部では雷を伴った。関東南部は概ね晴れた。

27日は、北海道の西海上の低気圧は消滅したが、前線が九州の南部から近畿を通過して東北地方にかけて停滞し、前線上の低気圧が中国地方から日本海中部へ進んで消滅した。南西諸島や九州南部地方、四国、中国地方と近畿から北日本にかけて雨が降り、東海地方の一部や北陸の一部と甲信地方の一部では大雨となった。中国地方の一部や東日本の一部と北日本の一部では雷を伴った。九州北部では雨や曇りとなった。先島諸島は概ね晴れた。

低気圧が通過した後高気圧に覆われる(28日~31日)

28日は、華中から九州の南海上に停滞していた前線が九州北部に北上して関東南部までのび、前線上の華中に低気圧が発生して九州の西海上へ進んだため、九州や近畿、東日本と東北地方で雨が降り、近畿の一部と東海地方の一部では大雨となった。近畿南部の一部と関東の一部では雷を伴った。奄美地方や四国と中国地方は雨や曇りとなった。北海道に低気圧が発生してサハリンの東海上へ進んだため、北海道で雨が降った。先島諸島と沖縄本島地方は概ね晴れた。

29日は、対馬海峡の低気圧が前線を伴って日本海中部へ進んだため、西日本や東日本と東北地方で雨が降り、近畿南部の一部や東海地方の一部と甲信地方の一部では大雨となった。九州南部地方の一部と近畿の一部では雷を伴った。北海道は雨や曇りとなった。沖縄本島付近に高気圧があり、南西諸島は概ね晴れた。

30日は、日本海中部の前線を伴った低気圧が三陸沖へ進んで消滅したが、関東から三陸沖にかけて前線が停滞した。山陰や近畿、東日本と東北地方で雨が降り、関東の一部では大雨となった。近畿の一部や関東の一部と東北地方の一部では雷を伴った。九州北部の一部と北海道の一部は雨や曇りとなった。九州南部地方と南西諸島は概ね晴れた。

31日は、関東の東海上に停滞していた前線は北東に離れたが、南から湿った空気が流れ込んだ影響で、東日本で雨が降り、西日本で雨や曇りとなり、東北南部で曇りとなった。上空の気圧の谷の影響で、北海道で曇った。東北北部と南西諸島は概ね晴れた。

8月

上空の寒気の影響で大気の状態が不安定(1日~4日)

1日は、上空の寒気と南からの湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、南西諸島の一部や西日本と東日本で雨が降り、北日本では雨や曇りとなった。近畿の一部と東海地方の一部では大雨となり、南西諸島の一部や西日本の一部、東日本の一部と東北地方の一部では雷を伴った。

2日は、上空の寒気と南からの湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、南西諸島の一部と西日本、東日本と北日本で雨が降った。近畿の一部と東海地方の一部で大雨となり、中国地方の一部や近畿の一部と北陸の一部では雷を伴った。

3日は、上空の寒気と南からの湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、南西諸島や西日本の一部、東日本の一部と北日本で雨が降った。九州の一部や中国地方の一部と北日本の一部では雷を伴った。

4日は、上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、九州の一部や四国の一部、中国地方と近畿の一部で雨が降り、中国地方の一部で大雨となった。関東の東海上に低気圧が発生し、北東へ進んだため、関東南部と東北地方の太平洋側で雨が降った。湿った空気の影響で北海道の一部で雨や曇りとなった。日本の南海上にある台風第8号の影響で、南西諸島で雨が降った。

台風第 8 号が先島諸島に接近(5 日～8 日)

5 日は、台風第 8 号が日本の南海上を西へ進んだ。南西諸島で雨が降り、先島諸島の一部では雷を伴い、強風となった。三陸沖の低気圧が日本の東海上に離れた。西日本や東日本と東北地方では雨や曇りとなった。北海道の一部は曇った。

6 日は、南からの湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、西日本から東日本にかけて雨が降り、東北地方の太平洋側で雨や曇りとなった。九州南部地方の一部や近畿の一部と東日本の一部では雷を伴った。台風第 8 号が沖縄の南海上から先島諸島付近へ進んだため、南西諸島で雨が降り、一部では強風となった。先島諸島の一部では暴風となった。日本海中部と三陸沖に高気圧があったため、東北北部と北海道は概ね晴れた。

7 日は、台風第 8 号が先島諸島付近から台湾付近へ進んだため、南西諸島で雨が降り、一部では雷を伴い、一部では強風となった。先島諸島の一部では暴風となった。南からの湿った空気の影響で大気の状態が不安定となり、西日本で雨が降り、九州の一部と近畿の一部では雷を伴った。千島の東海上の低気圧からのびる前線が東北南部から北陸にかけて停滞したため、東日本と東北南部で雨が降り、北陸の一部、関東甲信の一部と東北南部の一部では雷を伴った。東北北部と北海道の一部では曇りとなった。

8 日は、台風第 8 号が台湾付近を北西へ進んだ。南西諸島で雨が降り、先島諸島の一部で大雨となった。南西諸島の一部では雷を伴った。先島諸島の一部では暴風となった。南からの湿った空気の影響で大気の状態が不安定となったため、九州や四国、近畿の一部と東日本で雨が降り、東北地方で雨や曇りとなった。中国地方の一部と北海道の一部は曇った。九州南部地方の一部と近畿の一部や関東甲信の一部では雷を伴った。

台風第 9 号が本州南岸に接近、西日本から東日本にかけて大雨(9 日～11 日)

9 日は、日本の南海上の熱帯低気圧が北へ進んで台風第 9 号となった。南からの湿った空気の影響で、西日本から東北地方にかけて雨が降り、西日本の一部と東海地方の一部で大雨となった。四国の一部や近畿の一部、関東の一部と東北地方の一部では雷を伴い、東海地方の一部では強風となった。北海道の一部では曇りとなった。台風第 8 号が台湾付近から北へ進み、中国大陸に達した。先島諸島では雨が降り、一部で暴風となった。

10 日は、台風第 9 号が日本の南海上を北東へ進み、東海地方の南海上へ進んだ。西日本から東北地方にかけて雨が降り、西日本の一部や、東日本の一部と東北地方の一部で大雨となった。西日本の一部と伊豆諸島の一部では雷を伴った。台風第 8 号が華中を北へ進み、先島諸島の一部では強風となった。北海道は概ね晴れた。

11 日は、台風第 9 号が東海地方の南海上から関東の東海上へ進み、三陸沖に低気圧が発生して東へ進んだため、四国の一部や中国地方の一部と近畿で雨が降り、東日本と東北地方で雨や曇りとなった。近畿の一部と東海地方の一部では大雨となり、伊豆諸島の一部では雷を伴った。台風第 8 号から変わった熱帯低気圧が華中から黄海へ進んだため、九州北部の一部で雨が降った。九州南部地方と北海道は概ね晴れた。

低気圧が日本海を通過した後高気圧に覆われる(12 日～15 日)

12 日は、台風第 9 号が関東の東海上を東へ進んだ。黄海の熱帯低気圧が温帯低気圧に変わり、伴う前線が黄海から日本海中部にかけて停滞した。黄海の低気圧は朝鮮半島へ進んで消滅したが、前線上の日本海中部に別の低気圧が発生して北東へ進んだ。湿った空気の影響で、沖縄本島地方の一部や九州、中国地方の一部、東海地方の一部、北陸の一部と東北地方で雨が降った。九州の一部では雷を伴い、一部では強風となった。北海道で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

13 日は、日本海中部の低気圧が前線から離れて北海道の南岸へ進み、前線が西日本から東北地方にかけて通過した。西日本や北陸と北日本で雨が降り、東北地方の一部で大雨となった。九州の一部や近畿の一部、東海地方の一部と東北地方の一部では雷を伴った。九州の一部では強風となった。東海地方と関東甲信の一部では雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、南西諸島の一部で雨が降った。

14 日は、北海道の南岸の低気圧が北海道の東海上へ進み、関東の東海上に低気圧が発生して三陸沖へ進んだため、東日本と北日本で雨や曇りとなった。華中の低気圧が九州の西海上へ進んだため、西日本の一部で雨が降り、九州北部の一部では雷を伴った。日本の南海上に高気圧があったため、南西諸島は概ね晴れた。

15日は、九州の西海上の低気圧が九州北部へ進んで消滅した。九州や四国と中国地方で雨が降った。九州北部の一部で大雨となり、一部で雷を伴った。近畿と北陸の一部では曇りとなった。南からの湿った空気の影響で、東海地方の一部では雨が降った。上空の気圧の谷の影響で、北海道で雨が降った。日本海中部の高気圧が三陸沖へ移動して、東日本から北日本にかけて高気圧に覆われたため、関東甲信と東北地方は概ね晴れた。沖縄の南海上に高気圧があったため、南西諸島は概ね晴れた。

大気の状態が不安定となり各地で雨(16日～19日)

16日は、上空の寒気の影響で、西日本の一部や東海地方の一部で雨が降り、四国の一部で大雨となった。弱い気圧の谷の影響で、北海道で雨や曇りとなった。大気の状態が不安定となり、南西諸島で雨が降り、一部では雷を伴った。日本海中部と沖縄の南海上に高気圧があり日本付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

17日は、弱い気圧の谷の影響で、南西諸島や九州と北海道で雨が降り、南西諸島の一部と九州の一部では雷を伴った。東北地方の太平洋側では雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

18日は、弱い気圧の谷の影響で、南西諸島の一部や九州の一部で雨が降り、東日本の一部と北海道で雨や曇りとなった。東北地方の一部は曇った。その他の地方は概ね晴れた。

19日は、弱い気圧の谷の影響で、南西諸島の一部や九州南部地方の一部と伊豆諸島で雨が降った。伊豆諸島の一部では大雨となり、南西諸島の一部では雷を伴った。関東の一部では曇りとなった。上空の寒気の影響で、北海道で雨が降り、東北地方で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

低気圧が日本海を通過した後、寒気が流れ込む(20日～26日)

20日は、中国東北区の低気圧が沿海州へ進み、伴う前線が北海道から朝鮮半島までのびたため、九州の一部や四国の一部と北海道で雨が降り、東北地方で雨や曇りとなった。日本の南海上で熱帯低気圧が発生したため、南西諸島で雨が降り、一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

21日は、沿海州の低気圧が前線から離れてサハリンの西海上へ進み、前線が釧路沖を通過して九州北部まで達した。九州の一部や中国地方の一部、近畿の一部、東海地方、北陸、甲信地方と北日本で雨が降った。九州の一部や近畿の一部と東北地方の一部では雷を伴った。北海道の一部では強風となった。関東では曇りとなった。沖縄の南海上の熱帯低気圧が西へ進み、低圧部に変わった。南西諸島で雨が降り、一部では雷を伴った。四国は概ね晴れた。

22日は、サハリンの西海上の低気圧がサハリンの東海上へ進み、前線が九州から関東南部にかけて停滞した。九州北部や中国地方、東日本と北海道の一部で雨が降り、九州の一部と中国地方の一部では雷を伴った。近畿は雨や曇りとなり、四国の一部と東北地方では曇りとなった。沖縄の南海上の低圧部がほとんど停滞したため、沖縄で雨が降った。九州南部地方は概ね晴れた。

23日は、サハリンの東海上の低気圧は東に離れ、東海地方の南海上から関東の東海上にかけて前線が停滞した。東北北部と北海道で雨が降り、北海道の一部では雷を伴った。西日本の一部では雨や曇りとなり、東日本の一部では曇りとなった。南からの湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降り、一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

24日は、上空の寒気の影響で、四国の一部や近畿南部の一部、東日本の一部と北日本で雨が降った。関東の一部と北海道の一部では雷を伴った。前線が九州の南海上に停滞したため、奄美地方で雨が降った。大気の状態が不安定となり、南西諸島で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

25日は、上空の寒気の影響で、九州南部地方の一部や東日本の一部と北日本の一部で雨が降った。大気の状態が不安定となった影響で、南西諸島で雨が降り、一部では雷を伴った。日本海中部に高気圧があり、日本付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

26日は、上空の気圧の谷の影響で、先島諸島と四国の一部で雨が降り、近畿南部と東海地方で雨や曇りとなった。関東の一部は曇った。北海道の東海上に高気圧があったため、その他の地方は概ね晴れた。

低気圧が日本海を通過(27日～29日)

27日は、朝鮮半島の低気圧が前線を伴って日本海中部へ進んだ。北海道で雨が降り、東北北部で雨や曇りとなった。北陸では曇りとなった。湿った空気の影響で、四国で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

28日は、日本海中部の低気圧がサハリンの西海上へ進み、伴う前線が北海道を通過して九州北部まで達した。四国や中国地方と北日本で雨が降り、九州北部と北陸で雨や曇りとなった。九州北部の一部、

東北地方の一部、北海道の一部で大雨となり、九州の一部、中国地方の一部では雷を伴った。北海道の一部では強風となった。近畿では曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

29日は、サハリンの西海上の低気圧が前線から離れて北へ進み、前線が九州から北海道にかけて通過した。西日本の一部や東海地方の一部、北陸、関東甲信の一部と北日本で雨が降った。北海道の一部では強風となった。南西諸島は概ね晴れた。

台風第11号が関東に接近(30日～31日)

30日は、前線が関東の東海上から三陸沖にかけて停滞し、台風第11号が関東の南海上を北西へ進んだため、東海地方の一部と関東甲信で雨が降り、西日本と東北南部で雨や曇りとなった。東日本の一部では強風となった。北陸や東北北部と北海道では曇りとなった。大気の状態が不安定となり、南西諸島の一部で雨が降った。

31日は、台風第11号が関東の南海上から三陸沖へ進み、前線が関東の東海上から北海道の東海上にかけて停滞した。東日本や東北地方で雨が降った。関東甲信の一部と東北地方の一部で大雨となった。関東の一部では強風となった。北海道では雨や曇りとなった。弱い気圧の谷の影響で、西日本は雨や曇りとなった。南西諸島は概ね晴れた。

9月

西日本や東日本で大気の状態が不安定(1日～4日)

1日は、三陸沖の台風第11号が北海道の東海上へ進んで、温帯低気圧に変わった。北陸の一部や関東の一部、東北地方と北海道の太平洋側で雨が降り、北海道の一部で強風となった。大気の状態が不安定となった影響で、南西諸島や九州南部地方の一部で雨が降り、南西諸島の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

2日は、北海道の東海上の低気圧が千島の東海上へ進み、北日本は高気圧に覆われた。湿った北東風が流れ込んだ影響で、近畿南部の一部と東日本で雨や曇りとなった。伊豆諸島の一部では強風となった。湿った空気の影響で、南西諸島と九州南部地方の一部で雨が降り、一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

3日は、日本海中部に低気圧が発生し、ほとんど停滞した。湿った空気が流れ込んだ影響で、南西諸島で雨が降り、西日本や東日本で雨や曇りとなり、東北地方で曇りとなった。九州の一部や近畿の一部と北陸の一部では雷を伴い、伊豆諸島の一部では強風となった。北海道の東海上に高気圧があったため、北海道は概ね晴れた。

4日は、日本海中部の低気圧が東へ進んだ。上空の寒気の影響で、西日本から北日本にかけて雨が降り、西日本の一部や北陸の一部、甲信地方の一部と北日本の一部では雷を伴った。フィリピンの東海上で台風第12号が発生し、北東へ進んだため、南西諸島で雨が降り、一部では雷を伴った。

上空の寒気の影響で北海道を中心に雨(5日～11日)

5日は、上空の寒気の影響で、北陸の一部や東北地方の一部と北海道で雨が降り、北海道の一部では大雨となった。北日本の一部では雷を伴った。日本の南海上の台風第12号が北東へ進んだ。小笠原諸島で雨が降った。湿った空気が流れ込んだ影響で、南西諸島の一部と九州南部地方で雨が降り、九州北部の一部と中国地方の一部では曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

6日は、上空の寒気の影響で、北海道で雨が降った。日本の南海上の台風第12号が北へ進み、小笠原諸島で雨が降った。湿った空気が流れ込んだ影響で、南西諸島の一部で雨が降り、一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

7日は、サハリンの西海上に低気圧が発生した。上空の寒気の影響で、東北北部と北海道で雨が降り、北海道の一部では大雨となった。日本の南海上の台風第12号が北へ進んだ。伊豆諸島で雨が降り、一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

8日は、サハリンの低気圧はほとんど停滞し、釧路沖に低気圧が発生して千島近海へ進んだ。東北北部と北海道で雨が降り、中国地方や北陸と東北南部で雨や曇りとなり、九州北部は曇った。日本の南海上の台風第12号が東北東へ進み、小笠原諸島で雨が降った。湿った空気の影響で、南西諸島の一部で雨が降り、関東で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

9日は、日本の東海上の台風第12号が北東へ進んで日本から離れた。サハリンの低気圧がほとんど停滞した。上空の気圧の谷の影響で、北陸や東北地方と北海道の日本海側で雨が降り、関東で雨や曇りとなり、近畿北部で曇りとなった。湿った空気の影響で、南西諸島の一部で雨が降った。その他の

地方は概ね晴れた。

10日は、サハリンの低気圧がサハリンの東海上へ進んで消滅した。上空の寒気の影響で、北陸の一部と北日本で雨が降った。東北地方の一部では雷を伴い、北海道の一部で強風となった。湿った空気の影響で、南西諸島の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

11日は、上空の寒気の影響で、北日本の日本海側で雨が降った。華中から近畿にかけて前線が発生し、停滞したため、西日本の一部で雨や曇りとなり、関東南部で曇りとなった。湿った空気の影響で、南西諸島の一部で雨が降り、一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

前線や低気圧が通過した後高気圧に覆われる（12日～17日）

12日は、前線が九州から三陸沖にかけて停滞し、前線上の三陸沖に低気圧が発生した。日本海西部に低気圧が発生し、日本海中部へ進んだ。南西諸島の一部や西日本から東北地方にかけてと北海道の一部で雨が降った。南西諸島の一部や近畿の一部、東日本の一部と北海道の一部では雷を伴い、九州の一部と四国の一部では強風となった。

13日は、三陸沖の低気圧が千島近海へ進み、伴う前線が九州の南海上へのびた。日本海中部の低気圧が津軽海峡へ進んで消滅した。南西諸島や西日本の一部、北陸、関東甲信の一部と北日本で雨が降り、南西諸島の一部や北陸の一部、伊豆諸島の一部と東北地方の一部では雷を伴い、北陸の一部では強風となった。東海地方は概ね晴れた。マリアナ諸島近海で台風第14号が発生した。

14日は、千島の東海上の低気圧からのびる前線が、関東の東海上から九州の南海上にかけて停滞したため、南西諸島で雨が降った。上空の寒気の影響で、北日本の一部で雨が降り、西日本で曇りとなった。東北地方の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

15日は、九州の南海上から関東の東海上にかけて前線が停滞し、前線上の四国沖に低気圧が発生して東海地方の南海上へ進んだ。南西諸島や四国、中国地方、近畿、東海地方、北陸と北日本で雨が降り、九州と関東で雨や曇りとなった。九州南部地方の一部で大雨となり、南西諸島の一部や北陸の一部と北日本の一部では雷を伴った。

16日は、九州の南海上から日本の東海上にかけて前線が停滞し、前線上の関東の東海上の低気圧が北東へ進んだ。南西諸島の一部と関東南部で雨が降った。上空の寒気の影響で、北陸の一部と北日本で雨が降った。北海道の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

17日は、日本海中部に高気圧があり三陸沖へ移動した。本州付近が高気圧に覆われたため、ほぼ全国的に晴れた。

台風第14号が本州南岸を通過（18日～20日）

18日は、沿海州の低気圧が前線を伴ってサハリンへ進んだため、北海道の一部で雨や曇りとなった。関東の東海上に前線が停滞し、前線上の関東の東海上に低気圧が発生した。伊豆諸島で雨が降り、西日本の太平洋側と東日本で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

19日は、上空の気圧の谷の影響で、北海道で雨が降り、一部では雷を伴った。三陸沖の低気圧が前線を伴って北東へ進み、日本の南海上の台風第14号が北東へ進んだ。南西諸島の一部と小笠原諸島で雨が降った。伊豆諸島の一部と小笠原諸島の一部では暴風となり、南西諸島の一部と関東の一部では強風となった。その他の地方は概ね晴れた。

20日は、日本の東海上の台風第14号が北東へ進み、温帯低気圧に変わった。北海道で雨が降り、関東の一部では暴風となり、伊豆諸島の一部では強風となった。日本海西部に高気圧があり日本海中部へ移動したため、その他の地方は概ね晴れた。

前線や上空の気圧の谷の影響で大気の状態が不安定（21日～26日）

21日は、東シナ海から中国地方にかけて前線が発生して停滞した。四国の一部や山陰の一部で雨が降り、九州北部で雨や曇りとなった。東海地方の一部と関東は曇った。沿海州に低気圧が発生し、北日本で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

22日は、東シナ海から北陸にかけて前線が停滞した。西日本や東海地方、北陸と甲信地方の一部で雨が降り、関東で曇りとなった。沿海州の低気圧が宗谷海峡へ進んだため、北日本で雨や曇りとなった。南西諸島は概ね晴れた。

23日は、東シナ海から東北地方にかけて前線が停滞した後消滅した。西日本や北陸と東北地方で雨が降り、東海地方と関東甲信で曇りとなった。小笠原諸島付近に熱帯低気圧が発生し北西へ進んだため、小笠原諸島で雨が降った。湿った空気の影響で、南西諸島の一部で雨が降った。北海道は概ね晴

れた。

24日は、小笠原諸島付近の熱帯低気圧がほとんど停滞した。小笠原諸島で雨が降り、伊豆諸島で曇りとなった。湿った空気の影響で、南西諸島と九州南部地方で雨が降った。上空の気圧の谷の影響で、北海道で雨が降った。朝鮮半島の高気圧が日本海中部へ移動し、本州付近が高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

25日は、小笠原諸島付近の熱帯低気圧が北へ進み、伊豆諸島で曇りとなった。大気の状態が不安定となった影響で、南西諸島と九州南部地方の一部で雨が降った。上空の気圧の谷の影響で、北海道の一部で雨が降り、一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

26日は、上空の気圧の谷の影響で、北海道で雨が降り、一部では雷を伴った。関東の東海上の熱帯低気圧が北東へ進んで消滅した。関東の一部で雨や曇りとなり、東北地方の日本海側の一部で曇りとなった。大気の状態が不安定となった影響で、九州の一部や東海地方の一部と甲信地方の一部で雨が降った。中国東北区の高気圧が沿海州へ移動し、日本付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

低気圧が日本海を通過し、西日本を中心に大雨（27日～30日）

27日は、華中から九州の西海上にかけて前線が発生し、日本海西部までのびた。前線上の東シナ海に低気圧が発生して九州の西海上へ進んだ。西日本から東日本にかけて雨や曇りとなり、東北南部で曇りとなった。九州北部の一部では大雨となった。湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降り、一部では雷を伴った。沿海州の高気圧が北海道の東海上へ移動し、北日本は高気圧に覆われたため、東北北部と北海道は概ね晴れた。

28日は、華中から日本海中部にかけて前線が停滞し、九州の西海上の低気圧は消滅した。前線上の日本海西部に別の低気圧が発生して日本海中部へ進んだ。南西諸島や西日本、東海地方、北陸と北日本で雨が降り、関東甲信で雨や曇りとなった。九州北部の一部や四国の一部、近畿の一部と東海地方の一部では大雨となった。南西諸島の一部と九州の一部では雷を伴った。

29日は、日本海中部の低気圧が千島近海へ進み、伴う前線が九州から東北地方を通過したため、ほぼ全国的に雨が降り、沖縄の一部では大雨となった。南西諸島の一部や西日本の一部と北陸の一部では雷を伴った。

30日は、千島の東海上の低気圧からのびる前線が九州南部地方から関東の東海上にかけて停滞した。南西諸島や西日本と東日本で雨が降り、東北地方では曇りとなった。西日本の一部や北陸の一部と関東の一部では雷を伴った。日本海中部の高気圧が東へ移動し、北日本を中心に高気圧に覆われたため、北海道は概ね晴れた。

10月

低気圧の通過後、前線が日本の南海上に停滞（1日～5日）

1日は、千島の東海上の低気圧からのびる前線が、日本の東海上から華中にかけて停滞した後日本の東海上から九州にかけては消滅し、華中から九州に停滞した前線上の黄海に低気圧が発生した。南西諸島や九州と四国で雨が降り、中国地方の一部や近畿と東日本で雨や曇りとなり、東北南部で曇りとなった。東北地方の高気圧が北海道の東海上へ移動し、北日本は高気圧に覆われたため、東北北部と北海道は概ね晴れた。

2日は、東シナ海から近畿にかけて前線が停滞し、前線上の黄海の低気圧は四国沖へ進み、前線上の山陰沖に別の低気圧が発生して津軽海峡へ進んだ。南西諸島の一部と西日本から北日本にかけて雨が降り、西日本の一部と関東甲信の一部では大雨となった。九州の一部や四国の一部と東海地方の一部では雷を伴い、九州の一部や四国の一部と北海道の一部では強風となった。

3日は、津軽海峡の低気圧が前線を伴ってサハリンへ進み、低気圧からのびる前線上の四国沖の低気圧は関東の東海上へ進んで消滅した。南西諸島の一部や四国、近畿、東日本と北日本で雨が降り、南西諸島の一部や東海地方の一部、関東の一部と北海道の一部では雷を伴った。中国地方で曇りとなり、九州は概ね晴れた。

4日は、沖縄本島付近から関東の東海上にかけて前線が停滞したため、南西諸島と九州南部地方の一部で雨が降った。南西諸島の一部では大雨となり、一部では雷を伴った。関東南部の一部では曇りとなった。上空の気圧の谷の影響で、東北北部と北海道で雨が降り、北日本の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

5日は、沖縄本島付近から関東の東海上にかけて前線が停滞したため、南西諸島と西日本から東日本

にかけての太平洋側で雨が降った。南西諸島の一部と九州南部地方の一部では大雨となり、南西諸島の一部では雷を伴った。西日本から東日本にかけての日本海側と東北地方で曇りとなった。上空の気圧の谷の影響で、北海道で雨が降り、一部では雷を伴った。

台風第 18 号が本州に上陸し、本州を中心に大荒れ（6 日～9 日）

6 日は、九州の南海上から日本の東海上にかけて前線が停滞し、前線上の関東の東海上に低気圧が発生して東へ進んだ。西日本から東日本にかけての太平洋側で雨が降った。関東甲信の一部では大雨となり、九州の一部では強風となった。西日本から東日本にかけての日本海側と東北地方で曇りとなった。日本の南海上の台風第 18 号が北西へ進んだため、南西諸島で雨が降った。南西諸島の一部では大雨となり、一部では雷を伴い、一部では暴風や強風となった。上空の気圧の谷の影響で、北海道の一部で雨が降った。

7 日は、九州の南海上から日本の東海上にかけて前線が停滞し、日本の南海上の台風第 18 号が四国沖へ進んだ。南西諸島と西日本から東日本にかけて雨が降り、東北地方で雨や曇りとなった。西日本の一部と東海地方の一部では大雨となった。南西諸島の一部や西日本の一部では暴風や強風となり、東海地方の一部と伊豆諸島の一部では強風となった。上空の気圧の谷の影響で、北海道の一部で雨が降った。

8 日は、四国沖の台風第 18 号が知多半島付近に上陸し、東海地方、関東甲信、東北地方を縦断して三陸沖に達した後、温帯低気圧に変わった。四国や中国地方、近畿、東日本と北日本で雨が降り、中国地方の一部や近畿の一部、東日本の一部と東北地方の一部では大雨となった。東海地方の一部と関東の一部では雷を伴い、西日本から北日本にかけての一部では暴風や強風となった。九州で雨や曇りとなり、南西諸島で曇りとなった。

9 日は、三陸沖の低気圧が北海道の東海上へ進み、伴う前線が日本の南海上までのびた。北陸と北日本で雨が降り、北海道の一部では暴風や強風となった。湿った空気の影響で、南西諸島や西日本と東海地方で雨や曇りとなり、伊豆諸島で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

上空の気圧の谷の影響で大気の状態が不安定（10 日～15 日）

10 日は、沿海州に低気圧が発生して宗谷海峡へ進んだ。北陸と北日本で雨が降り、北陸の一部と北日本の一部では雷を伴った。北海道の東海上の低気圧が東へ進んで前線から離れ、前線が日本の東海上に停滞したため、関東で雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降り、九州の一部で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

11 日は、宗谷海峡の低気圧が北海道の東海上へ進み、北陸と北日本で雨が降った。東北地方の一部では雷を伴い、北海道の一部では強風となった。湿った空気の影響で、南西諸島の一部で雨が降った。南西諸島の一部では大雨となり、一部では雷を伴った。九州の一部で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

12 日は、上空の気圧の谷の影響で、北海道の一部で雨が降った。湿った空気の影響で、南西諸島と伊豆諸島で雨が降った。本州付近に高気圧があり、日本付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

13 日は、上空の気圧の谷の影響で、北陸と北日本で雨が降り、北日本の一部では雷を伴い、北海道の一部では強風となった。関東の東海上に低気圧が発生して三陸沖へ進んだため、関東南部の一部で雨が降った。湿った空気の影響で南西諸島と山陰の一部で雨が降り、九州の一部で曇りとなった。南西諸島の一部では大雨となり、一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

14 日は、沖縄の東海上から関東の南海上にかけて前線が停滞し、前線上の関東の南海上に低気圧が発生して北東へ進んだ。南西諸島と関東で雨が降り、北陸と甲信地方で雨や曇りとなった。上空の気圧の谷の影響で、西日本や東北地方の一部と北海道で雨が降った。西日本の一部と東日本の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

15 日は、日本の東海上の低気圧が東へ進み、伴う前線が沖縄本島付近までのびて停滞した。南西諸島と関東の一部で雨が降り、南西諸島の一部と東海地方の一部では雷を伴った。サハリンの西海上の低気圧が釧路沖へ進んだため、北海道で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

低気圧や気圧の谷が通過（16 日～20 日）

16 日は、上空の気圧の谷の影響で、東北北部と北海道の一部で雨が降り、東北地方の一部と北海道の一部では雷を伴った。日本の東海上から沖縄本島付近へのびる停滞前線が日本の東海上へ進んだ。

南西諸島で雨が降り、一部では雷を伴った。日本の東海上と九州の西海上に高気圧があり、日本付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

17日は、東シナ海から九州の南海上にかけて前線が停滞し、前線上の九州の南海上に低気圧が発生して日本の南海上へ進んだ。朝鮮半島に低気圧が発生し、日本海中部へ進んだ。南西諸島や東海地方、北陸と東北地方の日本海側で雨が降り、西日本や関東甲信と北海道で雨や曇りとなった。南西諸島の一部では大雨となり、中国地方の一部や近畿の一部、東海地方の一部、北陸の一部と北日本の一部では雷を伴った。

18日は、日本海中部の低気圧が北海道の西海上へ進んだ。北陸と北日本で雨が降り、北海道の一部では雷を伴った。沖縄の東海上から日本の東海上にかけて前線が停滞し、前線上の日本の南海上の低気圧は東へ進んで消滅し、前線上の関東の東海上に別の低気圧が発生して三陸沖へ進んだ。伊豆諸島と小笠原諸島で雨が降り、小笠原諸島の一部では大雨となった。その他の地方は概ね晴れた。

19日は、朝鮮半島に低気圧が発生し、日本海中部へ進んだ。北陸の一部と北日本の日本海側で雨が降った。北陸の一部と北日本の一部では雷を伴い、中国地方の一部では強風となった。その他の地方は概ね晴れた。

20日は、日本海中部の低気圧がサハリンの東海上へ進んだ。北陸と北日本で雨が降り、北陸の一部と北海道の一部では雷を伴い、北日本の一部では強風となった。四国から関東にかけては曇りとなった。日本の南海上の台風第20号が沖縄の南海上へ進んだため、南西諸島の一部で曇りとなった。九州は概ね晴れた。

台風第20号が接近、南西諸島と関東が大荒れ（21日～27日）

21日は、サハリンの東海上の低気圧がほとんど停滞し、北陸の一部と北日本で雨が降った。沖縄本島付近から関東の東海上にかけて前線が停滞し、沖縄の南海上の台風第20号が南西へ進んだため、南西諸島で雨が降り、伊豆諸島で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

22日は、沖縄本島付近から日本の東海上にかけて前線が停滞し、沖縄の南海上の台風第20号がほとんど停滞した。南西諸島で雨が降り、西日本の太平洋側や東海地方の一部と関東南部で曇りとなった。上空の気圧の谷の影響で、北陸の一部で雨が降り、北海道で雨や曇りとなった。日本海中部に高気圧があり本州付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

23日は、沖縄本島付近から日本の東海上にかけて前線が停滞し、沖縄の南海上の台風第20号がほとんど停滞した。南西諸島と九州南部地方で雨が降った。南西諸島の一部では大雨となり、一部では強風となった。関東南部の一部で曇りとなった。上空の気圧の谷の影響で、東北北部の一部と北海道で雨が降った。東北地方の高気圧が三陸沖へ移動し、本州付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

24日は、沖縄の南海上の台風第20号が北へ進んだ。南西諸島で雨が降り、一部では大雨となり、雷を伴った。沖縄本島付近から日本の東海上にかけて前線が停滞した。西日本の太平洋側や東海地方と関東南部で雨が降り、西日本の日本海側から東北南部にかけて曇りとなった。九州の一部と伊豆諸島の一部では強風となった。上空の気圧の谷の影響で、北海道の一部と東北北部で雨が降った。

25日は、沖縄の南海上の台風第20号が北東へ進み、沖縄本島付近から日本の東海上にかけて前線が停滞した。南西諸島や九州と四国、近畿南部と東日本の太平洋側で雨が降った。南西諸島の一部と九州南部地方の一部では大雨となり、南西諸島の一部では雷を伴った。南西諸島の一部と伊豆諸島の一部では暴風や強風となり、九州の一部では強風となった。中国地方から東北南部にかけては曇りとなった。北海道の高気圧が北海道の東海上へ移動し、北日本は高気圧に覆われたため、東北北部と北海道は概ね晴れた。

26日は、沖縄本島付近の台風第20号が東海地方の南海上へ進み、日本の南海上から日本の東海上にかけて前線が停滞し、前線上の東海地方の南海上に低気圧が発生して関東の東海上へ進んだ。ほぼ全国的に雨が降り、東海地方の一部や関東甲信の一部と東北地方の一部では大雨となった。南西諸島の一部や九州の一部と関東の一部では暴風や強風となり、四国の一部では強風となった。

27日は、関東の東海上の台風第20号が温帯低気圧に変わって千島近海へ進んだ。山陰や近畿と東日本から北日本にかけて雨が降った。北陸の一部では雷を伴い、北海道の一部では暴風となり、関東の一部では暴風や強風となった。華中の高気圧が対馬海峡へ移動し、九州付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

高気圧に覆われた後低気圧が日本海を通過（28日～31日）

28日は、千島近海の低気圧がカムチャツカの東海上へ進んだ。北海道の一部で雨が降った。大気の状態が不安定となった影響で、北陸の一部で雨が降った。対馬海峡の高気圧が三陸沖へ移動し、日本付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

29日は、中国東北区の低気圧が前線を伴ってサハリンの西海上へ進んだため、北海道の一部で雨が降り、一部では雷を伴った。湿った空気の影響で、関東南部で雨や曇りとなった。三陸沖の高気圧が東へ移動し、日本付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

30日は、サハリンの西海上の低気圧が千島近海へ進み、伴う前線が北日本を通過した。北日本で雨が降り、北海道の一部では雪が降った。北日本の一部では雷を伴い、北海道の一部では強風となった。弱い気圧の谷の影響で、南西諸島の一部と西日本の一部で曇りとなった。本州付近に高気圧があり、日本付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

31日は、華北の低気圧が前線を伴って朝鮮半島へ進んで消滅し、前線上の日本海中部に別の低気圧が発生して北東へ進んだため、北海道で雪や雨が降った。湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降り、関東南部から東北地方の太平洋側にかけて曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

11月

前線が通過後、寒気が流入（1日～3日）

1日は、北海道の低気圧が千島の東海上へ進み、伴う前線が沖縄から本州まで通過した。前線上の四国で低気圧が発生して東海地方の南海上へ進んだ。ほぼ全国的に雨が降り、九州南部地方の一部では大雨となった。九州の一部では雷を伴い、南西諸島の一部や九州の一部、関東の一部と北海道の一部では強風となった。

2日は、千島の東海上の低気圧が北東へ進んだ。伴う前線上の東海地方の南海上の低気圧は日本の東海上へ進み、前線上の日本の東海上に別の低気圧が発生した。また、関東の南海上に別の低気圧が発生して東へ進んだ。日本付近は冬型の気圧配置（以下、冬型と略す。）となり、東日本と北日本で雨や雪が降り、南西諸島や九州北部の一部、四国、中国地方と近畿で雨が降った。中国地方の一部では雷を伴い、南西諸島の一部や西日本の一部と東日本の一部では強風となった。

3日は、上空の寒気の影響で、北海道の日本海側で雪が降り、東海地方の一部や北陸、関東甲信の一部と東北地方で雪や雨が降り、九州北部の一部や四国の一部、中国地方と近畿で雨が降った。南西諸島で曇りとなった。南西諸島の一部や九州の一部と東日本の一部では強風となった。九州南部地方は概ね晴れた。

気圧の谷が通過後、高気圧に覆われる（4日～9日）

4日は、上空の気圧の谷の影響で、東北北部と北海道で雨が降り、北海道の一部では強風となった。湿った空気の影響で、南西諸島で雨や曇りとなり、関東南部の一部で曇りとなった。九州の高気圧が四国沖へ移動し、日本付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

5日は、上空の気圧の谷の影響で、北日本で雨が降り、一部では雷を伴った。南西諸島と北陸で雨や曇りとなり、その他の地方で曇りとなった。

6日は、大気の状態が不安定となったため、先島諸島と東北地方の一部で雨が降り、湿った空気の影響で、九州で曇りとなった。近畿の高気圧が三陸沖へ移動したため、その他の地方は概ね晴れた。

7日は、湿った空気の影響で、先島諸島で雨が降った。日本付近は引き続き高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

8日は、沿海州の低気圧が北東へ進み、伴う前線が北海道の西海上を東へ進んだ。北陸や関東と北日本で曇りとなった。大気の状態が不安定となったため、九州で雨が降り、南西諸島で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

9日は、前線が北海道を通過したため、北日本で雨が降り、北海道の一部では雷を伴った。大気の状態が不安定となったため、南西諸島で雨が降り、西日本で雨や曇りとなり、東海地方の一部と北陸で曇りとなった。関東甲信は概ね晴れた。

日本南岸を低気圧が次々と通過（10日～15日）

10日は、華中の低気圧が九州の西海上へ進んで前線から離れ、前線上の九州に別の低気圧が発生した。南西諸島から東日本にかけて雨が降った。九州の一部と四国の一部では大雨となり、南西諸島の一部と九州の一部では雷を伴った。四国の一部では暴風となり、九州の一部では強風となった。上空の寒気の影響で、東北地方と北海道では雨や雪が降った。

11日は、九州の低気圧が前線を伴って三陸沖へ進み、九州の西海上の低気圧が南東へ進んだ。北海道で雨や雪が降り、南西諸島から東北地方にかけて雨が降った。西日本の一部や東海地方の一部と関東甲信の一部では大雨となり、南西諸島の一部と西日本の一部では雷を伴った。九州の一部では暴風や強風となり、四国の一部や近畿の一部、東海地方の一部と関東の一部では強風となった。

12日は、三陸沖の低気圧が千島の東海上へ進み、九州の南海上の低気圧が日本の南海上へ進んだ。北海道の一部で雪や曇りとなり、西日本から東北地方にかけて雨や曇りとなった。伊豆諸島の一部では暴風となり、九州の一部や四国の一部、東海地方の一部と関東の一部では強風となった。東シナ海に低気圧が発生し、南西諸島の一部で雨が降った。

13日は、東シナ海の低気圧が九州へ進み、伴う前線が沖縄の南海上から関東の東海上までのびた。能登沖に低気圧が発生した。北海道で雪や曇りとなり、南西諸島と西日本で雨が降り、東日本と東北地方で雨や曇りとなった。西日本の一部と伊豆諸島の一部では大雨となり、九州の一部では雷を伴った。伊豆諸島の一部では暴風となり、九州の一部と四国の一部は強風となった。

14日は、能登沖の低気圧が網走沖へ進み、九州から北東へ進んだ別の低気圧に伴う前線と一体となった。伴う前線は日本の南海上までのびた。日本海西部に低気圧が発生し、日本海中部へ進んだ。北海道で雪や雨が降り、南西諸島から東北地方にかけて雨が降った。東海地方の一部と北日本の一部では大雨となり、南西諸島の一部や四国の一部、近畿の一部と関東の一部では雷を伴った。四国の一部では暴風となり、南西諸島の一部や九州の一部、東日本の一部と北日本の一部では強風となった。

15日は、網走沖の低気圧がサハリンの東海上へ進み、日本海中部の低気圧が北海道へ進んだ。北陸と北日本で雨が降り、一部では雷を伴い、一部では暴風や強風となった。上空の気圧の谷の影響で、南西諸島で雨や曇りとなり、西日本で曇りとなった。東海地方と関東甲信は概ね晴れた。

低気圧が通過後、寒気が流入（16日～22日）

16日は、北海道の低気圧は消滅し、サハリンの東海上の低気圧が北東へ進んで、日本付近は冬型となった。北海道で雪や雨が降り、東北地方で雨が降った。北陸で雨や曇りとなり、近畿から関東にかけて曇りとなった。北陸の一部と北海道の一部では強風となった。華南から沖縄本島付近まで前線が停滞し、前線上の沖縄本島付近に低気圧が発生した。南西諸島や九州と四国で雨が降り、中国地方で雨や曇りとなった。

17日は、沖縄本島付近の低気圧が前線を伴って関東の東海上へ進んだ。関東甲信で雪や雨が降り、南西諸島や西日本、東海地方、北陸と東北地方で雨が降った。九州南部地方の一部では大雨となり、南西諸島の一部と九州の一部では強風となった。上空の寒気の影響で、北海道は雪や曇りとなった。

18日は、関東の東海上の低気圧が前線を伴って千島の東海上へ進み、日本付近は冬型となった。北海道で雪が降り、東北地方で雪や雨となった。南西諸島の一部や四国の一部、中国地方の一部、近畿の一部、東海地方の一部、北陸と関東甲信の一部で雨が降った。九州の一部と関東の一部では強風となった。九州は概ね晴れた。

19日は、上空の寒気の影響で、北海道で雪が降り、一部では強風となった。日本海西部で低気圧が発生し、三陸沖へ進んだため、東北地方で雪や雨が降り、北陸で雨が降った。関東の南海上で低気圧が発生し、東へ進んだ。関東南部で雨が降り、東海地方や甲信地方と関東北部で曇りとなった。湿った空気の影響で、南西諸島で雨や曇りとなり、西日本で曇りとなった。

20日は、上空の寒気の影響で、北海道で雪が降った。日本海西部に低気圧が発生し、東へ進んだため、北陸で雨が降った。三陸沖の低気圧が北東へ進んだ。東北地方で雨や曇りとなり、一部で雪が降った。関東の東海上の低気圧が東へ進み、関東の一部で雨や曇りとなった。湿った空気の影響で、南西諸島と九州で雨や曇りとなり、四国や中国地方と近畿で曇りとなった。南西諸島の一部では強風となった。その他の地方は概ね晴れた。

21日は、サハリン付近に低気圧が発生してサハリンの東海上へ進み、秋田沖の低気圧が北海道の東海上へ進み、関東の東海上の低気圧が日本の東海上へ進んで、日本付近は冬型となった。北海道で雪が降り、東北地方で雪や雨が降った。山陰から北陸にかけて雨が降り、九州や四国と山陽で曇りとなった。北陸の一部と東北地方の一部では雷を伴い、北陸の一部と北海道の一部では強風となった。湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降り、一部で強風となった。その他の地方は概ね晴れた。

22日は、関東の南海上で低気圧が発生して北東へ進み、伴う前線が沖縄の南海上までのびて停滞した。東北地方の一部で雨や雪が降り、南西諸島や西日本、東海地方と北陸で雨が降り、関東甲信で雨や曇りとなった。上空の寒気の影響で、北海道の一部で雪が降った。

気圧の谷や低気圧が通過（23日～26日）

23日は、気圧の谷の影響で、北日本で雪や雨が降り、北陸の一部で雨が降った。関東の東海上の低気圧が前線を伴って日本の東海上へ進んだ。南西諸島や西日本の太平洋側と関東南部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

24日は、東シナ海から四国沖まで前線が停滞し、前線上の四国沖に低気圧が発生した。南西諸島と西日本で雨が降り、東日本で雨や曇りとなり、東北部で曇りとなった。南西諸島の一部と九州南部地方の一部では大雨となった。上空の気圧の谷の影響で、北海道の一部では雪が降った。日本海中部の高気圧が三陸沖へ移動し、東北北部は概ね晴れた。

25日は、四国沖の低気圧が前線を伴って日本の東海上へ進んだ。南西諸島の一部や東日本と東北南部で雨が降った。西日本は雨や曇りとなった。北陸の一部では雷を伴った。上空の気圧の谷の影響で、北海道の一部で雪が降った。その他の地方は概ね晴れた。

26日は、秋田沖に低気圧が発生して三陸沖へ進み、日本海西部で低気圧が発生した。北海道の一部で雪や雨が降り、北陸の一部や関東の一部と東北地方の一部で雨が降った。北陸の一部では雷を伴い、伊豆諸島の一部では強風となった。その他の地方は概ね晴れた。

低気圧が通過後、寒気が流れ込む（27日～30日）

27日は、日本海西部の低気圧が前線を伴って釧路沖へ進み、サハリンの西海上で低気圧が発生してサハリンの東海上へ進んだ。北海道で雪や雨が降り、北陸と東北地方で雨が降った。北日本の一部では雷を伴った。四国と中国地方から関東にかけて曇りとなった。湿った空気の影響で、南西諸島と九州で雨や曇りとなった。

28日は、釧路沖の低気圧が千島の東海上へ進み、日本付近は冬型となった。北日本で雪や雨が降り、北陸と甲信地方の一部で雨が降った。中国地方と近畿で雨や曇りとなり、四国の一部で曇りとなった。湿った空気の影響で、南西諸島で雨や曇りとなった。日本の南海上の台風第22号の影響で、小笠原諸島で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

29日は、上空の寒気の影響で、北海道の一部で雪が降り、関東甲信で雪や雨が降り、南西諸島の一部や東海地方と北陸で雨が降り、西日本は雨や曇りとなった。東北地方は曇りとなった。伊豆諸島の一部では強風となった。日本の南海上の台風第22号の影響で、小笠原諸島で雨が降った。

30日は、関東の南海上に低気圧が発生して北東へ進み、日本海西部の低気圧が東へ進んだ。上空の寒気の影響で、北海道の一部で雪が降り、東日本で雪や雨が降った。九州や近畿と東北南部で雨や曇りとなり、南西諸島で曇りとなった。

12月

低気圧が通過後、冬型の気圧配置となる（1日～7日）

1日は、沿海州の低気圧がサハリンの東海上へ進み、北海道で雪や曇りとなった。日本海中部の低気圧が東へ進んだ。九州から東北地方にかけての日本海側の一部で雨が降り、北陸の一部では雷を伴った。湿った空気の影響で、南西諸島と伊豆諸島で曇りとなった。南西諸島の一部や九州の一部と関東の一部では強風となった。その他の地方は概ね晴れた。

2日は、日本海中部の低気圧は消滅し、上空の寒気の影響で、北海道で雪や曇りとなり、東北地方の日本海側で雪や雨となった。湿った空気の影響で、南西諸島や九州南部地方と小笠原諸島で雨が降った。南西諸島の一部や西日本の一部と東日本の一部では強風となった。その他の地方は概ね晴れた。

3日は、日本の南海上に低気圧が発生し、前線を伴って日本の東海上へ進んだ。四国や中国地方、近畿、東日本と東北地方で雨が降り、九州は雨や曇りとなった。中国地方の一部や近畿の一部と北陸の一部では雷を伴った。南西諸島の一部や九州の一部と東日本の一部では強風となった。上空の気圧の谷の影響で、北海道では雪や曇りとなった。

4日は、上空の気圧の谷の影響で、北海道の一部で雪が降り、東北地方で雪や雨が降った。中国地方や近畿、北陸、関東北部と甲信地方で雨が降った。近畿の一部では雷を伴った。北海道の一部では強風となった。日本の東海上の低気圧が北東へ進み、伴う前線が日本の南海上までのび、関東南部と伊豆諸島で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

5日は、朝鮮半島の低気圧が前線を伴って日本海中部へ進み、東海地方の南海上に低気圧が発生して関東の南海上へ進んだ。関東甲信と北日本で雪や雨が降り、九州や四国の一部、中国地方、近畿、東海地方と北陸で雨が降った。北陸の一部と関東の一部では雷を伴った。南西諸島は曇りとなった。

6日は、日本海中部の低気圧がサハリンの西海上へ進み、関東の東海上の低気圧が北海道の東海上へ

進んだ。日本付近は冬型の気圧配置（以下、冬型と略す。）となり、北日本で雪や雨が降り、北陸で雨が降った。南西諸島と西日本は曇りとなった。北海道の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

7日は、サハリンの西海上の低気圧が千島近海へ進み、日本付近は引き続き冬型となった。北海道で雪が降り、北陸と東北地方で雪や雨が降った。近畿は雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

高気圧に覆われた後、低気圧が通過（8日～12日）

8日は、上空の寒気の影響で、東北地方の一部と北海道で雪が降った。北陸は曇った。日本海中部の高気圧が三陸沖へ移動し、日本付近は高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

9日は、華中の低気圧が黄海へ進み、華中から九州の南海上にかけて前線が停滞した。九州で雨が降り、中国地方と北陸で雨や曇りとなり、四国と近畿で曇りとなった。関東の南海上に低気圧が発生し、東へ進んだ。関東甲信で雨や曇りとなり、東海地方で曇りとなった。上空の寒気の影響で、北海道で雪が降り、東北地方で雪や雨が降った。南西諸島は概ね晴れた。

10日は、黄海の低気圧が対馬海峡へ進み、東シナ海から九州の南海上へのびる前線上の九州の西海上に低気圧が発生して東へ進んだ。南西諸島の一部や西日本で雨が降り、東海地方で雨や曇りとなった。奄美の一部では大雨となった。四国の一部では暴風となり、九州の一部では強風となった。上空の寒気の影響で、関東甲信の一部と北海道の一部では雪が降った。その他の地方は概ね晴れた。

11日は、対馬海峡の低気圧が山陰沖に進んで消滅し、別の低気圧が日本海中部に発生した。また、九州の西海上の低気圧が前線を伴って関東の南海上へ進んだ。北海道の一部で雪が降り、関東甲信で雨や雪が降った。南西諸島や西日本、東海地方、北陸と東北地方で雨が降り、四国の一部や近畿の一部、東海地方の一部と関東甲信の一部では大雨となった。南西諸島の一部では雷を伴い、九州の一部や四国の一部では暴風や強風となり、近畿の一部や東海地方の一部と関東の一部では強風となった。

12日は、日本海中部の低気圧が釧路沖へ進み、サハリンに低気圧が発生した。また、関東の南海上の低気圧が東へ進んで消滅し、別の低気圧が関東の東海上に発生して東へ進んだ。北海道で雪や雨が降り、南西諸島の一部や中国地方、近畿、北陸、関東と東北地方で雨が降った。北海道の一部では大雨となった。東北地方の一部では雷を伴った。九州の一部や四国の一部と東日本の一部では強風となった。伊豆諸島の一部では暴風となった。その他の地方は概ね曇った。

冬型の気圧配置が続く（13日～21日）

13日は、釧路沖の低気圧が千島近海へ進み、サハリンの低気圧がサハリンの東海上へ進んで、日本付近は冬型となった。北海道で雪が降り、東北地方では雪や雨が降った。北陸と関東甲信で雨や曇りとなり、一部では雪が降った。伊豆諸島の一部では暴風や強風となった。東海地方では曇りとなった。日本海西部に低気圧が発生した。西日本で雨や曇りとなった。九州の一部と四国の一部では強風となった。湿った空気の影響で、南西諸島で雨や曇りとなった。

14日は、日本付近は引き続き冬型となり、北海道で雪が降り、北陸や甲信地方と東北地方で雪や雨が降り、中国地方と近畿北部で雨が降った。北陸の一部では雷を伴った。四国の一部では暴風となり、九州の一部と北日本の一部では強風となった。日本海西部の低気圧が消滅し、関東の南海上に低気圧が発生して東へ進んだ。関東南部で雨が降り、東日本の一部では強風となった。湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降り、一部では強風となった。その他の地方は概ね晴れた。

15日は、日本付近は引き続き冬型となり、東海地方の一部や甲信地方の一部と北日本で雪が降り、北陸で雪や雨が降った。四国や中国地方と近畿で雨や曇りとなった。北陸の一部では暴風となり、東北地方の一部では暴風や強風となり、北海道の一部では強風となった。先島諸島付近に低気圧が発生し、前線を伴って沖縄本島付近へ進んだ。南西諸島と九州で雨が降り、南西諸島の一部では大雨となった。関東の東海上に低気圧が発生した。関東は曇りとなった。

16日は、日本付近は引き続き冬型となり、北日本で雪が降り、中国地方と北陸で雪や雨が降り、東海地方で雪や曇りとなり、近畿北部で雨が降った。関東甲信は曇りとなった。北陸の一部では雷を伴い、北陸の一部と北海道の一部では強風となった。沖縄の南海上から日本の南海上へのびる前線上の沖縄本島付近の低気圧が北東へ進んで消滅し、前線上の四国の南海上に別の低気圧が発生して関東の東海上へ進んだ。南西諸島や九州、四国、近畿南部と伊豆諸島で雨が降った。

17日は、日本海中部に低気圧が発生して東北地方へ進んだ。日本付近は引き続き冬型となり、北日本で雪が降り、九州や四国、中国地方、近畿北部、東海地方の一部、北陸と甲信地方の一部で雪や雨が降った。関東の一部で雨や曇りとなった。北陸の一部では雷を伴い、九州の一部では強風となった。

湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降り、一部では強風となった。

18日は、東北地方の低気圧が三陸沖へ進み、釧路沖に低気圧が発生した。日本付近は引き続き冬型となり、北日本で雪が降り、西日本や東海地方の一部、北陸と関東甲信の一部で雪や雨が降った。中国地方の一部や近畿の一部と北陸の一部では雷を伴い、九州の一部と関東の一部では強風となった。湿った空気の影響で、南西諸島で雨が降った。

19日は、釧路沖の低気圧が千島近海へ進んで消滅し、北海道に低気圧が発生した。日本付近は引き続き冬型となった。北日本で雪が降り、西日本や東海地方の一部、北陸と関東甲信の一部で雪や雨が降った。近畿の一部と北陸の一部では雷を伴った。北海道の一部では強風となった。湿った空気の影響で、南西諸島で雨や曇りとなった。

20日は、北海道の低気圧が北海道の西海上へ進み、日本海中部に低気圧が発生して三陸沖へ進んだ。日本の南海上から関東の東海上にかけて前線が発生した。北日本で雪が降り、西日本や東海地方の一部、北陸と甲信地方の一部で雪や雨が降った。近畿の一部と北陸の一部では雷を伴った。湿った空気の影響で、南西諸島で曇りとなり、一部では強風となった。関東は概ね晴れた。

21日は、三陸沖の低気圧が千島近海へ進み、北海道の西海上の低気圧は消滅した。日本の南海上から三陸沖にかけてのびる前線上の三陸沖に低気圧が発生して千島の東海上へ進んだ。日本付近は引き続き冬型の気圧配置が続き、北日本で雪が降り、西日本と北陸で雪や雨が降った。関東甲信で雪や晴れとなった。南西諸島は曇りとなった。近畿の一部と北日本の一部では雷を伴い、南西諸島の一部や北陸の一部と北海道の一部では強風となった。東海地方は概ね晴れた。

高気圧に覆われた後、前線が本州南岸に停滞（22日～25日）

22日は、千島近海の低気圧が東へ進み、日本海西部に低気圧が発生した。上空の寒気の影響で、北海道で雪が降り、北陸と東北地方で雪や雨が降った。九州北部と中国地方は曇りとなった。北陸の一部では雷を伴った。東シナ海の高気圧が日本の南海上へ移動し、西日本を中心に高気圧に覆われたため、その他の地方は概ね晴れた。

23日は、日本海西部の低気圧が三陸沖へ進み、伴う前線が北陸までのびた。東シナ海に低気圧が発生した。北海道で雪が降り、九州北部や中国地方、近畿、東海地方の一部と北陸で雪や雨が降った。北陸の一部では雷を伴った。その他の地方は概ね晴れた。

24日は、三陸沖の低気圧が前線を伴って東へ進み、北日本は冬型となった。北海道で雪が降り、北陸で雪や雨が降った。近畿北部で雨が降った。東シナ海の低気圧が前線を伴って四国の南海上へ進み、前線が東シナ海から関東の南海上までのびて停滞した。南西諸島と九州南部地方で雨が降り、九州北部や四国と近畿南部で曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

25日は、四国の南海上の低気圧が東へ進み、伴う前線が東シナ海から日本の東海上までのび、前線上の四国の南海上に別の低気圧が発生した。朝鮮半島の低気圧が前線を伴って日本海中部へ進んだ。南西諸島と西日本で雨が降った。南西諸島の一部では大雨となり、一部では雷を伴った。上空の寒気の影響で、東日本の一部と北日本の一部では雪が降った。その他の地方は概ね晴れた。

低気圧が本州南岸や日本海を次々と通過（26日～31日）

26日は、日本海中部の低気圧が北海道へ進み、伴う前線が中国地方から東北地方を通過した。北海道で雪が降り、東海地方や北陸、甲信地方の一部と東北地方で雪や雨が降った。近畿で雨が降った。九州北部や中国地方、四国の一部と関東の一部では曇りとなった。四国の南海上の低気圧が前線を伴って関東の東海上へ進んだ。南西諸島や九州南部地方と伊豆諸島で雨が降った。伊豆諸島の一部では強風となった。

27日は、北海道の低気圧が消滅し、北海道の東海上に別の低気圧が発生して東へ進んだ。日本海西部に低気圧が発生して日本海中部へ進んだ。北海道で雪が降り、北陸と東北地方で雪や雨が降った。九州と関東南部の一部で雨が降り、南西諸島で雨や曇りとなった。その他の地方は概ね晴れた。

28日は、日本海中部の低気圧が北海道の西海上へ進んだ。関東の南海上に低気圧が発生し、前線を伴って北海道の東海上へ進んだ。北海道で雪が降り、九州や中国地方、東日本と東北地方で雪や雨が降り、南西諸島や四国と近畿で雨が降った。北陸の一部と関東の一部では雷を伴った。

29日は、北海道の西海上の低気圧が北へ進み、北海道の東海上の低気圧が千島の東海上へ進んだ。北陸や東北地方の日本海側と北海道で雪が降った。伊豆諸島の一部では強風となった。華北の低気圧が前線を伴って朝鮮半島へ進んだ。中国地方の一部で雪や曇りとなった。九州北部の一部で曇りとなった。湿った空気の影響で南西諸島の一部で雨が降った。その他の地方は概ね晴れた。

30日は、朝鮮半島の低気圧が前線を伴って北海道の西海上へ進み、伴う前線が九州から東北地方を通過した。北日本で雪が降り、九州や中国地方と関東の一部で雪や雨が降った。四国や近畿と東海地方、北陸と伊豆諸島で雨が降った。東北地方の一部では雷を伴った。沖縄の南海上から日本の南海上にかけて前線が発生し、前線上の日本の南海上に低気圧が発生して東へ進んだ。南西諸島と小笠原諸島で雨が降った。

31日は、北海道の西海上の低気圧が前線から離れて網走沖へ進み、前線が千島近海から日本の東海上までのびた。九州北部や中国地方、近畿北部、東海地方の一部、北陸、関東甲信の一部と北日本で雪が降った。九州南部地方や四国、近畿南部と伊豆諸島で雨が降った。中国地方の一部や北陸の一部と東北地方の一部では雷を伴った。